

注3

大学番号：私111

[平成30年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

日本工業大学 基幹工学部
機械工学科・電気電子通信工学科・応用化学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 日本工業大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教務部 教務課

職名・氏名 課長補佐 アナイ マサヒロ 穴井 正洋

電話番号 0480-34-4111

（夜間） 0480-34-4111

F A X 0480-33-7527

e-mail kyomu@nit.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

基幹工学部

<機械工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	38

<電気電子通信工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	43
2. 授業科目の概要	47
3. 施設・設備の整備状況、経費	56
4. 既設大学等の状況	57
5. 教員組織の状況	59
6. 附帯事項等に対する履行状況等	77
7. その他全般的事項	78

<応用化学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	83
2. 授業科目の概要	87
3. 施設・設備の整備状況、経費	95
4. 既設大学等の状況	96
5. 教員組織の状況	98
6. 附帯事項等に対する履行状況等	115
7. その他全般的事項	116

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 日本工業大学

(2) 大学名

日本工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒345-8501

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤナギサワ アキラ) 柳澤 章 (平成25年7月)		
学長	(ナリタ ケンイチ) 成田 健一 (平成27年12月)		
学部長	(タケウチ サダオ) 竹内 貞雄 (平成30年4月)		
学科長等	(ナカノ ミチオ) 中野 道王 (平成30年4月)		平成30年4月より、役職名称を「学科主任」から「学科長」に変更(30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
基幹工学部 機械学科 学士(学士)	工学関係	年 4	人 200	年次 人 -	人 800	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	200 (—) [—]	— (—) [—]	200 (—) [—]	— (—) [—]	1.12倍	一倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	654 (—) [6]	2 (1) [2]	787 (—) [8]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	641 (—) [5]	2 (1) [2]	773 (—) [8]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	501 (—) [3]	2 (1) [2]	464 (—) [5]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	234 (—) [2]	2 (1) [2]	214 (—) [3]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		1.18		1.07				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	211 [2] (—)	3 [2] (—)	244 [3] (30)	2 [2] (—)	平成30年度9月に編入学生1名あり。					
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	181 [2] (—)	1 [0] (—)					
3年次	/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次	/		/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	214 [4] (—)	4 [—] (—)	428 [7] (30)	7 [—] (—)						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	234 人	23 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	23 人	0 人	就学意欲の低下(9人)、他の教育機関に転学(7人)、就職(3人)、学生個人の心身に関する事情(2人)、家庭の事情(1人)、除籍(1人)
令和元年度	428 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		23 人		23 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{23}{234} = \boxed{9.82} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{428} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<基幹工学部 機械工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目(学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春	1								2
	スタディスキルズ II	1秋	1								2
	学修と実工学 I	1春	1								7
	学修と実工学 II	1秋	1								7
	日本語リテラシー基礎 I	1春	1								4
	日本語リテラシー基礎 II	1秋	1								4
	キャリアデザイン I	2春	2								5
	キャリアデザイン II	2秋	2								5
	ものづくり基礎実習 I	1春	1				1				6
	ものづくり基礎実習 II	1秋	1								3
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
	新会社設立と技術経営	3秋	2								1
	日本での生活と学習	1春・秋	1								1
日本事情 I	1春	2								1	
日本事情 II	1秋	2								1	
共通教育科目(教養コア科目)	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								3
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								3
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								1
	健康とスポーツ I	1春・秋	1								2
健康とスポーツ II	2春・秋	1								2	
共通教育科目(教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
共通教育科目(言語系科目)	基礎英語 I	1春	1								5
	基礎英語 II	1春・秋	1								14
	リーディングスキル I	1春・秋	1								16
	リーディングスキル II	1春・秋	1								16
	英会話 I	1秋・2春	1								17
	英会話 II	2秋	1								7
	上級英語 I	2・3春	1								13
	上級英語 II	2・3秋	1								13
	プレゼンテーション I	1春・秋	1								18
	プレゼンテーション II	2・3秋	1								18

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目(学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春	1								5
	スタディスキルズ II	1秋	1								5
	学修と実工学 I	1春	1								8
	学修と実工学 II	1秋	1								8
	日本語リテラシー基礎 I	1春	1								5
	日本語リテラシー基礎 II	1秋	1								5
	キャリアデザイン I	2春	2								6
	キャリアデザイン II	2秋	2								6
	ものづくり基礎実習 I	1春	1								9
	ものづくり基礎実習 II	1秋	1								4
	現代社会の諸問題	2春・秋	2					1			2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
	新会社設立と技術経営	3秋	2								1
	日本での生活と学習	1春・秋	1								1
日本事情 I	1春	2								1	
日本事情 II	1秋	2								1	
共通教育科目(教養コア科目)	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								2
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								2
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								4
	健康とスポーツ I	1春・秋	1								5
健康とスポーツ II	2春・秋	1								5	
Focus on Inter-Cultural Communication	1春・秋	2								1	
共通教育科目(教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
Focus on Cross-Cultural Understanding	2春	2								2	
共通教育科目(言語系科目)	基礎英語 I	1春	1								12
	基礎英語 II	1春・秋	1								16
	リーディングスキル I	1春・秋	1								17
	リーディングスキル II	1春・秋	1								17
	英会話 I	1秋・2春	1								20
	英会話 II	2秋	1								14
	上級英語 I	2・3春	1								16
	上級英語 II	2・3秋	1								16
	プレゼンテーション I	1春・秋	1								19
	プレゼンテーション II	2・3秋	1								19
海外英語セミナー	2秋	2								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目(言語系科目)	日本語表現Ⅰ	1春	1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋	1								1
	日本語Ⅰ	1春	1								1
	日本語Ⅱ	1秋	1								1
	日本語Ⅲ	2春	1								1
	日本語Ⅳ	2秋	1								1
共通教育科目(理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								6
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								9
	数学	1春・秋	2								7
	応用解析	1春・秋	2								6
	確率論	1秋・2春	2								1
	統計学	1秋・2春	2								1
	工学基礎物理	1春・秋	2								6
	物理Ⅰ	1春・秋	2								7
	物理Ⅱ	1春・秋	2								6
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								3
	化学Ⅰ	1春	2								2
化学Ⅱ	1春	2								2	
共通教育科目(環境系科目)	エコ入門	1春・秋	2								2
	環境と科学技術	1秋	2								2
	地球環境と人間社会	2春	2								4
	環境の社会学	2春	2								2
	地球システムのしくみ	2秋	2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春	2								1
小計(72科目)	-										
専門科目(専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								1
	線形代数Ⅰ	2・3春	2								1
	代数学Ⅰ	2・3春	2								1
	幾何学Ⅰ	2・3春	2								1
	解析学Ⅰ	2・3春	2								1
	応用数学Ⅰ	3春	2								1
	線形代数Ⅱ	2・3秋	2								1
	代数学Ⅱ	2・3秋	2								1
	幾何学Ⅱ	2・3秋	2								1
	解析学Ⅱ	2・3秋	2								1
応用数学Ⅱ	3秋	2								1	
専門科目(学科専門科目)	フレッシュマンゼミ	1春	1			5	6	1			
	機械工作実習	1春・秋	2			1					3
	機械CAD	1春・秋	2			1					
	機械材料1	1春	2			1					
	機械材料2	1秋	2			1	1				
	電気工学基礎	1秋	2				1				
	機械ものづくり概論	1秋	2			10	7	1			1
	機械要素・製図基礎	1春	2			1	1				3
	実用機械製図	1秋	2			2					3
	材料力学1	2春	2			1	1				
	材料力学2	2秋	2			1	1				
	機械力学1	2春	2			1		1			
	機械力学2	2秋	2			1		1			
	熱と流体の力学	2春	2				1				1
	熱力学	2秋	2			1					
	流体力学	2秋	2				1				1
	電子工学基礎	2春	2				1				
	メカトロニクス	2春	2				1				
デザイン表現技法	2春	2			1						
機械設計1	2春	2			1					3	
機械工学実験1	2春	2			4	7	1				
機械工学実験2	2秋	2			5	6	1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目(言語系科目)	日本語表現Ⅰ	1春	1									1
	日本語表現Ⅱ	1秋	1									1
	日本語Ⅰ	1春	1									1
	日本語Ⅱ	1秋	1									1
	日本語Ⅲ	2春	1									1
	日本語Ⅳ	2秋	1									1
共通教育科目(理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1									11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1									11
	数学	1春・秋	2									11
	応用解析	1春・秋	2									11
	確率論	1秋・2春	2									2
	統計学	1秋・2春	2									2
	工学基礎物理	1春・秋	2									10
	物理Ⅰ	1春・秋	2									10
	物理Ⅱ	1春・秋	2									10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1									8
	化学Ⅰ	1春	2									6
化学Ⅱ	1春	2									6	
共通教育科目(環境系科目)	エコ入門	1春・秋	2									4
	環境と科学技術	1秋	2									3
	地球環境と人間社会	2春	2									4
	環境の社会学	2春	2									2
	地球システムのしくみ	2秋	2									1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春	2									1
小計(75科目)	-											
専門科目(専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2									4
	線形代数Ⅰ	2・3春	2									2
	代数学Ⅰ	2・3春	2									1
	幾何学Ⅰ	2・3春	2									2
	解析学Ⅰ	2・3春	2									2
	応用数学Ⅰ	3春	2									2
	線形代数Ⅱ	2・3秋	2									2
	代数学Ⅱ	2・3秋	2									1
	幾何学Ⅱ	2・3秋	2									2
	解析学Ⅱ	2・3秋	2									2
応用数学Ⅱ	3秋	2									1	
専門科目(学科専門科目)	フレッシュマンゼミ	1春	1					6	4	1	1	1
	機械工作実習	1春・秋	2					1				3
	機械CAD	1春・秋	2					1				
	機械材料1	1春	2					1				
	機械材料2	1秋	2					1	1			
	電気工学基礎	1秋	2						1			
	機械ものづくり概論	1秋	2					11	5	1	1	1
	機械要素・製図基礎	1春	2					2	0		1	3
	実用機械製図	1秋	2					2			1	3
	材料力学1	2春	2					1	1			
	材料力学2	2秋	2					1	1			
	機械力学1	2春	2					1		1		
	機械力学2	2秋	2					1		1		
	熱と流体の力学	2春	2					1	1			0
	熱力学	2秋	2					1				1
	流体力学	2秋	2						1			1
	電子工学基礎	2春	2						1			
	メカトロニクス	2春	2						1			
デザイン表現技法	2春	2					1					
機械設計1	2春	2					1				2	
機械工学実験1	2春	2					5	5	1			
機械工学実験2	2秋	2					7	4	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)	機械の研究	2秋	2			10	7	1			1	
	機械総合演習1	2秋		2		5	1				1	
	倫理と技術	2秋		2							1	
	マーケティング概論	2秋		2							1	
	デザイン概論	2秋		2							1	
	制御工学	3春		2			1					
	機械設計2	3春		2		1						
	機械総合演習2	3春		2		4	1				1	
	インターンシップ	3春		2							1	
	資源環境論	3春		2							1	
	材料分析	3春		2			1					
	固体力学	3春		2			1					
	機械加工	3春		2		1						
	塑性加工	3春		2		1						
	人間工学	3春		2		1						
	応用流体力学	3春		2			1					
	振動工学	3春		2				1				
	メカトロニクス制御	3春		2		1						
	機械技術史	3春		2								1
	環境とエネルギー	3春		2		1						
	研究分野ゼミ	3秋	1			10	7	1			1	
	CAD/CAM/CAE	3秋		2		1						
	溶融加工	3秋		2		1						
	特殊加工	3秋		2		1						
	プラスチック成形加工	3秋		2		1						
	内燃機関	3秋		2		1						
	伝熱工学	3秋		2			1					
	計測工学	3秋		2			1					
	ロボット工学	3秋		2			1					
	マイクロマシン	3秋		2			1					
	知的財産管理	3秋		2								1
	品質管理	3秋		2								1
	Intro. To Manuf. Eng	3秋		2								1
	ソフトウェア基礎	3秋		2								1
	工業デザイン	3秋		2								1
	卒業研究 I	4春	4			10	7	1			1	
	卒業研究 II	4秋	4			10	7	1			1	
	物理体感工房 I	1春		1							4	
	物理体感工房 II	1秋		1							4	
	物理体感工房 III	2春		1							4	
物理体感工房 IV	2秋		1							4		
機械加工工房 I	1春		1		1						1	
機械加工工房 II	1秋		1		1						1	
機械加工工房 III	2春		1		1					1		
機械加工工房 IV	2秋		1		1					1		
機械加工工房 V	3春		1		1					1		
機械加工工房 VI	3秋		1		1					1		
フォーミュラ工房 I	1春		1		1					1		
フォーミュラ工房 II	1秋		1		1					1		
フォーミュラ工房 III	2春		1		1					1		
フォーミュラ工房 IV	2秋		1		1					1		
フォーミュラ工房 V	3春		1		1					1		
フォーミュラ工房 VI	3秋		1		1					1		
モノ創りデザイン工房 I	2春		1		1					2		
モノ創りデザイン工房 II	2秋		1		1					2		
モノ創りデザイン工房 III	3春		1		1					2		
モノ創りデザイン工房 IV	3秋		1		1					2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)	機械の研究	2秋	2				11	5	1	1		1
	機械総合演習1	2秋		2		5	1					1
	倫理と技術	2秋		2								1
	マーケティング概論	2秋		2								1
	デザイン概論	2秋		2								1
	制御工学	3春		2			1					
	機械設計2	3春		2		1						
	機械総合演習2	3春		2		4	1				1	
	インターンシップ	3春		2							1	
	資源環境論	3春		2							1	
	材料分析	3春		2			1	0				
	固体力学	3春		2			1					
	機械加工	3春		2		1						
	塑性加工	3春		2		1						
	人間工学	3春		2		1						
	応用流体力学	3春		2			1					
	振動工学	3春		2				1			1	
	メカトロニクス制御	3春		2		1						
	機械技術史	3春		2								1
	環境とエネルギー	3春		2		1						
	研究分野ゼミ	3秋	1				11	5	1		1	
	CAD/CAM/CAE	3秋		2		1						
	溶融加工	3秋		2		1						
	特殊加工	3秋		2		1						
	プラスチック成形加工	3秋		2		1						
	内燃機関	3秋		2		1						
	伝熱工学	3秋		2			1	0				
	計測工学	3秋		2			1					
	ロボット工学	3秋		2			1					
	マイクロマシン	3秋		2			1					
	知的財産管理	3秋		2								1
	品質管理	3秋		2								1
	Intro. To Manuf. Eng	3秋		2								1
	ソフトウェア基礎	3秋		2								1
	工業デザイン	3秋		2								1
	卒業研究 I	4春	4				11	5	1		1	
	卒業研究 II	4秋	4				11	5	1		1	
	物理体感工房 I	1春		1								6
	物理体感工房 II	1秋		1								6
	物理体感工房 III	2春		1								6
物理体感工房 IV	2秋		1								6	
機械加工工房 I	1春		1		1						1	
機械加工工房 II	1秋		1		1						1	
機械加工工房 III	2春		1		1						1	
機械加工工房 IV	2秋		1		1						1	
機械加工工房 V	3春		1		1						1	
機械加工工房 VI	3秋		1		1						1	
フォーミュラ工房 I	1春		1		1						1	
フォーミュラ工房 II	1秋		1		1						1	
フォーミュラ工房 III	2春		1		1						1	
フォーミュラ工房 IV	2秋		1		1						1	
フォーミュラ工房 V	3春		1		1						1	
フォーミュラ工房 VI	3秋		1		1						1	
モノ創りデザイン工房 I	2春		1		1					1	1	
モノ創りデザイン工房 II	2秋		1		1					1	1	
モノ創りデザイン工房 III	3春		1		1					1	1	
モノ創りデザイン工房 IV	3秋		1		1					1	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)												
	小計(90科目)	-										
教職科目	教職論	1秋		2							1	
	教育原理	2春		2							1	
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春		2							2	
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋		2							2	
	教育制度論	2秋		2							1	
	教育課程論	2春		2							1	
	技術科教育法Ⅰ	2春		2							1	
	技術科教育法Ⅱ	2秋		2							1	
	技術科教育法Ⅲ	3春		2							1	
	中学技術の教材開発	3秋		2							1	
	工業科教育法	3通		4							1	
	数学科教育法Ⅰ	2通		4							1	
	数学科教育法Ⅱ	3通		4							1	
	道德教育の指導法	3春		2							1	
	特別活動論	3秋		2							1	
	教育学	2春		2							1	
	生徒指導論	2春		2							1	
	カウンセリング	3春		2							1	
	教育実習Ⅰ	3秋		1							2	
	教育実習Ⅱ	4通		2							3	
	教育実習Ⅲ	4通		4							2	
	教職実践演習(中・高)	4秋		2							1	
	介護体験Ⅰ	2秋		1							1	
木材加工	2春		2							2		
金属加工	2春		2							1		
栽培	2春		2							1		
機械実習	2秋		2							1		
機械工学通論	3秋・4春		2							1		
電気電子基礎・演習	3秋・4春		3							1		
職業指導	3通		4							1		
小計(30科目)	-											
合計(192科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
必修科目45単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)	知能化モビリティⅠ	1春		1						2		
	知能化モビリティⅡ	1秋		1						2		
	知能化モビリティⅢ	2春		1						2		
	知能化モビリティⅣ	2秋		1						2		
	知能化モビリティⅤ	3春		1						2		
	知能化モビリティⅥ	3秋		1						2		
	小計(96科目)	-										
教職科目	教職論	1秋			2							3
	教育原理	2春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							1
	教育制度論	2秋			2							2
	教育課程論	2春			2							2
	技術科教育法Ⅰ	2春			2							1
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2							2
	技術科教育法Ⅲ	3春			2							1
	中学技術の教材開発	3秋			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道德教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							3
	教育相談	2春・3秋			2							1
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3
	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
	介護体験Ⅰ	2秋			1							2
木材加工Ⅰ	2春			2							2	
木材加工Ⅱ	2秋			2							1	
金属加工Ⅰ	2春			2				1			2	
金属加工Ⅱ	3秋			2							1	
栽培Ⅰ	2春			2							1	
栽培Ⅱ	2秋			2							1	
機械実習	2秋			2							2	
機械工学通論	3秋・4春			2							1	
電気電子基礎・演習	3秋・4春			3							1	
職業指導	3通			4							1	
小計(33科目)	-											
合計(204科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
必修科目45単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春		1								5
	スタディスキルズ II	1秋		1								5
	学修と実工学 I	1春		1								8
	学修と実工学 II	1秋		1								8
	日本語リテラシー基礎 I	1春		1								6
	日本語リテラシー基礎 II	1秋		1								6
	キャリアデザイン I	2春		2								5
	キャリアデザイン II	2秋		2								5
	ものづくり基礎実習 I	1春		1								9
	ものづくり基礎実習 II	1秋		1		1						4
	現代社会の諸問題	2春・秋		2								2
	企業倫理	2秋		2								1
	起業とビジネスプラン	3春		2								1
	新会社設立と技術経営	3秋		2								1
日本での生活と学習	1春・秋		1								2	
日本事情 I	1春		2								2	
日本事情 II	1秋		2								2	
共通教育科目 (教養コア科目)	哲学	1秋・2春		2								1
	文学	1春・秋		2								1
	歴史学	1秋・2春		2								1
	健康心理学	1秋・2春		2								3
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋		2								4
	法学(日本国憲法)	1春・秋		2								1
	経済学	1秋・2春		2								1
	現代産業論	1秋・2春		2								1
	科学へのいざない	1春・秋		2								3
	健康とスポーツ I	1春・秋		1								4
健康とスポーツ II	2春・秋		1								2	
共通教育科目 (教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋		2								1
	倫理学	2秋		2								1
	異文化理解	2春		2								5
	異文化交流	2秋		2								5
	会計学	2春・秋		2								1
	社会福祉概論	2春		2								1
	宇宙の探求	2秋		2								1
	物質の探求	2秋		2								1
	教養特別講義	3春		2								2
	健康と体育	3秋		2								2
共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語 I	1春		1								14
	基礎英語 II	1春・秋		1								16
	リーディングスキル I	1春・秋・2春	1									18
	リーディングスキル II	1春・秋・2春・2秋	1									18
	英会話 I	1秋・2春		1								18
	英会話 II	2秋		1								6
	上級英語 I	2・3春		1								12
	上級英語 II	2・3秋		1								12
	プレゼンテーション I	1春・秋・2春・2秋		1								19
	プレゼンテーション II	2・3秋		1								17
	日本語表現 I	1春		1								1
	日本語表現 II	1秋		1								1
	日本語 I	1春		1								2
	日本語 II	1秋		1								2
日本語 III	2春		1								1	
日本語 IV	2秋		1								1	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学 I	1春・秋		1								11
	基礎数学 II	1春・秋		1								11
	数学	1春・秋	2									11
	応用解析	1春・秋		2								11
	確率論	1秋・2春		2								2
	統計学	1秋・2春		2								2
	工学基礎物理	1春・秋		2								10
	物理 I	1春・秋	2									10
	物理 II	1春・秋		2								10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1									8
	化学 I	1春		2								4
化学 II	1春		2								4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目（環境系科目）	エコ入門	1春・秋		2								4
	環境と科学技術	1秋		2								2
	地球環境と人間社会	2春		2								4
	環境の社会学	2春		2								2
	地球システムのしくみ	2秋		2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2								1
	小計(72科目)											
専門科目（専門教育科目）	情報リテラシー	1春・秋	2									2
	線形代数Ⅰ	2・3春		2								1
	代数学Ⅰ	2・3春		2								1
	幾何学Ⅰ	2・3春		2								1
	解析学Ⅰ	2・3春		2								1
	応用数学Ⅰ	3春		2								1
	線形代数Ⅱ	2・3秋		2								1
	代数学Ⅱ	2・3秋		2								1
	幾何学Ⅱ	2・3秋		2								1
	解析学Ⅱ	2・3秋		2								1
応用数学Ⅱ	3秋		2								1	
専門科目（学科専門科目）	フレッシュマンゼミ	1春	1			5	6	1	1			
	機械工作実習	1春・秋	2			1						3
	機械CAD	1春・秋	2			1						
	機械材料1	1春		2		1						
	機械材料2	1秋		2		1	1					
	電気工学基礎	1秋	2				1					
	機械ものづくり概論	1秋	2			10	7	1	1			1
	機械要素・製図基礎	1春	2			1	1		1			4
	実用機械製図	1秋	2			2			1			4
	材料力学1	2春	2			1	1					
	材料力学2	2秋		2		1	1					
	機械力学1	2春	2			1		1				
	機械力学2	2秋		2		1		1				
	熱と流体の力学	2春	2				1					1
	熱力学	2秋		2			1					
	流体力学	2秋		2			1					1
	電子工学基礎	2春	2				1					
	メカトロニクス	2春	2				1					
	デザイン表現技法	2春	2			1						
	機械設計1	2春	2			1						3
	機械工学実験1	2春	2			4	7	1				
	機械工学実験2	2秋	2			5	6	1				
	機械の研究	2秋	2			10	7	1				1
	機械総合演習1	2秋		2		5	1					1
	倫理と技術	2秋		2								1
	マーケティング概論	2秋		2								1
	デザイン概論	2秋		2								1
	制御工学	3春	2				1					
	機械設計2	3春	2			1						
	機械総合演習2	3春	2			4	1					1
	インターンシップ	3春	2									1
	資源環境論	3春	2									1
	材料分析	3春	2				1					
	固体力学	3春	2				1					
	機械加工	3春	2			1						
	塑性加工	3春	2			1						
	人間工学	3春	2			1						
	応用流体力学	3春	2				1					
	振動工学	3春	2					1				
	メカトロニクス制御	3春	2			1						
	機械技術史	3春	2									1
	環境とエネルギー	3春	2			1						
	研究分野ゼミ	3秋	1			10	7	1				1
CAD/CAM/CAE	3秋		2		1							
溶融加工	3秋		2		1							
特殊加工	3秋		2		1							
プラスチック成形加工	3秋		2		1							
内燃機関	3秋		2		1							
伝熱工学	3秋		2			1						
計測工学	3秋		2			1						
ロボット工学	3秋		2			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 (学科専門科目)	マイクロマシン	3秋		2			1						
	知的財産管理	3秋		2								1	
	品質管理	3秋		2								1	
	Intro. To Manuf. Eng	3秋		2								1	
	ソフトウェア基礎	3秋		2								1	
	工業デザイン	3秋		2								1	
	卒業研究Ⅰ	4春	4			10	7	1				1	
	卒業研究Ⅱ	4秋	4			10	7	1				1	
	物理体感工房Ⅰ	1春		1								6	
	物理体感工房Ⅱ	1秋		1								6	
	物理体感工房Ⅲ	2春		1								4	
	物理体感工房Ⅳ	2秋		1								4	
	機械加工工房Ⅰ	1春		1		1						1	
	機械加工工房Ⅱ	1秋		1		1						1	
	機械加工工房Ⅲ	2春		1		1						1	
	機械加工工房Ⅳ	2秋		1		1						1	
	機械加工工房Ⅴ	3春		1		1							
	機械加工工房Ⅵ	3秋		1		1							
	フォーミュラ工房Ⅰ	1春		1		1						1	
	フォーミュラ工房Ⅱ	1秋		1		1						1	
	フォーミュラ工房Ⅲ	2春		1		1						1	
	フォーミュラ工房Ⅳ	2秋		1		1						1	
	フォーミュラ工房Ⅴ	3春		1		1						1	
	フォーミュラ工房Ⅵ	3秋		1		1						1	
	モノ創りデザイン工房Ⅰ	2春		1		1						2	
	モノ創りデザイン工房Ⅱ	2秋		1		1						2	
	モノ創りデザイン工房Ⅲ	3春		1		1						2	
	モノ創りデザイン工房Ⅳ	3秋		1		1						2	
	小計(90科目)												
	教職科目	教職論	1秋		2								3
教育原理		2春		2								1	
教育心理・青年心理Ⅰ		3春		2								2	
教育心理・青年心理Ⅱ		3秋		2								2	
教育制度論		2秋		2								1	
教育課程論		2春		2								1	
技術科教育法Ⅰ		2春		2								1	
技術科教育法Ⅱ		2秋		2								1	
技術科教育法Ⅲ		3春		2								1	
中学技術の教材開発		3秋		2								1	
工業科教育法		3通		4								1	
数学科教育法Ⅰ		2通		4								1	
数学科教育法Ⅱ		3通		4								1	
道德教育の指導法		3春		2								1	
特別活動論		3秋		2								1	
教育工学		2春		2								1	
生徒指導論		2春		2								1	
カウンセリング		3春		2								1	
教育実習Ⅰ		3秋		1								2	
教育実習Ⅱ		4通		2								3	
教育実習Ⅲ		4通		4								2	
教職実践演習(中・高)		4秋		2								1	
介護体験Ⅰ		2秋		1								1	
木材加工		2春		2								2	
金属加工		2春		2								1	
栽培		2春		2								1	
機械実習		2秋		2								1	
機械工学通論	3秋・4春		2								1		
電気電子基礎・演習	3秋・4春		3								1		
職業指導	3通		4								1		
小計(30科目)													
合計(192科目)		-											
卒業要件及び履修方法													
必修科目45単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・兼任教員の新規採用・兼任教員の新規採用に伴う担当教員の見直しの理由により、「スタディスキルズⅠ・Ⅱ」、「学修と実工学Ⅰ・Ⅱ」、「日本語リテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ものづくり基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「日本での生活と学習」、「日本事情Ⅰ・Ⅱ」、「自己理解と対人関係の心理学」、「科学へのいざない」、「健康とスポーツⅠ」、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「リーディングスキルⅠ・Ⅱ」、「英会話Ⅰ・Ⅱ」、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」、「プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」、「数学」、「応用解析」、「確率論」、「統計学」、「工学基礎物理」、「物理Ⅰ・Ⅱ」、「工学基礎物理実験」、「化学Ⅰ・Ⅱ」、「エコ入門」、「情報リテラシー」、「物理体感工房Ⅰ・Ⅱ」、「機械加工工房Ⅰ・Ⅱ」において「兼任・兼任」の人数を変更。
 ・専任助教の新規採用の理由により、「フレッシュマンゼミ」、「機械要素・製図基礎」、「実用機械製図」において、専任教員等の配置における「助教0」から「助教1」に変更。
 ・担当教員の追加の理由により、「教職論」における「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。

【令和元年度】

・教育課程の充実の理由により、「Focus on Inter-Cultural Communication」、「Focus on Cross-Cultural Understanding」、「海外英語セミナー」を新規開設。
 ・教育効果の向上の理由により、共通教育科目の科目において、担当教員の見直しを行った。
 ・教職課程科目の充実の理由により、「木材加工」を「木材加工ⅠⅡ」、「金属加工」と「金属加工ⅠⅡ」、「栽培」を「栽培ⅠⅡ」、「教育学」を「教育の方法と技術」、「カウンセリング」を「教育相談」に名称変更。
 ・教育課程の充実の理由により、「知能モビリティ」を新規開設。
 ・専任教員の昇任と退職に伴い、「教授」・「准教授」の人数を修正した。
 ・教育効果の向上の理由により、「物理体感工房」担当教員を増員した。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
23 科目	139 科目	30 科目	192 科目	23 科目 [0]	148 科目 [9]	33 科目 [3]	204 科目 [12]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{192} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考	
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		
	校舎敷地	146,191.06 146,319.06㎡	— ㎡	— ㎡	146,191.06 146,319.06㎡	大学全体	
	運動場用地	109,333.53㎡	— ㎡	— ㎡	109,333.53㎡	宮代キャンパス第2学生駐車場の敷地の一部を宮代町に譲渡したため(30)	
	小 計	255,524.59 255,652.59㎡	— ㎡	— ㎡	255,524.59 255,652.59㎡		
	そ の 他	29,752.00㎡	— ㎡	— ㎡	29,752.00㎡		
	合 計	285,276.59 285,404.59㎡	— ㎡	— ㎡	285,276.59 285,404.59㎡		
(2) 校 舎	専 用	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡	— ㎡	— ㎡	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡	大学全体	
	87,108.99 82,096.64 (91,397.40㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(91,397.40㎡)	食堂等・温室の取壊しを行い、新食堂を新築したことによる(30) 多目的講義棟の竣工による(元)		
(3) 教 室 等	講 義 室	77 67 84室	76 60 88室	307 306 283室	10 12室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)	
	新設学部等の名称					室 数	2名が2室を利用 専任教員の退職により(元)
(4) 専任教員研究室	基幹工学部 機械工学科			20 21	室		
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点
	基幹工学部 機械工学科	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638]	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868]	359 [311] 283 [256] 233 [213]	5,277 5,208 5,511	21,995 22,398 24,128	279 377 369
	計	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638]	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868]	359 [311] 283 [256] 233 [213]	5,277 5,208 5,511	21,995 22,398 24,128	279 377 369
		212,978 [49,231] 212,468 [49,179] (217,860 [49,910])	1,750 [960] 1,642 [905] (1,619 [873])	359 [311] 283 [256] (261 [225])	5,277 5,208 (5,181)	21,995 22,398 (24,128)	279 377 (369)
(6) 図 書 館	面 積	4,251.69 4,614.68㎡	閱 覧 座 席 数	473 545	収 納 可 能 冊 数	161,389	施設の改修工事に伴い 現数値に変更(30)
	面 積	2,669.72㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 ハンドボールコート・ テニスコート・陸上競 技場・野球場
(7) 体 育 館	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
	経費の見積り	教員1人当たり研究費等	800千円	800千円	図書購入費	700千円	700千円
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	29,000千円	29,000千円	29,000千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
学生納付金以外の維持方法の概要	1,567千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	— 千円	— 千円	資金運用収入、手数料収入、国庫補助金収入等を充当

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	日 本 工 業 大 学									備 考	
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度		所在地
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度		
基幹工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.12	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子通信工学科	4	170	—	640	学士 (工学)	1.04	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
応用化学科	4	80	—	360	学士 (工学)	0.79	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
先進工学部											
ロボティクス学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.06	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報メディア工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.21	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学部											
建築学科	4	250	—	1000	学士 (工学)	1.16	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止	
ものづくり環境学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
創造システム工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	—	—	昭和50	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子工学科	4	160	—	640	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	平成7	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
生活環境デザイン学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士前期課程											
環境共生システム学専攻	2	15	—	30	修士 (工学)	0.40	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	2	35	—	70	修士 (工学)	0.65	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.80	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.34	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士後期課程											
環境共生システム学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
技術経営研究科											
技術経営専攻	1	30	—	30	技術経営 修士 (専門職)	1.33	—	平成17	東京都千代田区神田神保町 2丁目5番地2		

大学の名称	〇〇短期大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (平成29年)	該 当 な し		
設 置 計 画 履 行 状 況 調 査 時 (平成30年)	該 当 な し		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<基幹工学部 機械工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 学長のリーダーシップのもと「教育研究推進室」を設置し、教育の改革、研究の推進に関する事項を企画・立案し、実施している。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>○授業評価アンケート 学部、大学院博士前期課程において開講される科目（論文指導、ゼミナール科目等、一部の科目を除く）を受講した学生に対し以下の事項を問い、授業の質的向上への寄与を目指した。</p> <p>①授業をふりかえってみよう 学生自身が授業を振り返る設問を設定。当該授業にかかる理解・習熟度把握、予習復習時間、疑問点があった場合にどのような行動をとったか（学修支援系センターを活用したか、第三者に質問したかなど）など。</p> <p>②教員の教え方について 授業の運営実態（声量、説明の明快さ、授業時間の有効活用など）に留まらず、教員と学生間におけるコミュニケーション介在有無、クラス全体の受講態度、講義資料（テキスト、板書など）が予習復習に活用できるか。</p> <p>③自由記述 「あなたがこの授業で最も印象に残ったことや得たもの」、換言すれば学びを通じて学生が成長できたかを問い、ネガティブな回答に偏らずポジティブな所見を見出すことも試みた。</p> <p>○教員相互評価 授業のひとコマを参観して所見を報告するに留まらず、カリキュラムにおける科目の位置づけ、シラバスとの整合、評価方法などを含めた科目全体を評価するシステムを構築。参観者から寄せられた意見は批判的な見解に偏らぬよう、評価項目を【良かった点・参考になった点】と【改善を必要とする点】に細分化し、「…は良かった。しかし（参観者の本音は）…」と、参観者からきめ細かな意見を収集しやすい評価項目を構築。さらに、以下「教育改革シンポジウム」を授業参観前に開催し、当該学科におけるカリキュラムの骨子やディプロマポリシーなどの情報を全教職員が事前に把握したうえで授業参観に臨み、参観者の評価能力向上も目指した。</p>

○教育改革シンポジウム（令和元年度現在までに59回実施）：全学で実施

平成30年度 教育改革シンポジウムテーマ

- ・第54回教育改革シンポジウム：教育改善2018の趣旨および共通教育と先進工学部カリキュラムの概要
- ・第55回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える
- ・第56回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える（第2回）
- ・第57回教育改革シンポジウム：金沢工業大学における教育改革 ー自ら考え行動する技術者の育成ー
- ・第58回教育改革シンポジウム：授業評価2018「教育目的を達成する授業とは」
- ・第59回教育改革シンポジウム：将来構想委員会WG活動報告

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付けているほか、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を別途に開催。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、着任当初に全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。また、学部1年生必修科目「フレッシュマンゼミ」科目における学長講話を希望者に対し聴講できる機会も設けている。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

b 実施方法

○授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートは、IR室が主体となり実施している。従来は紙媒体を介し実施したが、平成28年度からは教務課の協力のもと、同時期に導入したポータルサイトの「アンケート機能」を利用し、端末機器から記述・入力できる方式へ変更。これにより、集計時間の大幅短縮およびアンケート回収率向上等の効果が現れ、迅速かつ正確にアンケート結果を教員へ還元できる体制を構築できた。平成29年度以降はPDCAサイクルに即して設問を見直し、学生が一評価者となって回答するのではなく、既述のとおり、学生が授業を振り返り「授業を通じどのように成長したか」を問う枠組へと再構築した。

○授業公開・参観及び評価

授業公開は学科等の輪番制で実施し、教員は担当科目の中から1科目を公開する。授業を公開する教員は、カリキュラムマップ、シラバス、テキスト、授業、講義資料、試験問題等をあらかじめ公開し、公開期間は3週間/学期とする。教員と事務職員が授業を参観し、1人当たり1,2科目/学期、評価を行う。評価結果は所定の報告書に記載し、教育研究推進室へ提出する。同室はそれを取りまとめ、改善案等をコメントして当該学科へフィードバックする。平成28年度からは、学期末に公開シンポジウムを実施し、授業を公開した教員と評価した者との間で情報の共有および意見交換を図るのみならず、当該年度における授業公開・相互評価結果の総括を行う場を設けた。本学では単に授業参観をするのみではなく、評価の結果をレーダーチャートに図示し、科目を総合的に評価する仕組みを構築した。またPDCAサイクルをしっかりと回し、改善に結実できるプログラムを目指している。このほか、事務職員の参加により教職協働体制の構築も果たした。

○教育改革シンポジウム

教育改革・授業改善等に関するテーマについて、多くの教職員の自主的な参加を得て開催している。なお当シンポジウムは、教職員が参加しやすいように多くは午後5時以降に開始時間を設定している。

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付け、教育および研究における知見の共有を目指しているのみならず、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を開催。公的研究費の使用ルール、研究倫理、安全保障貿易管理のほか、研究における安全を情報共有する機会と位置付けている。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。大学の概要・組織から年間スケジュール、授業実施のための基礎的事項、教学関係の情報等を説明している。また、新入生に対して学長が大学の歴史や綱領、および大学の学びに対する姿勢を話す「学長メッセージ」を新任教員も聴講し、本学の教育の根幹にかかる部分の理解を深めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○授業評価アンケート

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教員相互評価

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教育改革シンポジウム

令和元年度現在までに59回開催している。現在、約100人前後の教職員（教員の7割、事務職員の5割）が参加している。

○ファカルティディベロップメント（FD）研修会

全教員が参加し、年に2回程度開催している。

○新任教員の研修

毎年、新任教員全員を対象に研修を実施している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業評価アンケートの結果は教員へ還元されているが、従来はそれを授業に反映するかどうかは担当教員にまかされていたため、必ずしも有効利用されているとは言い難かった。しかし、平成18年度から開始した教員による相互評価は、教員の授業への改善意識を大きく変え、授業改善に役立っている。

その理由として、以下の理由が挙げられる。

①授業の参観報告書は、当初は授業に対する改善点を指摘する批判的な内容に留まっていたが、相互評価を重ねていくにつれ、授業改善に結びつく具体的な内容の記述が多くなったこと。

②教室の規模が受講者数に対し適正か、マイクやプロジェクターなどの設備機器に不備がないかなど、授業環境の改善に寄与する意見が増えていったこと。

③平成29年度より「良かった、がしかし・・・」の報告書形式に改め、参観者の本音を引き出すことができた。

また、参観者の意見に対し授業担当者が所見等をコメントする、コメントシートによる振り返りの機会を提供し、授業担当者が参観者の意見に対しフィードバックする枠組も構築した。

さらに、学生による授業評価アンケートと、授業参観を通じた教職員からの相互評価を、学期の途中で同時に実施することにより、学生の評価と教員の評価との異同を分析し、授業改善の評価を受けた同じ学期内で直ちに改善できる体制があることも良い影響を与えたと考えられる。

教育改革（授業改善）シンポジウムでは、授業改善や学生との接し方、学生が授業で得たものなどのテーマで報告があり、全学的な共通理解や教職員相互の意思疎通につながっている。

多くの教職員が、シンポジウムで取り上げたテーマや、シンポジウムで提起された意見・提案を意識するようになることが伺え、全体的な向上につながっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期（春学期・秋学期）実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を集計し、年次要覧に掲載している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

基幹工学部では、産業界の基幹となる機械、電気、化学の分野で求められる基礎的知識や技術を習得させ、既存の技術を生かして新たな価値を創造する実践的能力を身につけた技術者を養成することを教育研究上の目的としている。

また、機械工学科は、機械工学関連の現場における実践的能力に優れた技術者であって、かつ広い視野を有し、自立し、他者と協働できる能力を有する技術者を養成することを目的としている。

平成30年4月に開設のため、在籍者は1年生のみであり、カリキュラム等に大きな変更はない。1年生は、「フレッシュマンゼミ」をはじめとする専門科目を通じて、学習スキルやモチベーションを高めると共に、将来を考えた学習目標を個々に模索しながら学習に取り組んでいる。

平成30年度以降における実験科目等の授業で必要な教育設備等についても導入計画が進められている。

平成30年4月より、学科の運営や全学的な調整等を担う会議として「教学運営調整会議」が設置された。今後は、新学部・学科の履行状況を的確に把握し、必要な事項を審議・検討し、実行していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- 平成15年3月 公表 (大学基準協会提出の報告書)
- 平成20年9月 公表 (日本高等教育評価機構の報告書)
- 平成23年5月 公表 (平成21・22年度自己評価報告書)
- 平成25年10月 公表 (平成23・24年度改善報告書)
- 平成27年4月 公表 (平成25・26年度自己点検評価報告書)
- 平成28年4月 公表 (平成27年度自己点検評価報告書)
- 平成30年4月 公表 (平成28・29年度自己点検評価報告書)

b 公表方法

- 図書館に自己点検・評価報告書を設置している。また、大学ホームページにも公開している(上記の公表時期参照)
- その他に、大学ホームページ上にも下記のを公開している。
 - ・大学基準協会による相互評価結果、日本高等教育評価機構からの評価結果報告書
 - ・日本高等教育評価機構へ提出した報告書

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受け、大学評価基準に適合していると認定された。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 9月 30日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 日本工業大学

(2) 大学名

日本工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒345-8501
埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤナギサワ アキラ) 柳澤 章 (平成25年7月)		
学長	(ナリタ ケンイチ) 成田 健一 (平成27年12月)		
学部長	(タケウチ サダオ) 竹内 貞雄 (平成30年4月)		
学科長等	(アオヤギ ミノル) 青柳 稔 (平成30年4月)		平成30年4月より、役職名称を「学科主任」から「学科長」に変更(30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
基幹学部 電子通信工学科 学士（工学）	工学関係	4年	170人	- 年次人	680人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	170 (—) [—]	— (—) [—]	170 (—) [—]	— (—) [—]	1.04倍	一倍						
志願者数	— (—) [—]	454 (—) [4]	— (—) [—]	612 (—) [3]	— (—) [—]								
受験者数	— (—) [—]	448 (—) [3]	— (—) [—]	603 (—) [3]	— (—) [—]								
合格者数	— (—) [—]	345 (—) [1]	— (—) [—]	360 (—) [1]	— (—) [—]								
B 入学者数	— (—) [—]	174 (—) [1]	— (—) [—]	182 (—) [1]	— (—) [—]								
入学定員超過率 B/A	—		—		—		1.02		1.07				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	166 [1] (—)	— [—] (—)	209 [1] (27)	— [—] (—)						
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	139 [1] (—)	— [—] (—)					
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)			166 [1] (—)	— [—] (—)	348 [2] (27)			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	174 人	8 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	8 人	0 人	就学意欲の低下(4人)、他の教育機関に転学(2人)、就職(2人)
令和元年度	348 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合計		8 人		8 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{174} = \boxed{4.59} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{348} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<基幹工学部 電気電子通信工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目（学習基盤・キャリア科目）	スタディスキルズⅠ	1春	1								2
	スタディスキルズⅡ	1秋	1								2
	学修と実工学Ⅰ	1春	1								7
	学修と実工学Ⅱ	1秋	1								7
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春	1								4
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋	1								4
	キャリアデザインⅠ	2春	2								5
	キャリアデザインⅡ	2秋	2								5
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春	1			1			1		4
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋	1			1					3
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
	新会社設立と技術経営	3秋	2								1
共通教育科目（教養コア科目）	日本での生活と学習	1春・秋	1								1
	日本事情Ⅰ	1春	2								1
	日本事情Ⅱ	1秋	2								1
	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								2
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								2
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								4
	健康とスポーツⅠ	1春・秋	1								2
	健康とスポーツⅡ	2春・秋	1								2
共通教育科目（教養アドバンスト科目）	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
共通教育科目（言語系科目）	基礎英語Ⅰ	1春	1								5
	基礎英語Ⅱ	1春・秋	1								14
	リーディングスキルⅠ	1春・秋	1								16
	リーディングスキルⅡ	1春・秋	1								16
	英会話Ⅰ	1秋・2春	1								17
	英会話Ⅱ	2秋	1								7
	上級英語Ⅰ	2・3春	1								13
	上級英語Ⅱ	2・3秋	1								13
	プレゼンテーションⅠ	1春・秋	1								18

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目（学習基盤・キャリア科目）	スタディスキルズⅠ	1春	1									5
	スタディスキルズⅡ	1秋	1									5
	学修と実工学Ⅰ	1春	1									8
	学修と実工学Ⅱ	1秋	1									8
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春	1									5
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋	1									5
	キャリアデザインⅠ	2春	2									6
	キャリアデザインⅡ	2秋	2									6
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春	1				1			1		7
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋	1					1				4
	現代社会の諸問題	2春・秋	2									2
	企業倫理	2秋	2									1
	起業とビジネスプラン	3春	2									1
	共通教育科目（教養コア科目）	新会社設立と技術経営	3秋	2								
日本での生活と学習		1春・秋	1									1
日本事情Ⅰ		1春	2									1
日本事情Ⅱ		1秋	2									1
哲学		1秋・2春	2									1
文学		1春・秋	2									1
歴史学		1秋・2春	2									1
健康心理学		1秋・2春	2									2
自己理解と対人関係の心理学		1春・秋	2									2
法学(日本国憲法)		1春・秋	2									1
経済学		1秋・2春	2									1
現代産業論		1秋・2春	2									1
科学へのいざない		1春・秋	2									4
健康とスポーツⅠ		1春・秋	1									5
健康とスポーツⅡ	2春・秋	1									5	
Focus on Inter-Cultural Communication	1春・秋	2									1	
共通教育科目（教養アドバンスト科目）	宗教学	2秋	2									1
	倫理学	2秋	2									1
	異文化理解	2春	2									5
	異文化交流	2秋	2									5
	会計学	2春・秋	2									1
	社会福祉概論	2春	2									1
	宇宙の探求	2秋	2									1
	物質の探求	2秋	2									2
	教養特別講義	3春	2									2
	健康と体育	3秋	2									2
共通教育科目（言語系科目）	Focus on Cross-Cultural Understanding	2春	2									2
	基礎英語Ⅰ	1春	1									12
	基礎英語Ⅱ	1春・秋	1									16
	リーディングスキルⅠ	1春・秋	1									17
	リーディングスキルⅡ	1春・秋	1									17
	英会話Ⅰ	1秋・2春	1									20
	英会話Ⅱ	2秋	1									14
	上級英語Ⅰ	2・3春	1									16
	上級英語Ⅱ	2・3秋	1									16
	プレゼンテーションⅠ	1春・秋	1									19

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目(言語系科目)	プレゼンテーションⅡ	2・3秋	1								18
	日本語表現Ⅰ	1春	1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋	1								1
	日本語Ⅰ	1春	1								1
	日本語Ⅱ	1秋	1								1
	日本語Ⅲ	2春	1								1
	日本語Ⅳ	2秋	1								1
共通教育科目(理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								6
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								9
	数学	1春・秋	2								7
	応用解析	1春・秋	2								6
	確率論	1秋・2春	2								1
	統計学	1秋・2春	2								1
	工学基礎物理	1春・秋	2								6
	物理Ⅰ	1春・秋	2								7
	物理Ⅱ	1春・秋	2								6
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								3
化学Ⅰ	1春	2								2	
化学Ⅱ	1春	2								2	
共通教育科目(環境系科目)	エコ入門	1春・秋	2								2
	環境と科学技術	1秋	2								2
	地球環境と人間社会	2春	2								4
	環境の社会学	2春	2								2
	地球システムのしくみ	2秋	2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春	2								1
小計(72科目)	-										
専門科目(専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								1
	線形代数Ⅰ	2・3春	2								1
	代数学Ⅰ	2・3春	2								1
	幾何学Ⅰ	2・3春	2								1
	解析学Ⅰ	2・3春	2								1
	応用数学Ⅰ	3春	2								1
	線形代数Ⅱ	2・3秋	2								1
	代数学Ⅱ	2・3秋	2								1
	幾何学Ⅱ	2・3秋	2								1
解析学Ⅱ	2・3秋	2								1	
応用数学Ⅱ	3秋	2								1	
専門科目(学科専門科目)	フレッシュマンゼミ	1春	1			9	3	4			
	電気電子通信工学の基礎Ⅰ	1春	2			7		1			
	情報工学の基礎	1春	2							1	
	電気電子通信工学の基礎Ⅱ	1秋	2			2	3	3			
	電気回路基礎	1秋	2			2					
	電気回路基礎演習	1秋	1			2					
	デジタル回路	1秋	2			2					
	電気計測	1秋	2			2					
	情報理論	1秋	2			1					
	コンピュータアーキテクチャ	1秋	2							1	
	交流回路	2春	2				2				
	交流回路演習	2春	1				2				
	電気磁気学	2春	2			1		1			
	電子物性	2春	2			1					
	プログラミング言語基礎	2春	2				2	2			
プログラミング言語基礎演習	2春	1				2	2				
電気電子通信工学実験Ⅰ	2春	2			3		1				
システム解析	2秋	2					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目(言語系科目)	プレゼンテーションⅡ	2・3秋	1								19
	海外英語セミナー	2秋	2								1
	日本語表現Ⅰ	1春	1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋	1								1
	日本語Ⅰ	1春	1								1
	日本語Ⅱ	1秋	1								1
	日本語Ⅲ	2春	1								1
共通教育科目(理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								11
	数学	1春・秋	2								11
	応用解析	1春・秋	2								11
	確率論	1秋・2春	2								2
	統計学	1秋・2春	2								2
	工学基礎物理	1春・秋	2								10
	物理Ⅰ	1春・秋	2								10
	物理Ⅱ	1春・秋	2								10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								8
化学Ⅰ	1春	2								6	
化学Ⅱ	1春	2								6	
共通教育科目(環境系科目)	エコ入門	1春・秋	2								4
	環境と科学技術	1秋	2								3
	地球環境と人間社会	2春	2								4
	環境の社会学	2春	2								2
	地球システムのしくみ	2秋	2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春	2								1
小計(75科目)	-										
専門科目(専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								4
	線形代数Ⅰ	2・3春	2								2
	代数学Ⅰ	2・3春	2								1
	幾何学Ⅰ	2・3春	2								2
	解析学Ⅰ	2・3春	2								2
	応用数学Ⅰ	3春	2								2
	線形代数Ⅱ	2・3秋	2								2
	代数学Ⅱ	2・3秋	2								1
	幾何学Ⅱ	2・3秋	2								2
解析学Ⅱ	2・3秋	2								2	
応用数学Ⅱ	3秋	2								1	
専門科目(学科専門科目)	フレッシュマンゼミ	1春	1			9	3	4			
	電気電子通信工学の基礎Ⅰ	1春	2			7		1		2	
	情報工学の基礎	1春	2								1
	電気電子通信工学の基礎Ⅱ	1秋	2			2	3	3		4	
	電気回路基礎	1秋	2			2					
	電気回路基礎演習	1秋	1			2					
	デジタル回路	1秋	2			2					
	電気計測	1秋	2			2					
	情報理論	1秋	2			1					
	コンピュータアーキテクチャ	1秋	2								1
	交流回路	2春	2				2				
	交流回路演習	2春	1				2				
	電気磁気学	2春	2			1		1		1	
	電子物性	2春	2			1					
	プログラミング言語基礎	2春	2				2	2		2	
プログラミング言語基礎演習	2春	1				2	2		2		
電気電子通信工学実験Ⅰ	2春	2			3		1		1		
システム解析	2秋	2					1		1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (学科専門科目)	電気回路応用	2秋		2		1						
	電気磁気学応用	2秋		2			1					
	アナログ回路	2秋		2		2						
	ワイヤレスネットワーク	2秋		2		1						
	プログラミング言語応用	2秋		2		1						
	電気電子通信工学実験Ⅱ	2秋	2			3	1					
	情報通信伝送	3春		2		1						
	電子デバイス	2秋		2		1						
	通信機器	3春		2								1
	電機エネルギー変換	3春		2		1						
	パワーエレクトロニクス	3春		2								1
	高電圧・放電工学	3春		2						1		
	EECワークショップ	3春		1		9	3		4			
	インターンシップ・キャリア工房	3春		2					1			
	電気電子通信工学実験Ⅲa	3春	2						2			
	電気電子通信工学実験Ⅲb	3春	2			1	1					
	ネットワークデザイン	3春		2		1						
	システム制御	3秋		2					1			
	信号処理	3秋		2					1			
	音響・画像処理	3秋		2			1					
	電力発生技術	3秋		2					1			
	電力応用	3秋		2					1			
	電力系統技術	3秋		2					1			
	電気CAD	3秋		2								1
	電気電子通信工学実験Ⅳa	3秋	2			1			1			
	電気電子通信工学実験Ⅳb	3秋	2			1	1					
	ゼミナール	3秋		1		9	3		4			
センシング技術	4春		2		1							
電気法規と施設管理	4春		2								1	
卒業研究Ⅰ	4春		4		9	3		4				
卒業研究Ⅱ	4秋		4		9	3		4				
物理体感工房Ⅰ	1春		1								4	
物理体感工房Ⅱ	1秋		1								4	
物理体感工房Ⅲ	2春		1								4	
物理体感工房Ⅳ	2秋		1								4	
小計(64科目)	-											
教職科目	教職論	1秋			2							1
	教育原理	2春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2
	教育制度論	2秋			2							1
	教育課程論	2春			2							1
	技術科教育法Ⅰ	2春			2							1
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2							1
	技術科教育法Ⅲ	3春			2							1
	中学技術の教材開発	3秋			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道徳教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							1
	カウンセリング	3春			2							1
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (学科専門科目)	電気回路応用	2秋		2		1						
	電気磁気学応用	2秋		2			1					
	アナログ回路	2秋		2		2						
	ワイヤレスネットワーク	2秋		2		1						
	プログラミング言語応用	2秋		2		1						
	電気電子通信工学実験Ⅱ	2秋	2			3	1					
	情報通信伝送	3春		2		1						
	電子デバイス	2秋		2		1						
	通信機器	3春		2								1
	電機エネルギー変換	3春		2		1						
	パワーエレクトロニクス	3春		2								1
	高電圧・放電工学	3春		2						1		
	EECワークショップ	3春		1		9	3		4			
	インターンシップ・キャリア工房	3春		2					1			
	電気電子通信工学実験Ⅲa	3春	2						2			
	電気電子通信工学実験Ⅲb	3春	2			1	1					
	ネットワークデザイン	3春		2		1						
	システム制御	3秋		2						1		
	信号処理	3秋		2						1		
	音響・画像処理	3秋		2			1					
	電力発生技術	3秋		2						1		
	電力応用	3秋		2						1		
	電力系統技術	3秋		2						1		
	電気CAD	3秋		2								1
	電気電子通信工学実験Ⅳa	3秋	2			1			1			
	電気電子通信工学実験Ⅳb	3秋	2			1	1					
	ゼミナール	3秋		1		9	3		4			
センシング技術	4春		2		1							
電気法規と施設管理	4春		2								1	
卒業研究Ⅰ	4春		4		9	3		4				
卒業研究Ⅱ	4秋		4		9	3		4				
物理体感工房Ⅰ	1春		1								6	
物理体感工房Ⅱ	1秋		1								6	
物理体感工房Ⅲ	2春		1								6	
物理体感工房Ⅳ	2秋		1								6	
小計(64科目)	-											
教職科目	教職論	1秋			2							3
	教育原理	2春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							1
	教育制度論	2秋			2							2
	教育課程論	2春			2							2
	技術科教育法Ⅰ	2春			2							1
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2							2
	技術科教育法Ⅲ	3春			2							1
	中学技術の教材開発	3秋			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道徳教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							3
カウンセリング	3春			2							1	
教育実習Ⅰ	3秋			1							2	
教育実習Ⅱ	4通			2							3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職科目	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
	介護体験Ⅰ	2秋			1							1
	木材加工	2春			2							2
	金属加工	2春			2							1
	栽培	2春			2							1
	機械実習	2秋			2							1
	機械工学通論	3秋・4春			2							1
	電気電子基礎・演習	3秋・4春			3							1
	職業指導	3通			4							1
	小計(30科目)	-										
	合計(166科目)	-										
	卒業要件及び履修方法											
必修科目40単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職科目	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
	介護体験Ⅰ	2秋			1							2
	木材加工Ⅰ	2春			2							2
	木材加工Ⅱ	2秋			2							1
	金属加工Ⅰ	2春			2							2
	金属加工Ⅱ	3秋			2							1
	栽培Ⅰ	2春			2							1
	栽培Ⅱ	2秋			2							1
	機械実習	2秋			2							2
	機械工学通論	3秋・4春			2							1
	電気電子基礎・演習	3秋・4春			3							1
	職業指導	3通			4							1
小計(33科目)	-											
合計(172科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
必修科目40単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春		1								5
	スタディスキルズ II	1秋		1								5
	学修と実工学 I	1春		1								8
	学修と実工学 II	1秋		1								8
	日本語リテラシー基礎 I	1春		1								6
	日本語リテラシー基礎 II	1秋		1								6
	キャリアデザイン I	2春		2								5
	キャリアデザイン II	2秋		2								5
	ものづくり基礎実習 I	1春		1		1			1			7
	ものづくり基礎実習 II	1秋		1			1					4
	現代社会の諸問題	2春・秋		2								2
	企業倫理	2秋		2								1
	起業とビジネスプラン	3春		2								1
	新会社設立と技術経営	3秋		2								1
共通教育科目 (教養コア科目)	哲学	1秋・2春		2								1
文学	1春・秋		2									1
歴史学	1秋・2春		2									1
健康心理学	1秋・2春		2									3
自己理解と対人関係の心理学	1春・秋		2									4
法学(日本国憲法)	1春・秋		2									1
経済学	1秋・2春		2									1
現代産業論	1秋・2春		2									1
科学へのいざない	1春・秋		2									3
健康とスポーツ I	1春・秋		1									4
健康とスポーツ II	2春・秋		1									2
共通教育科目 (教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋		2								1
倫理学	2秋		2									1
異文化理解	2春		2									5
異文化交流	2秋		2									5
会計学	2春・秋		2									1
社会福祉概論	2春		2									1
宇宙の探求	2秋		2									1
物質の探求	2秋		2									1
教養特別講義	3春		2									2
健康と体育	3秋		2									2
共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語 I	1春		1								14
基礎英語 II	1春・秋		1									16
リーディングスキル I	1春・秋・2春		1									18
リーディングスキル II	1春・秋・2春・秋		1									18
英会話 I	1秋・2春		1									18
英会話 II	2秋		1									6
上級英語 I	2・3春		1									12
上級英語 II	2・3秋		1									12
プレゼンテーション I	1春・秋・2春・秋		1									19
プレゼンテーション II	2・3秋		1									17
日本語表現 I	1春		1									1
日本語表現 II	1秋		1									1
日本語 I	1春		1									2
日本語 II	1秋		1									2
日本語 III	2春		1									1
日本語 IV	2秋		1									1
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学 I	1春・秋		1								11
基礎数学 II	1春・秋		1									11
数学	1春・秋	2										11
応用解析	1春・秋		2									11
確率論	1秋・2春		2									2
統計学	1秋・2春		2									2
工学基礎物理	1春・秋		2									10
物理 I	1春・秋	2										10
物理 II	1春・秋		2									10
工学基礎物理実験	1春・秋	1										8
化学 I	1春		2									4
化学 II	1春		2									4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2								4
	環境と科学技術	1秋		2								2
	地球環境と人間社会	2春		2								4
	環境の社会学	2春		2								2
	地球システムのしくみ	2秋		2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2								1
	小計(72科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2									2
	線形代数Ⅰ	2・3春		2								1
	代数学Ⅰ	2・3春		2								1
	幾何学Ⅰ	2・3春		2								1
	解析学Ⅰ	2・3春		2								1
	応用数学Ⅰ	3春		2								1
	線形代数Ⅱ	2・3秋		2								1
	代数学Ⅱ	2・3秋		2								1
	幾何学Ⅱ	2・3秋		2								1
	解析学Ⅱ	2・3秋		2								1
応用数学Ⅱ	3秋		2								1	
専門科目 (学科専門科目)	フレッシュマンゼミ	1春	1			9	3		4			
	電気電子通信工学の基礎Ⅰ	1春		2		7			1			
	情報工学の基礎	1春		2							2	
	電気電子通信工学の基礎Ⅱ	1秋		2		2	3		3			
	電気回路基礎	1秋	2			2						
	電気回路基礎演習	1秋	1			2						
	デジタル回路	1秋		2		2						
	電気計測	1秋		2		2						
	情報理論	1秋		2		1						
	コンピュータアーキテクチャ	1秋		2								2
	交流回路	2春	2				2					
	交流回路演習	2春		1			2					
	電気磁気学	2春	2			1			1			
	電子物性	2春		2		1						
	プログラミング言語基礎	2春	2				2		2			
	プログラミング言語基礎演習	2春		1			2		2			
	電気電子通信工学実験Ⅰ	2春	2			3			1			
	システム解析	2秋		2					1			
	電気回路応用	2秋		2		1						
	電気磁気学応用	2秋		2			1					
	アナログ回路	2秋		2		2						
	ワイヤレスネットワーク	2秋		2		1						
	プログラミング言語応用	2秋		2		1						
	電気電子通信工学実験Ⅱ	2秋	2			3	1					
	情報通信伝送	3春		2		1						
	電子デバイス	2秋		2		1						
	通信機器	3春		2								1
	電機エネルギー変換	3春		2		1						
	パワーエレクトロニクス	3春		2								1
	高電圧・放電工学	3春		2						1		
	EECワークショップ	3春		1		9	3			4		
	インターンシップ・キャリア工房	3春		2						1		
	電気電子通信工学実験Ⅲa	3春		2						2		
	電気電子通信工学実験Ⅲb	3春	2			1	1					
	ネットワークデザイン	3春		2		1						
	システム制御	3秋		2						1		
	信号処理	3秋		2						1		
	音響・画像処理	3秋		2			1					
	電力発生技術	3秋		2						1		
	電力応用	3秋		2						1		
電力系統技術	3秋		2						1			
電気CAD	3秋		2								1	
電気電子通信工学実験Ⅳa	3秋	2			1				1			
電気電子通信工学実験Ⅳb	3秋	2			1	1						
ゼミナール	3秋		1		9	3			4			
センシング技術	4春		2		1							
電気法規と施設管理	4春		2								1	
卒業研究Ⅰ	4春		4		9	3			4			
卒業研究Ⅱ	4秋		4		9	3			4			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(工学系)	物理体感工房Ⅰ	1春		1								6
	物理体感工房Ⅱ	1秋		1								6
	物理体感工房Ⅲ	2春		1								4
	物理体感工房Ⅳ	2秋		1								4
	小計(64科目)	-										
教職科目	教職論	1秋			2							3
	教育原理	2春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2
	教育制度論	2秋			2							1
	教育課程論	2春			2							1
	技術科教育法Ⅰ	2春			2							1
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2							1
	技術科教育法Ⅲ	3春			2							1
	中学技術の教材開発	3秋			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道德教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							1
	カウンセリング	3春			2							1
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3
	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
	介護体験Ⅰ	2秋			1							1
	木材加工	2春			2							2
	金属加工	2春			2							1
	栽培	2春			2							1
	機械実習	2秋			2							1
	機械工学通論	3秋・4春			2							1
	電気電子基礎・演習	3秋・4春			3							1
	職業指導	3通			4							1
	小計(30科目)	-										
	合計(166科目)	-										
卒業要件及び履修方法												
必修科目40単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・兼任教員の新規採用・兼任教員の新規採用に伴う担当教員の見直しの理由により、「スタディスキルズⅠ・Ⅱ」、「学修と実工学Ⅰ・Ⅱ」、「日本語リテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ものづくり基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「日本での生活と学習」、「日本事情Ⅰ・Ⅱ」、「自己理解と対人関係の心理学」、「科学へのいざない」、「健康とスポーツⅠ」、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「リーディングスキルⅠ・Ⅱ」、「英会話Ⅰ・Ⅱ」、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」、「プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」、「数学」、「応用解析」、「確率論」、「統計学」、「工学基礎物理」、「物理Ⅰ・Ⅱ」、「工学基礎物理実験」、「化学Ⅰ・Ⅱ」、「エコ入門」、「情報リテラシー」、「物理体感工房Ⅰ・Ⅱ」において「兼任・兼任」の人数を変更。
 ・兼任講師の新規採用の理由により、「情報工学の基礎」、「コンピュータアーキテクチャ」における「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
 ・担当教員の追加の理由により、「教職論」における「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。

【令和元年度】

・教育課程の充実の理由により、「Focus on Inter-Cultural Communication」、「Focus on Cross-Cultural Understanding」、「海外英語セミナー」を新規開設。
 ・教育効果の向上の理由により、共通教育科目の科目において、担当教員の見直しを行った。
 ・教職課程科目の充実の理由により、「木材加工」を「木材加工ⅠⅡ」、「金属加工」と「金属加工ⅠⅡ」、「栽培」を「栽培ⅠⅡ」、「教育工学」を「教育の方法と技術」、「カウンセリング」を「教育相談」に名称変更。
 ・教育効果の向上の理由により、「電気電子通信工学の基礎ⅠⅡ」、「物理体感工房」担当教員を増員した。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
21 科目	115 科目	30 科目	166 科目	21 科目 [0]	118 科目 [3]	33 科目 [3]	172 科目 [6]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{166} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	146,191.06 146,319.06 m ²	— m ²	— m ²	146,191.06 146,319.06 m ²	大学全体		
	運動場用地	109,333.53m ²	— m ²	— m ²	109,333.53m ²	宮代キャンパス第2学生駐車場の敷地の一部を宮代町に譲渡したため(30)		
	小 計	255,524.59 255,652.59 m ²	— m ²	— m ²	255,524.59 255,652.59 m ²			
	そ の 他	29,752.00m ²	— m ²	— m ²	29,752.00m ²			
	合 計	285,276.59 285,404.59 m ²	— m ²	— m ²	285,276.59 285,404.59 m ²			
(2) 校 舎	専 用	87,108.99 82,289.72 93,969.40m ²	— m ²	— m ²	87,108.99 82,289.72 93,969.40m ²	大学全体		
	(91,397.40m ²)	(— m ²)	(— m ²)	(91,397.40m ²)	87,108.99 82,096.64 (91,397.40m ²)	食堂等・温室の取壊しを行い、新食堂を新築したことによる(30) 多目的講義棟の竣工による(元)		
(3) 教 室 等	講 義 室	77 67 84室	76 60 88室	307 306 283室	10 12 室 (補助職員 人)	語学学習施設 (補助職員 人)		
	演 習 室					多目的講義棟の竣工による(元)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		1名が2室を使用		
	基幹工学部 電気電子通信工学科			17 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	視聴覚資料	機械・器具	標 本		
		[うち外国書]	[うち外国書]				電子ジャーナル	
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点		
	基幹工学部 電気電子通信 工学科	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638]	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868]	359 [311] 283 [256] 233 [213]	5,277 5,208 5,511	21,995 22,398 24,128	279 377 369	
計	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638]	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868]	359 [311] 283 [256] 233 [213]	5,277 5,208 5,511	21,995 22,398 24,128	279 377 369		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	4,251.69 4,614.68 m ²		473 545		161,389			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	2,669.72m ²		武 道 館 ア ー チ ェ リ ー 場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	800千円	800千円	図書購入費	700千円	700千円	700千円
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	29,000千円	29,000千円	29,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
学生納付金以外の維持方法の概要		資金運用収入、手数料収入、国庫補助金収入等を充当						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	日 本 工 業 大 学									備 考	
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度		所在地
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度		
基幹工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.12	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子通信工学科	4	170	—	640	学士 (工学)	1.04	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
応用化学科	4	80	—	360	学士 (工学)	0.79	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
先進工学部											
ロボティクス学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.06	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報メディア工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.21	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学部											
建築学科	4	250	—	1000	学士 (工学)	1.16	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止	
ものづくり環境学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
創造システム工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	—	—	昭和50	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子工学科	4	160	—	640	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	平成7	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
生活環境デザイン学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士前期課程											
環境共生システム学専攻	2	15	—	30	修士 (工学)	0.40	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	2	35	—	70	修士 (工学)	0.65	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.80	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.34	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士後期課程											
環境共生システム学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
技術経営研究科											
技術経営専攻	1	30	—	30	技術経営 修士 (専門職)	1.33	—	平成17	東京都千代田区神田神保町 2丁目5番地2		

大学の名称	〇〇短期大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<基幹工学部 電気電子通信工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況
学長のリーダーシップのもと「教育研究推進室」を設置し、教育の改革、研究の推進に関する事項を企画・立案し、実施している。

② 実施状況

a 実施内容

○授業評価アンケート
学部、大学院博士前期課程において開講される科目（論文指導、ゼミナール科目等、一部の科目を除く）を受講した学生に対し以下の事項を問い、授業の質的向上への寄与を目指した。

①授業をふりかえてみよう
学生自身が授業を振り返る設問を設定。当該授業にかかる理解・習熟度把握、予習復習時間、疑問点があった場合にどのような行動をとったか（学修支援系センターを活用したか、第三者に質問したかなど）など。

②教員の教え方について
授業の運営実態（声量、説明の明快さ、授業時間の有効活用など）に留まらず、教員と学生間におけるコミュニケーション介在有無、クラス全体の受講態度、講義資料（テキスト、板書など）が予習復習に活用できるか。

③自由記述
「あなたがこの授業で最も印象に残ったことや得たもの」、換言すれば学びを通じて学生が成長できたかを問い、ネガティブな回答に偏らずポジティブな所見を見出すことも試みた。

○教員相互評価
授業のひとコマを参観して所見を報告するに留まらず、カリキュラムにおける科目の位置づけ、シラバスとの整合、評価方法などを含めた科目全体を評価するシステムを構築。参観者から寄せられた意見は批判的な見解に偏らぬよう、評価項目を【良かった点・参考になった点】と【改善を必要とする点】に細分化し、「…は良かった。しかし（参観者の本音は）…」と、参観者からきめ細かな意見を収集しやすい評価項目を構築。さらに、以下「教育改革シンポジウム」を授業参観前に開催し、当該学科におけるカリキュラムの骨子やディプロマポリシーなどの情報を全教職員が事前に把握したうえで授業参観に臨み、参観者の評価能力向上も目指した。

○教育改革シンポジウム（令和元年度現在までに59回実施）：全学で実施

平成30年度 教育改革シンポジウムテーマ

- ・第54回教育改革シンポジウム：教育改善2018の趣旨および共通教育と先進工学部カリキュラムの概要
- ・第55回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える
- ・第56回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える（第2回）
- ・第57回教育改革シンポジウム：金沢工業大学における教育改革 ー自ら考え行動する技術者の育成ー
- ・第58回教育改革シンポジウム：授業評価2018「教育目的を達成する授業とは」
- ・第59回教育改革シンポジウム：将来構想委員会WG活動報告

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付けているほか、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を別途に開催。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、着任当初に全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。また、学部1年生必修科目「フレッシュマンゼミ」科目における学長講話を希望者に対し聴講できる機会も設けている。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

b 実施方法

○授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートは、IR室が主体となり実施している。従来は紙媒体を介し実施したが、平成28年度からは教務課の協力のもと、同時期に導入したポータルサイトの「アンケート機能」を利用し、端末機器から記述・入力できる方式へ変更。これにより、集計時間の大幅短縮およびアンケート回収率向上等の効果が現れ、迅速かつ正確にアンケート結果を教員へ還元できる体制を構築できた。平成29年度以降はPDCAサイクルに即して設問を見直し、学生が一評価者となって回答するのではなく、既述のとおり、学生が授業を振り返り「授業を通じどのように成長したか」を問う枠組へと再構築した。

○授業公開・参観及び評価

授業公開は学科等の輪番制で実施し、教員は担当科目の中から1科目を公開する。授業を公開する教員は、カリキュラムマップ、シラバス、テキスト、授業、講義資料、試験問題等をあらかじめ公開し、公開期間は3週間/学期とする。教員と事務職員が授業を参観し、1人当たり1.2科目/学期、評価を行う。評価結果は所定の報告書に記載し、教育研究推進室へ提出する。同室はそれを取りまとめ、改善案等をコメントして当該学科へフィードバックする。平成28年度からは、学期末に公開シンポジウムを実施し、授業を公開した教員と評価した者との間で情報の共有および意見交換を図るのみならず、当該年度における授業公開・相互評価結果の総括を行う場を設けた。本学では単に授業参観をするのみではなく、評価の結果をレーダーチャートに図示し、科目を総合的に評価する仕組みを構築した。またPDCAサイクルをしっかりと回し、改善に結実できるプログラムを目指している。このほか、事務職員の参加により教職協働体制の構築も果たした。

○教育改革シンポジウム

教育改革・授業改善等に関するテーマについて、多くの教職員の自主的な参加を得て開催している。なお当シンポジウムは、教職員が参加しやすいように多くは午後5時以降に開始時間を設定している。

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付け、教育および研究における知見の共有を目指しているのみならず、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を開催。公的研究費の使用ルール、研究倫理、安全保障貿易管理のほか、研究における安全を情報共有する機会と位置付けている。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。大学の概要・組織から年間スケジュール、授業実施のための基礎的事項、教学関係の情報等を説明している。また、新入生に対して学長が大学の歴史や綱領、および大学の学びに対する姿勢を話す「学長メッセージ」を新任教員も聴講し、本学の

教育の根幹にかかる部分の理解を深めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○授業評価アンケート

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教員相互評価

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教育改革シンポジウム

令和元年度現在までに59回開催している。現在、約100人前後の教職員（教員の7割、事務職員の5割）が参加している。

○ファカルティディベロップメント（FD）研修会

全教員が参加し、年に2回程度開催している。

○新任教員の研修

毎年、新任教員全員を対象に研修を実施している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業評価アンケートの結果は教員へ還元されているが、従来はそれを授業に反映するかどうかは担当教員にまかされていたため、必ずしも有効利用されているとは言い難かった。しかし、平成18年度から開始した教員による相互評価は、教員の授業への改善意識を大きく変え、授業改善に役立っている。

その理由として、以下の理由が挙げられる。

①授業の参観報告書は、当初は授業に対しての改善点を指摘する批判的な内容に留まっていたが、相互評価を重ねていくにつれ、授業改善に結びつく具体的な内容の記述が多くなったこと。

②教室の規模が受講者数に対し適正か、マイクやプロジェクターなどの設備機器に不備がないかなど、授業環境の改善に寄与する意見が増えていったこと。

③平成29年度より「良かった、がしかし・・・」の報告書形式に改め、参観者の本音を引き出すことができた。また、参観者の意見に対し授業担当者が所見等をコメントする、コメントシートによる振り返りの機会を提供し、授業担当者が参観者の意見に対しフィードバックする枠組も構築した。

さらに、学生による授業評価アンケートと、授業参観を通じた教職員からの相互評価を、学期の途中で同時に実施することにより、学生の評価と教員の評価との異同を分析し、授業改善の評価を受けた同じ学期内で直ちに改善できる体制があることも良い影響を与えたと考えられる。

教育改革（授業改善）シンポジウムでは、授業改善や学生との接し方、学生が授業で得たものなどのテーマで報告があり、全学的な共通理解や教職員相互の意思疎通につながっている。

多くの教職員が、シンポジウムで取り上げたテーマや、シンポジウムで提起された意見・提案を意識するようになることが伺え、全体的な向上につながっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期（春学期・秋学期）実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を集計し、年次要覧に掲載している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

基幹工学部では、産業界の基幹となる機械、電気、化学の分野で求められる基礎的知識や技術を習得させ、既存の技術を生かして新たな価値を創造する実践的能力を身につけた技術者を養成することを教育研究上の目的としている。

また、電気電子通信工学科は、電気工学、電子工学、情報工学、通信工学の分野における技術の変化に対応できる、現場のリーダーになることができる人材を養成することを目的としている。

平成30年4月に開設のため、在籍者は1年生のみであり、カリキュラム等に大きな変更はない。1年生は、「フレッシュマンゼミ」をはじめとする専門科目を通じて、学習スキルやモチベーションを高めると共に、将来を考えた学習目標を個々に模索しながら学習に取り組んでいる。

平成30年度以降における実験科目等の授業で必要な教育設備等についても導入計画が進められている。

平成30年4月より、学科の運営や全学的な調整等を担う会議として「教学運営調整会議」が設置された。今後は、新学部・学科の履行状況を的確に把握し、必要な事項を審議・検討し、実行していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- 平成15年3月 公表 (大学基準協会提出の報告書)
- 平成20年9月 公表 (日本高等教育評価機構の報告書)
- 平成23年5月 公表 (平成21・22年度自己評価報告書)
- 平成25年10月 公表 (平成23・24年度改善報告書)
- 平成27年4月 公表 (平成25・26年度自己点検評価報告書)
- 平成28年4月 公表 (平成27年度自己点検評価報告書)
- 平成30年4月 公表 (平成28・29年度自己点検評価報告書)

b 公表方法

- 図書館に自己点検・評価報告書を設置している。また、大学ホームページにも公開している(上記の公表時期参照)
- その他に、大学ホームページ上にも下記のを公開している。
 - ・大学基準協会による相互評価結果、日本高等教育評価機構からの評価結果報告書
 - ・日本高等教育評価機構へ提出した報告書

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受け、大学評価基準に適合していると認定された。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和元年度)

a ホームページへの公表予定の有無 (有 無)

b 公表有の場合の公表(予定)時期 (令和元年 9月 30日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 日本工業大学

(2) 大学名

日本工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒345-8501
埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤナギサワ アキラ) 柳澤 章 (平成25年7月)		
学長	(ナリタ ケンイチ) 成田 健一 (平成27年12月)		
学部長	(タケウチ サダオ) 竹内 貞雄 (平成30年4月)		
学科長等	(サノ ケンイチ) 佐野 健一 (平成30年4月)		平成30年4月より、役職名称を「学科主任」から「学科長」に変更(30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
基幹工学部 応用化学科 学士（工学）	工学関係	4年	80人	- 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	80 (—) [—]	— (—) [—]	80 (—) [—]	— (—) [—]	0.79倍	一倍						
志願者数	— (—) [—]	184 (—) [1]	— (—) [—]	341 (—) [4]	— (—) [—]								
受験者数	— (—) [—]	182 (—) [1]	— (—) [—]	331 (—) [4]	— (—) [—]								
合格者数	— (—) [—]	143 (—) [1]	— (—) [—]	252 (—) [3]	— (—) [—]								
B 入学者数	— (—) [—]	53 (—) [1]	— (—) [—]	74 (—) [2]	— (—) [—]								
入学定員超過率 B/A	—		—		—		0.66		0.92				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	48 [1] (—)	— [—] (—)	81 [3] (7)	— [—] (—)						
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	41 [1] (—)	— [—] (—)					
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)			48 [1] (—)	122 [4] (7)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	53 人	5 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	5 人	0 人	就学意欲の低下(1名)、他の教育機関に転学(2名)、就職(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
令和元年度	122 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		5 人		5 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{53} = \boxed{9.43} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{122} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<基幹工学部 応用化学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズⅠ	1春	1								2
	スタディスキルズⅡ	1秋	1								2
	学修と実工学Ⅰ	1春	1								7
	学修と実工学Ⅱ	1秋	1								7
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春	1								4
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋	1								4
	キャリアデザインⅠ	2春	2								5
	キャリアデザインⅡ	2秋	2								5
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春	1			2					4
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋	1								4
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
新会社設立と技術経営	3秋	2								1	
日本での生活と学習	1春・秋	1								1	
日本事情Ⅰ	1春	2								1	
日本事情Ⅱ	1秋	2								1	
共通教育科目 (教養コア科目)	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								3
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								3
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								1
	健康とスポーツⅠ	1春・秋	1								2
	健康とスポーツⅡ	2春・秋	1								2
共通教育科目 (教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語Ⅰ	1春	1								5
	基礎英語Ⅱ	1春・秋	1								14
	リーディングスキルⅠ	1春・秋・2春	1								16
	リーディングスキルⅡ	1秋・2春・秋	1								16
	英会話Ⅰ	1秋・2春	1								17
	英会話Ⅱ	2秋	1								7
	上級英語Ⅰ	2・3春	1								13
	上級英語Ⅱ	2・3秋	1								13
	プレゼンテーションⅠ	1春・秋・2春	1								18
	プレゼンテーションⅡ	2・3秋	1								18
	日本語表現Ⅰ	1春	1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋	1								1
	日本語Ⅰ	1春	1								1
日本語Ⅱ	1秋	1								1	
日本語Ⅲ	2春	1								1	
日本語Ⅳ	2秋	1								1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズⅠ	1春	1								5
	スタディスキルズⅡ	1秋	1								5
	学修と実工学Ⅰ	1春	1								8
	学修と実工学Ⅱ	1秋	1								8
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春	1								5
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋	1								5
	キャリアデザインⅠ	2春	2								6
	キャリアデザインⅡ	2秋	2								6
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春	1					3			6
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋	1								5
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
新会社設立と技術経営	3秋	2								1	
日本での生活と学習	1春・秋	1								1	
日本事情Ⅰ	1春	2								1	
日本事情Ⅱ	1秋	2								1	
共通教育科目 (教養コア科目)	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								4
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								4
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								4
	健康とスポーツⅠ	1春・秋	1								5
	健康とスポーツⅡ	2春・秋	1								5
Focus on Inter-Cultural Communication	1春・秋	2								1	
共通教育科目 (教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
Focus on Cross-Cultural Understanding	2春	2								2	
共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語Ⅰ	1春	1								12
	基礎英語Ⅱ	1春・秋	1								16
	リーディングスキルⅠ	1春・秋・2春	1								17
	リーディングスキルⅡ	1秋・2春・秋	1								17
	英会話Ⅰ	1秋・2春	1								20
	英会話Ⅱ	2秋	1								14
	上級英語Ⅰ	2・3春	1								16
	上級英語Ⅱ	2・3秋	1								16
	海外英語セミナー	2秋	2								1
	プレゼンテーションⅠ	1春・秋・2春	1								19
	プレゼンテーションⅡ	2・3秋	1								19
	日本語表現Ⅰ	1春	1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋	1								1
日本語Ⅰ	1春	1								1	
日本語Ⅱ	1秋	1								1	
日本語Ⅲ	2春	1								1	
日本語Ⅳ	2秋	1								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								6
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								9
	数学	1春・秋	2								7
	応用解析	1春・秋		2							6
	確率論	1秋・2春		2							1
	統計学	1秋・2春		2							1
	工学基礎物理	1春・秋		2							6
	物理Ⅰ	1春・秋	2								7
	物理Ⅱ	1春・秋		2							6
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								3
	化学Ⅰ	1春		2		1	1				
	化学Ⅱ	1春		2		2					
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2							2
	環境と科学技術	1秋		2							2
	地球環境と人間社会	2春		2			1				3
	環境の社会学	2春		2							2
	地球システムのしくみ	2秋		2							1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2							1
小計(72科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								1
	線形代数Ⅰ	2・3春		2							1
	代数学Ⅰ	2・3春		2							1
	幾何学Ⅰ	2・3春		2							1
	解析学Ⅰ	2・3春		2							1
	応用数学Ⅰ	3春		2							1
	線形代数Ⅱ	2・3秋		2							1
	代数学Ⅱ	2・3秋		2							1
	幾何学Ⅱ	2・3秋		2							1
	解析学Ⅱ	2・3秋		2							1
応用数学Ⅱ	3秋		2							1	
専門科目 (学科専門科目)	化学実験Ⅰ	1春	2			3	1				
	生物学	1春	2			1					
	フレッシュマンゼミ	1春	1			8	3				
	生物工学実験基礎	1秋	2			1	1				
	化学実験Ⅱ	1秋	2			4					
	有機化学	1秋	2			1					
	物理化学	1秋	2				1				
	分子生物学	1秋		2			1				
	応用化学実験Ⅰ	2春	2			3	1				
	有機反応論	2春		2		1					
	反応工学	2春	2			1					
	無機化学	2春	2				1				
	機器分析化学	2春	2			1					
	遺伝子工学	2春		2			1				
	電磁気学	2春	2			1					
	応用化学実験Ⅱ	2秋	2			3	1				
	高分子化学	2秋		2		1					
	材料評価技術	2秋		2		1					
	ナノ材料サイエンス	2秋		2		1					
	生化学	2秋		2		1					
	熱統計力学	2秋		2						1	
	応用生物学実験	3春		2		1	1				
	有機光化学	3春		2		1					
	資源循環工学	3春		2		1					
	機能性無機材料工学	3春		2			1				
	コロイド・界面化学	3春		2			1				
	ナノ・バイオデバイス	3秋		2		1					
	ナノ材料プロセス	3春		2		1					
	生体分子工学	3春		2		1					
	自然科学の統計学	3春		2						1	
インターンシップ	3春		2		1						
化学生物情報処理演習	3春	2			2	1					
先端イオニクス工学	3秋		2		1						
分子集積化学	3秋		2		1						
先端機能材料化学	3秋		2		1						
先端エレクトロニクス	3秋		2		1						
表面化学工学	3秋		2			1					
バイオ生産技術	3秋		2			1					
プロフェッショナルゼミ	3秋	2			8	3					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								11
	数学	1春・秋	2								11
	応用解析	1春・秋		2							11
	確率論	1秋・2春		2							2
	統計学	1秋・2春		2							2
	工学基礎物理	1春・秋		2							10
	物理Ⅰ	1春・秋	2								10
	物理Ⅱ	1春・秋		2							10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								8
	化学Ⅰ	1春		2				2	0		2
	化学Ⅱ	1春		2				2			2
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2							4
	環境と科学技術	1秋		2				1			2
	地球環境と人間社会	2春		2					1		3
	環境の社会学	2春		2							2
	地球システムのしくみ	2秋		2							1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2							1
小計(75科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								4
	線形代数Ⅰ	2・3春		2							2
	代数学Ⅰ	2・3春		2							1
	幾何学Ⅰ	2・3春		2							2
	解析学Ⅰ	2・3春		2							2
	応用数学Ⅰ	3春		2							2
	線形代数Ⅱ	2・3秋		2							2
	代数学Ⅱ	2・3秋		2							1
	幾何学Ⅱ	2・3秋		2							2
	解析学Ⅱ	2・3秋		2							2
応用数学Ⅱ	3秋		2							1	
専門科目 (学科専門科目)	化学実験Ⅰ	1春	2			3	1				
	生物学	1春	2					2	1		
	フレッシュマンゼミ	1春	1			8	3				
	生物工学実験基礎	1秋	2			1	1				1
	化学実験Ⅱ	1秋	2			4					
	有機化学	1秋	2			1					
	物理化学	1秋	2				1		0		
	分子生物学	1秋		2			1				
	応用化学実験Ⅰ	2春	2			3	1				
	有機反応論	2春		2		1					
	反応工学	2春	2			1					
	無機化学	2春	2				1				
	機器分析化学	2春	2			1					
	遺伝子工学	2春		2			1				
	電磁気学	2春	2			1					
	応用化学実験Ⅱ	2秋	2			3	1			0	
	高分子化学	2秋		2		1					
	材料評価技術	2秋		2		1					
	ナノ材料サイエンス	2秋		2		1					
	生化学	2秋		2		1					
	熱統計力学	2秋		2						1	
	応用生物学実験	3春		2		1	1				
	有機光化学	3春		2		1					
	資源循環工学	3春		2		1					
	機能性無機材料工学	3春		2			1				
	コロイド・界面化学	3春		2			1		0		
	ナノ・バイオデバイス	3秋		2		1					
	ナノ材料プロセス	3春		2		1					
	生体分子工学	3春		2		1					
	自然科学の統計学	3春		2						1	
インターンシップ	3春		2		1						
化学生物情報処理演習	3春	2			2	1					
先端イオニクス工学	3秋		2		1						
分子集積化学	3秋		2		1						
先端機能材料化学	3秋		2		1						
先端エレクトロニクス	3秋		2		1						
表面化学工学	3秋		2			1					
バイオ生産技術	3秋		2			1					
プロフェッショナルゼミ	3秋	2			8	3			9	2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)	卒業研究Ⅰ	4春	4			8	3					
	卒業研究Ⅱ	4秋	4			8	3					
	物理体感工房Ⅰ	1春		1								4
	物理体感工房Ⅱ	1秋		1								4
	物理体感工房Ⅲ	2春		1								4
	物理体感工房Ⅳ	2秋		1								4
	小計(56科目)	-										
教職科目	教職論	1秋			2							1
	教育原理	2春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2
	教育制度論	2秋			2							1
	教育課程論	2春			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道德教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							1
	カウンセリング	3春			2							1
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3
	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
介護体験Ⅰ	2秋			1							1	
職業指導	3通			4							1	
	小計(20科目)	-										
	合計(148科目)	-										
卒業要件及び履修方法												
必修科目44単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)	卒業研究Ⅰ	4春	4			9	2					
	卒業研究Ⅱ	4秋	4			9	2					
	Science GritⅠ	1秋		1		4	1					
	Science GritⅡ	2春		1		4	1					
	Science GritⅢ	2秋		1		4	1					
	Science GritⅣ	3春		1		4	1					
Science GritⅤ	3秋		1		4	1						
物理体感工房Ⅰ	1春			1								6
物理体感工房Ⅱ	1秋			1								6
物理体感工房Ⅲ	2春			1								6
物理体感工房Ⅳ	2秋			1								6
	小計(61科目)	-										
教職科目	教職論	1秋			2							3
	教育原理	2春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2
	教育制度論	2秋			2							2
	教育課程論	2春			2							2
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							2
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							2
	道德教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育の方法と技術	2・3秋			2							1
	生徒指導論	2春			2							3
	教育相談	3・4秋			2							0
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3
	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
介護体験Ⅰ	2秋			1							2	
職業指導	3通			4							1	
	小計(20科目)	-										
	合計(156科目)	-										
卒業要件及び履修方法												
必修科目44単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (学習基盤・キャリアア 科目)	スタディスキルズⅠ	1春		1								5
	スタディスキルズⅡ	1秋		1								5
	学修と実工学Ⅰ	1春		1								8
	学修と実工学Ⅱ	1秋		1								8
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春		1								6
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋		1								6
	キャリアデザインⅠ	2春		2								5
	キャリアデザインⅡ	2秋		2								5
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春		1		3						6
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋		1								5
	現代社会の諸問題	2春・秋		2								2
	企業倫理	2秋		2								1
	起業とビジネスプラン	3春		2								1
	新会社設立と技術経営	3秋		2								1
日本での生活と学習	1春・秋		1								2	
日本事情Ⅰ	1春		2								2	
日本事情Ⅱ	1秋		2								2	
共通教育科目 (教養コア科目)	哲学	1秋・2春		2								1
	文学	1春・秋		2								1
	歴史学	1秋・2春		2								1
	健康心理学	1秋・2春		2								3
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋		2								4
	法学(日本国憲法)	1春・秋		2								1
	経済学	1秋・2春		2								1
	現代産業論	1秋・2春		2								1
	科学へのいざない	1春・秋		2								3
	健康とスポーツⅠ	1春・秋		1								4
健康とスポーツⅡ	2春・秋		1								2	
共通教育科目 (教養アドバンス ト科目)	宗教学	2秋		2								1
	倫理学	2秋		2								1
	異文化理解	2春		2								5
	異文化交流	2秋		2								5
	会計学	2春・秋		2								1
	社会福祉概論	2春		2								1
	宇宙の探求	2秋		2								1
	物質の探求	2秋		2								1
	教養特別講義	3春		2								2
	健康と体育	3秋		2								2
共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語Ⅰ	1春		1								14
	基礎英語Ⅱ	1春・秋		1								16
	リーディングスキルⅠ	1春・秋・2春	1									18
	リーディングスキルⅡ	1春・秋・2春	1									18
	英会話Ⅰ	1秋・2春		1								18
	英会話Ⅱ	2秋		1								6
	上級英語Ⅰ	2・3春		1								12
	上級英語Ⅱ	2・3秋		1								12
	プレゼンテーションⅠ	1春・秋・2春		1								19
	プレゼンテーションⅡ	2・3秋		1								17
	日本語表現Ⅰ	1春		1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋		1								1
	日本語Ⅰ	1春		1								2
	日本語Ⅱ	1秋		1								2
日本語Ⅲ	2春		1								1	
日本語Ⅳ	2秋		1								1	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋		1								11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋		1								11
	数学	1春・秋	2									11
	応用解析	1春・秋		2								11
	確率論	1秋・2春		2								2
	統計学	1秋・2春		2								2
	工学基礎物理	1春・秋		2								10
	物理Ⅰ	1春・秋	2									10
	物理Ⅱ	1春・秋	2									10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1									8
	化学Ⅰ	1春		2		2	0					
化学Ⅱ	1春		2		2							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2								4
	環境と科学技術	1秋		2								2
	地球環境と人間社会	2春		2			1					3
	環境の社会学	2春		2								2
	地球システムのしくみ	2秋		2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2								1
	小計(72科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋		2								2
	線形代数 I	2・3春		2								1
	代数学 I	2・3春		2								1
	幾何学 I	2・3春		2								1
	解析学 I	2・3春		2								1
	応用数学 I	3春		2								1
	線形代数 II	2・3秋		2								1
	代数学 II	2・3秋		2								1
	幾何学 II	2・3秋		2								1
	解析学 II	2・3秋		2								1
応用数学 II	3秋		2								1	
専門科目 (学科専門科目)	化学実験 I	1春	2			3	1					
	生物学	1春	2			1						
	フレッシュマンゼミ	1春	1			9	2					
	生物工学実験基礎	1秋	2			1	1					1
	化学実験 II	1秋	2			4						
	有機化学	1秋	2			1						
	物理化学	1秋	2			1	0					
	分子生物学	1秋	2				1					
	応用化学実験 I	2春	2			4	0					
	有機反応論	2春	2			1						
	反応工学	2春	2			1						
	無機化学	2春	2				1					
	機器分析化学	2春	2			1						
	遺伝子工学	2春	2				1					
	電磁気学	2春	2			1						
	応用化学実験 II	2秋	2			4	0					
	高分子化学	2秋	2			1						
	材料評価技術	2秋	2			1						
	ナノ材料サイエンス	2秋	2			1						
	生化学	2秋	2			1						1
	熱統計力学	2秋	2									
	応用生物学実験	3春	2			1	1					
	有機光化学	3春	2			1						
	資源循環工学	3春	2			1						
	機能性無機材料工学	3春	2				1					
	コロイド・界面化学	3春	2			1	0					
	ナノ・バイオデバイス	3秋	2			1						
	ナノ材料プロセッシング	3春	2			1						
	生体分子工学	3春	2			1						
	自然科学の統計学	3春	2									1
	インターンシップ	3春	2			1						
	化学生物情報処理演習	3春	2			2	1					
	先端イオニクス工学	3秋	2			1						
分子集積化学	3秋	2			1							
先端機能材料化学	3秋	2			1							
先端エレクトロニクス	3秋	2			1							
表面化学工学	3秋	2				1						
バイオ生産技術	3秋	2				1						
プロフェッショナルゼミ	3秋	2			9	2						
卒業研究 I	4春	4			9	2						
卒業研究 II	4秋	4			9	2						
物理体感工房 I	1春		1								6	
物理体感工房 II	1秋		1								6	
物理体感工房 III	2春		1								4	
物理体感工房 IV	2秋		1								4	
小計(56科目)	-											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 職 科 目	教職論	1秋			2							3
	教育原理	2春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2
	教育制度論	2秋			2							1
	教育課程論	2春			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道德教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育工学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							1
	カウンセリング	3春			2							1
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3
	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
	介護体験Ⅰ	2秋			1							1
	職業指導	3通			4							1
小計(20科目)	-											
合計(148科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
必修科目44単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・兼任教員の新規採用・兼任教員の新規採用に伴う担当教員の見直しの理由により、「スタディスキルズⅠ・Ⅱ」、「学修と実工学Ⅰ・Ⅱ」、「日本語リテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ものづくり基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「日本での生活と学習」、「日本事情Ⅰ・Ⅱ」、「自己理解と対人関係の心理学」、「科学へのいざない」、「健康とスポーツⅠ」、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「リーディングスキルⅠ・Ⅱ」、「英会話Ⅰ・Ⅱ」、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」、「プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」、「数学」、「応用解析」、「確率論」、「統計学」、「工学基礎物理」、「物理Ⅰ・Ⅱ」、「工学基礎物理実験」、「エコ入門」、「情報リテラシー」、「物理体感工房Ⅰ・Ⅱ」において「兼任・兼任」の人数を変更。
 ・専任准教授1名が教授に昇任する理由により、「化学Ⅰ」、「フレッシュマンゼミ」、「物理化学」「応用化学実験Ⅰ・Ⅱ」、「コロイド・界面化学」、「プロフェッショナルゼミ」・「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」における専任教員等の配置の「教授」と「准教授」の人数を変更。
 ・兼任講師の新規採用の理由により、「生物工学実験基礎」における「兼任・兼任 0」から「兼任・兼任 1」に変更。
 ・担当教員の追加の理由により、「教職論」における「兼任・兼任 1」から「兼任・兼任 3」に変更。

【令和元年度】

・教育課程の充実の理由により、「Focus on Inter-Cultural Communication」、「Focus on Cross-Cultural Understanding」、「海外英語セミナー」を新規開設。
 ・教育効果の向上の理由により、共通教育科目の科目において、担当教員の見直しを行った。
 ・教職課程科目の充実の理由により、「教育工学」を「教育の方法と技術」、「カウンセリング」を「教育相談」に名称変更。
 ・教育課程の充実の理由により、「Science Grit」を新規開設。
 ・教育効果の向上の理由により、「物理体感工房」担当教員を増員した。
 ・専門科目において、専任教員の昇任に伴い、「教授」、「准教授」の人数を修正した。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
22 科目	106 科目	20 科目	148 科目	22 科目 [0]	114 科目 [8]	20 科目 [0]	156 科目 [8]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{148} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校舎敷地	146,191.06 146,319.06㎡	— ㎡	— ㎡	146,191.06 146,319.06㎡	大学全体					
	運動場用地	109,333.53㎡	— ㎡	— ㎡	109,333.53㎡	宮代キャンパス第2学 生駐車場の敷地の一部 を宮代町に譲渡したた め(30)					
	小 計	255,524.59 255,652.59㎡	— ㎡	— ㎡	255,524.59 255,652.59㎡						
	そ の 他	29,752.00㎡	— ㎡	— ㎡	29,752.00㎡						
	合 計	285,276.59 285,404.59㎡	— ㎡	— ㎡	285,276.59 285,404.59㎡						
(2) 校 舎	専 用		共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡ 87,108.99 82,096.64 (91,397.40㎡)	— ㎡	(— ㎡)	(— ㎡)	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡ 87,108.99 82,096.64 (91,397.40㎡)	食堂等・温室の取壊し を行い、新食堂を新築 したことによる(30) 多目的講義棟の竣工に よる(元)					
(3) 教 室 等	講 義 室	77 67 84室	演 習 室	76 60 88室	実験実習室	307 306 283室	情報処理学習施設	10 12室	語学学習施設	0室	多目的講義棟の竣工に よる(元)
	(補助職員 人)		(補助職員 人)		(補助職員 人)		(補助職員 人)		(補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数						
	基幹工学部 応用化学科				11 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体			
	基幹工学部 応用化学科	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638] 212,978 [49,231] 212,468 [49,179] (217,860 [49,910])	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868] 1,750 [960] 1,642 [905] (1,619 [873])	359 [311] 283 [256] 233 [213] 359 [311] 283 [256] (261 [225])	5,277 5,208 5,511 5,277 5,208 (5,181)	21,995 22,398 24,128 21,995 22,398 (24,128)	279 377 369 279 377 (369)	機械・器具は、教育 研究機器備品登録数 (技術経営研究科を 除く) 標本は、工業技術博 物館の常設展示品数 現数値に変更(30) 現数値に変更(元)			
	計	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638] 212,978 [49,231] 212,468 [49,179] (217,860 [49,910])	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868] 1,750 [960] 1,642 [905] (1,619 [873])	359 [311] 283 [256] 233 [213] 359 [311] 283 [256] (261 [225])	5,277 5,208 5,511 5,277 5,208 (5,181)	21,995 22,398 24,128 21,995 22,398 (24,128)	279 377 369 279 377 (369)				
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		施設の改修事に伴い 現数値に変更(30)				
	4,251.69 4,614.68㎡		473 545		161,389						
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 ハンドボールコート・ テニスコート・陸上競 技場・野球場				
	2,669.72㎡		武 道 館 ア ー チ ェ リ ー 場								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	800千円	800千円	図書購入費	700千円	700千円	700千円			
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	29,000千円	29,000千円	29,000千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,567千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		資金運用収入、手数料収入、国庫補助金収入等を充当									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	日 本 工 業 大 学									備 考	
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度		所在地
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度		
基幹工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.12	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子通信工学科	4	170	—	640	学士 (工学)	1.04	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
応用化学科	4	80	—	360	学士 (工学)	0.79	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
先進工学部											
ロボティクス学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.06	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報メディア工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.21	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学部											
建築学科	4	250	—	1000	学士 (工学)	1.16	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止	
ものづくり環境学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
創造システム工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	—	—	昭和50	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子工学科	4	160	—	640	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	平成7	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
生活環境デザイン学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士前期課程											
環境共生システム学専攻	2	15	—	30	修士 (工学)	0.40	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	2	35	—	70	修士 (工学)	0.65	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.80	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.34	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士後期課程											
環境共生システム学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
技術経営研究科											
技術経営専攻	1	30	—	30	技術経営 修士 (専門職)	1.33	—	平成17	東京都千代田区神田神保町 2丁目5番地2		

大学の名称	〇〇短期大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	入学定員未充足の改善 に努めること	指摘事項 (改善)	入学定員充足に向けて取組 み、今年度の入学定員充足 率は0.92倍と改善がなされ ている。 履行済

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<基幹工学部 応用化学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>学長のリーダーシップのもと「教育研究推進室」を設置し、教育の改革、研究の推進に関する事項を企画・立案し、実施している。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>○授業評価アンケート</p> <p>学部、大学院博士前期課程において開講される科目（論文指導、ゼミナール科目等、一部の科目を除く）を受講した学生に対し以下の事項を問い、授業の質的向上への寄与を目指した。</p> <p>①授業をふりかえってみよう</p> <p>学生自身が授業を振り返る設問を設定。当該授業にかかる理解・習熟度把握、予習復習時間、疑問点があった場合にどのような行動をとったか（学修支援系センターを活用したか、第三者に質問したかなど）など。</p> <p>②教員の教え方について</p> <p>授業の運営実態（声量、説明の明快さ、授業時間の有効活用など）に留まらず、教員と学生間におけるコミュニケーション介在有無、クラス全体の受講態度、講義資料（テキスト、板書など）が予習復習に活用できるか。</p> <p>③自由記述</p> <p>「あなたがこの授業で最も印象に残ったことや得たもの」、換言すれば学びを通じて学生が成長できたかを問い、ネガティブな回答に偏らずポジティブな所見を見出すことも試みた。</p> <p>○教員相互評価</p> <p>授業のひとコマを参観して所見を報告するに留まらず、カリキュラムにおける科目の位置づけ、シラバスとの整合、評価方法などを含めた科目全体を評価するシステムを構築。参観者から寄せられた意見は批判的な見解に偏らぬよう、評価項目を【良かった点・参考になった点】と【改善を必要とする点】に細分化し、「…は良かった。しかし（参観者の本音は）…」と、参観者からきめ細かな意見を収集しやすい評価項目を構築。さらに、以下「教育改革シンポジウム」を授業参観前に開催し、当該学科におけるカリキュラムの骨子やディプロマポリシーなどの情報を全教職員が事前に把握したうえで授業参観に臨み、参観者の評価能力向上も目指した。</p>

○教育改革シンポジウム（令和元年度現在までに59回実施）：全学で実施

平成30年度 教育改革シンポジウムテーマ

- ・第54回教育改革シンポジウム：教育改善2018の趣旨および共通教育と先進工学部カリキュラムの概要
- ・第55回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える
- ・第56回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える（第2回）
- ・第57回教育改革シンポジウム：金沢工業大学における教育改革 ー自ら考え行動する技術者の育成ー
- ・第58回教育改革シンポジウム：授業評価2018「教育目的を達成する授業とは」
- ・第59回教育改革シンポジウム：将来構想委員会WG活動報告

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付けているほか、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を別途に開催。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、着任当初に全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。また、学部1年生必修科目「フレッシュマンゼミ」科目における学長講話を希望者に対し聴講できる機会も設けている。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

b 実施方法

○授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートは、IR室が主体となり実施している。従来は紙媒体を介し実施したが、平成28年度からは教務課の協力のもと、同時期に導入したポータルサイトの「アンケート機能」を利用し、端末機器から記述・入力できる方式へ変更。これにより、集計時間の大幅短縮およびアンケート回収率向上等の効果が現れ、迅速かつ正確にアンケート結果を教員へ還元できる体制を構築できた。平成29年度以降はPDCAサイクルに即して設問を見直し、学生が一評価者となって回答するのではなく、既述のとおり、学生が授業を振り返り「授業を通じどのように成長したか」を問う枠組へと再構築した。

○授業公開・参観及び評価

授業公開は学科等の輪番制で実施し、教員は担当科目の中から1科目を公開する。授業を公開する教員は、カリキュラムマップ、シラバス、テキスト、授業、講義資料、試験問題等をあらかじめ公開し、公開期間は3週間/学期とする。教員と事務職員が授業を参観し、1人当たり1.2科目/学期、評価を行う。評価結果は所定の報告書に記載し、教育研究推進室へ提出する。同室はそれを取りまとめ、改善案等をコメントして当該学科へフィードバックする。平成28年度からは、学期末に公開シンポジウムを実施し、授業を公開した教員と評価した者との間で情報の共有および意見交換を図るのみならず、当該年度における授業公開・相互評価結果の総括を行う場を設けた。本学では単に授業参観をするのみではなく、評価の結果をレーダーチャートに図示し、科目を総合的に評価する仕組みを構築した。またPDCAサイクルをしっかりと回し、改善に結実できるプログラムを目指している。このほか、事務職員の参加により教職協働体制の構築も果たした。

○教育改革シンポジウム

教育改革・授業改善等に関するテーマについて、多くの教職員の自主的な参加を得て開催している。なお当シンポジウムは、教職員が参加しやすいように多くは午後5時以降に開始時間を設定している。

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付け、教育および研究における知見の共有を目指しているのみならず、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を開催。公的研究費の使用ルール、研究倫理、安全保障貿易管理のほか、研究における安全を情報共有する機会と位置付けている。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。大学の概要・組織から年間スケジュール、授業実施のための基礎的事項、教学関係の情報等を説明している。また、新入生に対して学長が大学の歴史や綱領、および大学の学びに対する姿勢を話す「学長メッセージ」を新任教員も聴講し、本学の

教育の根幹にかかる部分の理解を深めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○授業評価アンケート

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教員相互評価

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教育改革シンポジウム

令和元年度現在までに59回開催している。現在、約100人前後の教職員（教員の7割、事務職員の5割）が参加している。

○ファカルティディベロップメント（FD）研修会

全教員が参加し、年に2回程度開催している。

○新任教員の研修

毎年、新任教員全員を対象に研修を実施している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業評価アンケートの結果は教員へ還元されているが、従来はそれを授業に反映するかどうかは担当教員にまかされていたため、必ずしも有効利用されているとは言い難かった。しかし、平成18年度から開始した教員による相互評価は、教員の授業への改善意識を大きく変え、授業改善に役立っている。

その理由として、以下の理由が挙げられる。

①授業の参観報告書は、当初は授業に対しての改善点を指摘する批判的な内容に留まっていたが、相互評価を重ねていくにつれ、授業改善に結びつく具体的な内容の記述が多くなったこと。

②教室の規模が受講者数に対し適正か、マイクやプロジェクターなどの設備機器に不備がないかなど、授業環境の改善に寄与する意見が増えていったこと。

③平成29年度より「良かった、がしかし・・・」の報告書形式に改め、参観者の本音を引き出すことができた。また、参観者の意見に対し授業担当者が所見等をコメントする、コメントシートによる振り返りの機会を提供し、授業担当者が参観者の意見に対しフィードバックする枠組も構築した。

さらに、学生による授業評価アンケートと、授業参観を通じた教職員からの相互評価を、学期の途中で同時に実施することにより、学生の評価と教員の評価との異同を分析し、授業改善の評価を受けた同じ学期内で直ちに改善できる体制があることも良い影響を与えたと考えられる。

教育改革（授業改善）シンポジウムでは、授業改善や学生との接し方、学生が授業で得たものなどのテーマで報告があり、全学的な共通理解や教職員相互の意思疎通につながっている。

多くの教職員が、シンポジウムで取り上げたテーマや、シンポジウムで提起された意見・提案を意識するようになることが伺え、全体的な向上につながっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期（春学期・秋学期）実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を集計し、年次要覧に掲載している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

基幹工学部では、産業界の基幹となる機械、電気、化学の分野で求められる基礎的知識や技術を習得させ、既存の技術を生かして新たな価値を創造する実践的能力をみにつけた技術者を養成することを教育研究上の目的としている。

また、応用化学科は、化学を基盤とした自然科学・工学に関する豊富な知識と経験を備え、産業や技術の変化を敏感に察知できる広い視野と迅速に対応できる柔軟な適応能力、ならびに生涯学び続ける高い意識を持つ研究者・技術者を養成することを目的としている。

平成30年4月に開設のため、在籍者は1年生のみであり、カリキュラム等に大きな変更はない。1年生は、「フレッシュマンゼミ」をはじめとする専門科目を通じて、学習スキルやモチベーションを高めると共に、将来を考えた学習目標を個々に模索しながら学習に取り組んでいる。

平成30年度以降における実験科目等の授業で必要な教育設備等についても導入計画が進められている。

平成30年4月より、学科の運営や全学的な調整等を担う会議として「教学運営調整会議」が設置された。今後は、新学部・学科の履行状況を的確に把握し、必要な事項を審議・検討し、実行していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- 平成15年3月 公表 (大学基準協会提出の報告書)
- 平成20年9月 公表 (日本高等教育評価機構の報告書)
- 平成23年5月 公表 (平成21・22年度自己評価報告書)
- 平成25年10月 公表 (平成23・24年度改善報告書)
- 平成27年4月 公表 (平成25・26年度自己点検評価報告書)
- 平成28年4月 公表 (平成27年度自己点検評価報告書)
- 平成30年4月 公表 (平成28・29年度自己点検評価報告書)

b 公表方法

- 図書館に自己点検・評価報告書を設置している。また、大学ホームページにも公開している(上記の公表時期参照)
- その他に、大学ホームページ上にも下記のもの公開している。
 - ・大学基準協会による相互評価結果、日本高等教育評価機構からの評価結果報告書
 - ・日本高等教育評価機構へ提出した報告書

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受け、大学評価基準に適合していると認定された。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

- a ホームページへの公表予定の有無 (有 無)
- b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 9月 30日)
- b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

注3

大学番号：私111

[平成30年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

日本工業大学 先進工学部
ロボティクス学科・情報メディア工学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 日本工業大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	教務部	教務課
職名・氏名	課長補佐	アナイ マサヒロ 穴井 正洋
電話番号	0480-34-4111	
（夜間）	0480-34-4111	
F A X	0480-33-7527	
e-mail	kyomu@nit.ac.jp	

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

先進工学部

<ロボティクス学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	35

<情報メディア工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	41
2. 授業科目の概要	45
3. 施設・設備の整備状況、経費	53
4. 既設大学等の状況	54
5. 教員組織の状況	56
6. 附帯事項等に対する履行状況等	74
7. その他全般的事項	75

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 日本工業大学

(2) 大学名

日本工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒345-8501

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤナギサワ アキラ) 柳澤 章 (平成25年7月)		
学長	(ナリタ ケンイチ) 成田 健一 (平成27年12月)		
学部長	(ジンノ ケンヤ) 神野 健哉 (平成30年4月)	(ツジムラ ヤスヒロ) 辻村 泰寛 (平成30年4月)	一身上の都合により、退職したことによる、学部長の交代(30)
学科長等	(ナカザト ユウイチ) 中里 裕一 (平成30年4月)		平成30年4月より、役職名称を「学科主任」から「学科長」に変更(30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
先進工学部 ロボティクス学科 学士(工学)	工学関係	4年	100人	年次人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	1.06倍	一倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	315 (—) [4]	1 (—) [1]	400 (—) [11]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	314 (—) [3]	1 (—) [1]	397 (—) [11]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	196 (—) [3]	1 (—) [1]	198 (—) [4]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	109 (—) [2]	1 (—) [1]	102 (—) [4]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		1.10		1.02				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	105 [2] (—)	1 [1] (—)	122 [6] (20)	1 [1] (—)						
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	85 [—] (—)	— [—] (—)					
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)			106 [3] (—)	208 [7] (20)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	109 人	4 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	4 人	0 人	就学意欲の低下(3人)、就職(1人)
令和元年度	200 人	0 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		4 人		4 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{109} = \boxed{3.66} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{200} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<先進工学部 ロボティクス学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目(学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春	1								2
	スタディスキルズ II	1秋	1								2
	学修と実工学 I	1春	1								7
	学修と実工学 II	1秋	1								7
	日本語リテラシー基礎 I	1春	1								4
	日本語リテラシー基礎 II	1秋	1								4
	キャリアデザイン I	2春	2								5
	キャリアデザイン II	2秋	2								5
	ものづくり基礎実習 I	1春	1			1	1				4
	ものづくり基礎実習 II	1秋	1			1	1				2
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
	新会社設立と技術経営	3秋	2								1
共通教育科目(教養コア科目)	日本での生活と学習	1春・秋	1								1
	日本事情 I	1春	2								1
	日本事情 II	1秋	2								1
	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								2
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								2
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								4
	健康とスポーツ I	1春・秋	1								5
	健康とスポーツ II	2春・秋	1								5
共通教育科目(教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
	共通教育科目(言語系科目)	基礎英語 I	1春	1							
基礎英語 II		1春・秋	1								14
リーディングスキル I		1春・秋・2春	1								16
リーディングスキル II		1秋・2春・秋	1								16
英会話 I		1秋・2春	1								17
英会話 II		2秋	1								7
上級英語 I		2・3春	1								13
上級英語 II		2・3秋	1								13
プレゼンテーション I		1春・秋・2春	1								18
プレゼンテーション II		2・3秋	1								18
日本語表現 I		1春	1								1
日本語表現 II		1秋	1								1
日本語 I		1春	1								1
日本語 II		1秋	1								1
日本語 III	2春	1								1	
日本語 IV	2秋	1								1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目(学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春	1								5
	スタディスキルズ II	1秋	1								5
	学修と実工学 I	1春	1								8
	学修と実工学 II	1秋	1								8
	日本語リテラシー基礎 I	1春	1								5
	日本語リテラシー基礎 II	1秋	1								5
	キャリアデザイン I	2春	2								6
	キャリアデザイン II	2秋	2								6
	ものづくり基礎実習 I	1春	1			1	1				7
	ものづくり基礎実習 II	1秋	1			1	1				3
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
	新会社設立と技術経営	3秋	2								1
共通教育科目(教養コア科目)	日本での生活と学習	1春・秋	1								1
	日本事情 I	1春	2								1
	日本事情 II	1秋	2								1
	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								2
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								2
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								4
	健康とスポーツ I	1春・秋	1								5
	健康とスポーツ II	2春・秋	1								5
Focus on Inter-Cultural Communication	1春・秋	2								1	
共通教育科目(教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
	Focus on Cross-Cultural Understanding	2春	2								2
共通教育科目(言語系科目)	基礎英語 I	1春	1								12
	基礎英語 II	1春・秋	1								16
	リーディングスキル I	1春・秋・2春	1								17
	リーディングスキル II	1秋・2春・秋	1								17
	英会話 I	1秋・2春	1								20
	英会話 II	2秋	1								14
	上級英語 I	2・3春	1								16
	上級英語 II	2・3秋	1								16
	海外英語セミナー	2秋	2								1
	プレゼンテーション I	1春・秋・2春	1								19
	プレゼンテーション II	2・3秋	1								19
	日本語表現 I	1春	1								1
	日本語表現 II	1秋	1								1
	日本語 I	1春	1								1
日本語 II	1秋	1								1	
日本語 III	2春	1								1	
日本語 IV	2秋	1								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								6
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								9
	数学	1春・秋	2								7
	応用解析	1春・秋		2							6
	確率論	1秋・2春		2							1
	統計学	1秋・2春		2							1
	工学基礎物理	1春・秋		2							6
	物理Ⅰ	1春・秋	2								7
	物理Ⅱ	1春・秋		2							6
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								3
	化学Ⅰ	1春		2							2
	化学Ⅱ	1春		2							2
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2							2
	環境と科学技術	1秋		2							2
	地球環境と人間社会	2春		2							4
	環境の社会学	2春		2							2
	地球システムのしくみ	2秋		2							1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2							1
	小計(72科目)	-									
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								1
	線形代数Ⅰ	2・3春		2							1
	代数学Ⅰ	2・3春		2							1
	幾何学Ⅰ	2・3春		2							1
	解析学Ⅰ	2・3春		2							1
	応用数学Ⅰ	3春		2							1
	線形代数Ⅱ	2・3秋		2							1
	代数学Ⅱ	2・3秋		2							1
	幾何学Ⅱ	2・3秋		2							1
	解析学Ⅱ	2・3秋		2							1
応用数学Ⅱ	3秋		2							1	
専門科目 (学科専門科目)	フレッシュヤーズセミナー	1春	1			7	4				
	ロボット工学演習	1春	2			3	1				
	機械工作実習	1春		1		1					
	コンピュータハードウェア	1春		2			1				
	電気電子工学概論	1春		2		1					
	CAD演習	1秋		2							1
	機械製図	1秋		2		1					
	機械工学概論	1秋		2		1					
	電子回路	1秋		2			1				
	ソフトウェア開発管理技術	1秋		2			1				
	プログラミング言語	1秋		2			1				
	制御工学Ⅰ	1秋		2		1					
	ロボット開発実験Ⅰ	2春	2			2	3				
	CAD/CAM/CAE	2春		2							1
	ロボット機構学	2春		2		1					
	電磁気学	2春		2		1					
	情報処理技術	2春		2			1				
	制御工学Ⅱ	2春		2		1					
	ロボットボランティア	2春		1			1				
	工業倫理と知的財産権	2春		2							1
	ロボット開発実験Ⅱ	2秋	2			2					
	設計製図	2秋		2		2					
	制御プログラミング	2秋		2			1				
	材料工学	2秋		2		1					
	ロボット制御回路	2秋		2		1					
	システム解析	2秋		2		1					
	計測工学	2秋		2			1				
	プロジェクト研究Ⅰ	3春	1			7	4				
	卒業研究ゼミナールⅠ	3春	2			7	4				
	センサ・アクチュエータ工学	3春		2		1					
	画像・視覚システム	3春		2			1				
	シミュレーション工学	3春		2		1					
	インターンシップ	3春		2		1					
プロジェクト研究Ⅱ	3秋	1			7	4					
卒業研究ゼミナールⅡ	3秋	2			7	4					
医療福祉工学	3秋		2			1					
人工知能	3秋		2			1					
ロボットデザイン	3秋		2		3						
電子回路応用とシステム化技術	3秋		2			2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								11
	数学	1春・秋	2								11
	応用解析	1春・秋		2							11
	確率論	1秋・2春		2							2
	統計学	1秋・2春		2							2
	工学基礎物理	1春・秋		2							10
	物理Ⅰ	1春・秋	2								10
	物理Ⅱ	1春・秋		2							10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								8
	化学Ⅰ	1春		2							6
	化学Ⅱ	1春		2							6
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2							4
	環境と科学技術	1秋		2							3
	地球環境と人間社会	2春		2							4
	環境の社会学	2春		2							2
	地球システムのしくみ	2秋		2							1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2							1
	小計(75科目)	-									
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								4
	線形代数Ⅰ	2・3春		2							2
	代数学Ⅰ	2・3春		2							1
	幾何学Ⅰ	2・3春		2							2
	解析学Ⅰ	2・3春		2							2
	応用数学Ⅰ	3春		2							2
	線形代数Ⅱ	2・3秋		2							2
	代数学Ⅱ	2・3秋		2							1
	幾何学Ⅱ	2・3秋		2							2
	解析学Ⅱ	2・3秋		2							2
応用数学Ⅱ	3秋		2							1	
専門科目 (学科専門科目)	フレッシュヤーズセミナー	1春	1			7	4				
	ロボット工学演習	1春	2			3	2				
	機械工作実習	1春		1		2					2
	コンピュータハードウェア	1春		2			1				
	電気電子工学概論	1春		2			2				
	CAD演習	1秋		2							1
	機械製図	1秋		2		1					
	機械工学概論	1秋		2		2					
	電子回路	1秋		2			1				
	ソフトウェア開発管理技術	1秋		2			1				
	プログラミング言語	1秋		2			1				
	制御工学Ⅰ	1秋		2		1					
	ロボット開発実験Ⅰ	2春	2			2	4				
	CAD/CAM/CAE	2春		2							1
	ロボット機構学	2春		2		1					
	電磁気学	2春		2		2					
	情報処理技術	2春		2			1				
	制御工学Ⅱ	2春		2		1					
	ロボットボランティア	2春		1			2				
	工業倫理と知的財産権	2春		2							1
	ロボット開発実験Ⅱ	2秋	2			2					
	設計製図	2秋		2		2					
	制御プログラミング	2秋		2			1				
	材料工学	2秋		2		1					
	ロボット制御回路	2秋		2		1					
	システム解析	2秋		2		1					
	計測工学	2秋		2			1				
	プロジェクト研究Ⅰ	3春	1			7	4				
	卒業研究ゼミナールⅠ	3春	2			7	4				
	センサ・アクチュエータ工学	3春		2		1					
	画像・視覚システム	3春		2			1				
	シミュレーション工学	3春		2		1					
	インターンシップ	3春		2		1					
プロジェクト研究Ⅱ	3秋	1			7	4					
卒業研究ゼミナールⅡ	3秋	2			7	4					
医療福祉工学	3秋		2			1					
人工知能	3秋		2			1					
ロボットデザイン	3秋		2		3						
電子回路応用とシステム化技術	3秋		2			2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目(学科専門科目)	英世界志向インタフェースへの挑戦	3秋		2									
	制御の実際	3秋		2		3							
	卒業研究Ⅰ	4春	4			7	4						
	卒業研究Ⅱ	4秋	4			7	4						
	物理体感工房Ⅰ	1春		1								4	
	物理体感工房Ⅱ	1秋		1								4	
	物理体感工房Ⅲ	2春		1								4	
	物理体感工房Ⅳ	2秋		1								4	
	ヒューマノイドロボット研究Ⅰ	1春		1		2							
	ヒューマノイドロボット研究Ⅱ	1秋		1		2							
	ヒューマノイドロボット研究Ⅲ	2春		1		2							
	ヒューマノイドロボット研究Ⅳ	2秋		1		2							
	ヒューマノイドロボット研究Ⅴ	3春		1		2							
	ヒューマノイドロボット研究Ⅵ	3秋		1		2							
	ロボット製作プロジェクトⅠ	1春		1		1	1						
	ロボット製作プロジェクトⅡ	1秋		1		1	1						
	ロボット製作プロジェクトⅢ	2春		1		1	1						
ロボット製作プロジェクトⅣ	2秋		1		1	1							
ロボット製作プロジェクトⅤ	3春		1		1	1							
ロボット製作プロジェクトⅥ	3秋		1		1	1							
小計(70科目)	-												
教職科目	教職論	1秋			2							1	
	教育原理	2春			2							1	
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2	
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2	
	教育制度論	2秋			2							1	
	教育課程論	2春			2							1	
	技術科教育法Ⅰ	2春			2							1	
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2							1	
	技術科教育法Ⅲ	3春			2							1	
	中学技術の教材開発	3秋			2							1	
	工業科教育法	3通			4							1	
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1	
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1	
	道徳教育の指導法	3春			2							1	
	特別活動論	3秋			2							1	
	教育学	2春			2							1	
	生徒指導論	2春			2							1	
	カウンセリング	3春			2							1	
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2	
	教育実習Ⅱ	4通			2							3	
	教育実習Ⅲ	4通			4							2	
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1	
	介護体験Ⅰ	2秋			1							1	
木材加工	2春			2							2		
金属加工	2春			2							1		
栽培	2春			2							1		
機械実習	2秋			2							1		
機械工学通論	3秋・4春			2							1		
電気電子基礎・演習	3秋・4春			3							1		
職業指導	3通			4							1		
小計(30科目)	-												
合計(172科目)	-												
卒業要件及び履修方法													
必修科目30単位を含み、共通教育科目から44単以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目(学科専門科目)	英世界志向インタフェースへの挑戦	3秋		2									
	制御の実際	3秋		2		3							
	卒業研究Ⅰ	4春	4			7	4						
	卒業研究Ⅱ	4秋	4			7	4						
	物理体感工房Ⅰ	1春		1									6
	物理体感工房Ⅱ	1秋		1									6
	物理体感工房Ⅲ	2春		1									6
	物理体感工房Ⅳ	2秋		1									6
	ヒューマノイドロボット研究Ⅰ	1春		1				3					
	ヒューマノイドロボット研究Ⅱ	1秋		1				3					
	ヒューマノイドロボット研究Ⅲ	2春		1				3					
	ヒューマノイドロボット研究Ⅳ	2秋		1				3					
	ヒューマノイドロボット研究Ⅴ	3春		1				3					
	ヒューマノイドロボット研究Ⅵ	3秋		1				3					
	ロボット製作プロジェクトⅠ	1春		1		2	1						
	ロボット製作プロジェクトⅡ	1秋		1		2	1						
	ロボット製作プロジェクトⅢ	2春		1		2	1						
ロボット製作プロジェクトⅣ	2秋		1		2	1							
ロボット製作プロジェクトⅤ	3春		1		2	1							
ロボット製作プロジェクトⅥ	3秋		1		2	1							
小計(70科目)	-												
教職科目	教職論	1秋			2								3
	教育原理	2春			2								2
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2								1
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2								1
	教育制度論	2秋			2								2
	教育課程論	2春			2								2
	技術科教育法Ⅰ	2春			2								1
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2								2
	技術科教育法Ⅲ	3春			2								1
	中学技術の教材開発	3秋			2								1
	工業科教育法	3通			4								1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4								1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4								1
	道徳教育の指導法	3春			2								1
	特別活動論	3秋			2								1
	教育学	2春			2								1
	生徒指導論	2春			2								3
	教育相談	3春・秋			2								1
	教育実習Ⅰ	3秋			1								2
	教育実習Ⅱ	4通			2								3
	教育実習Ⅲ	4通			4								2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2								1
	介護体験Ⅰ	2秋			1								2
木材加工Ⅰ	2春			2								2	
木材加工Ⅱ	2秋			2								1	
金属加工Ⅰ	2春			2								2	
金属加工Ⅱ	3春			2								1	
栽培Ⅰ	2春			2								1	
栽培Ⅱ	2春			2								1	
機械実習	2秋			2								2	
機械工学通論	3秋・4春			2								1	
電気電子基礎・演習	3秋・4春			3								1	
職業指導	3通			4								1	
小計(33科目)	-												
合計(178科目)	-												
卒業要件及び履修方法													
必修科目30単位を含み、共通教育科目から44単以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))													

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズⅠ	1春		1								5
	スタディスキルズⅡ	1秋		1								5
	学修と実工学Ⅰ	1春		1								8
	学修と実工学Ⅱ	1秋		1								8
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春		1								6
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋		1								6
	キャリアデザインⅠ	2春		2								5
	キャリアデザインⅡ	2秋		2								5
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春		1		1	1					7
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋		1		1	1					3
	現代社会の諸問題	2春・秋		2								2
	企業倫理	2秋		2								1
	起業とビジネスプラン	3春		2								1
	新会社設立と技術経営	3秋		2								1
日本での生活と学習	1春・秋		1								2	
日本事情Ⅰ	1春		2								2	
日本事情Ⅱ	1秋		2								2	
共通教育科目 (教養コア科目)	哲学	1秋・2春		2								1
	文学	1春・秋		2								1
	歴史学	1秋・2春		2								1
	健康心理学	1秋・2春		2								3
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋		2								4
	法学(日本国憲法)	1春・秋		2								1
	経済学	1秋・2春		2								1
	現代産業論	1秋・2春		2								1
	科学へのいざない	1春・秋		2								3
	健康とスポーツⅠ	1春・秋		1								4
健康とスポーツⅡ	2春・秋		1								2	
共通教育科目 (教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋		2								1
	倫理学	2秋		2								1
	異文化理解	2春		2								5
	異文化交流	2秋		2								5
	会計学	2春・秋		2								1
	社会福祉概論	2春		2								1
	宇宙の探求	2秋		2								1
	物質の探求	2秋		2								1
	教養特別講義	3春		2								2
	健康と体育	3秋		2								2
共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語Ⅰ	1春		1								14
	基礎英語Ⅱ	1春・秋		1								16
	リーディングスキルⅠ	1春・秋・2春	1									18
	リーディングスキルⅡ	1春・秋・2春・秋	1									18
	英会話Ⅰ	1秋・2春		1								18
	英会話Ⅱ	2秋		1								6
	上級英語Ⅰ	2・3春		1								12
	上級英語Ⅱ	2・3秋		1								12
	プレゼンテーションⅠ	1春・秋・2春		1								19
	プレゼンテーションⅡ	2・3秋		1								17
	日本語表現Ⅰ	1春		1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋		1								1
	日本語Ⅰ	1春		1								2
	日本語Ⅱ	1秋		1								2
日本語Ⅲ	2春		1								1	
日本語Ⅳ	2秋		1								1	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋		1								11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋		1								11
	数学	1春・秋	2									11
	応用解析	1春・秋		2								11
	確率論	1秋・2春		2								2
	統計学	1秋・2春		2								2
	工学基礎物理	1春・秋		2								10
	物理Ⅰ	1春・秋	2									10
	物理Ⅱ	1春・秋		2								10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1									8
	化学Ⅰ	1春		2								4
化学Ⅱ	1春		2								4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2								4
	環境と科学技術	1秋		2								2
	地球環境と人間社会	2春		2								4
	環境の社会学	2春		2								2
	地球システムのしくみ	2秋		2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2								1
	小計(72科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2									2
	線形代数 I	2・3春		2								1
	代数学 I	2・3春		2								1
	幾何学 I	2・3春		2								1
	解析学 I	2・3春		2								1
	応用数学 I	3春		2								1
	線形代数 II	2・3秋		2								1
	代数学 II	2・3秋		2								1
	幾何学 II	2・3秋		2								1
	解析学 II	2・3秋		2								1
応用数学 II	3秋		2								1	
専門科目 (学科専門科目)	フレッシャーズセミナー	1春	1			7	4					
	ロボット工学演習	1春	2			3	2					
	機械工作実習	1春		1		2						2
	コンピュータハードウェア	1春		2			1					
	電気電子工学概論	1春		2		2						
	CAD演習	1秋		2								1
	機械製図	1秋		2		1						
	機械工学概論	1秋		2		2						
	電子回路	1秋		2			1					
	ソフトウェア開発管理技術	1秋		2			1					
	プログラミング言語	1秋		2			1					
	制御工学 I	1秋		2		1						
	ロボット開発実験 I	2春	2			2	3					
	CAD/CAM/CAE	2春		2								1
	ロボット機構学	2春		2		1						
	電磁気学	2春		2		1						
	情報処理技術	2春		2			1					
	制御工学 II	2春		2		1						
	ロボットボランティア	2春		1			1					
	工業倫理と知的財産権	2春		2								1
	ロボット開発実験 II	2秋	2			2						
	設計製図	2秋		2		2						
	制御プログラミング	2秋		2			1					
	材料工学	2秋		2		1						
	ロボット制御回路	2秋		2		1						
	システム解析	2秋		2		1						
	計測工学	2秋		2			1					
	プロジェクト研究 I	3春	1			7	4					
	卒業研究ゼミナール I	3春	2			7	4					
	センサ・アクチュエータ工学	3春		2		1						
	画像・視覚システム	3春		2			1					
	シミュレーション工学	3春		2		1						
	インターンシップ	3春		2		1						
	プロジェクト研究 II	3秋	1			7	4					
卒業研究ゼミナール II	3秋	2			7	4						
医療福祉工学	3秋		2			1						
人工知能	3秋		2			1						
ロボットデザイン	3秋		2		3							
電子回路応用とシステム化技術	3秋		2			2						
実世界志向インタフェースへの挑戦	3秋		2			2						
制御の実際	3秋		2		3							
卒業研究 I	4春	4			7	4						
卒業研究 II	4秋	4			7	4						
物理体感工房 I	1春		1								6	
物理体感工房 II	1秋		1								6	
物理体感工房 III	2春		1								4	
物理体感工房 IV	2秋		1								4	
ヒューマノイドロボット研究 I	1春		1		3							
ヒューマノイドロボット研究 II	1秋		1		3							
ヒューマノイドロボット研究 III	2春		1		3							
ヒューマノイドロボット研究 IV	2秋		1		3							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (学科専門科目)	ヒューマノイドロボット研究V	3春		1		3						
	ヒューマノイドロボット研究VI	3秋		1		3						
	ロボット製作プロジェクトⅠ	1春		1		2	1					
	ロボット製作プロジェクトⅡ	1秋		1		2	1					
	ロボット製作プロジェクトⅢ	2春		1		2	1					
	ロボット製作プロジェクトⅣ	2秋		1		2	1					
	ロボット製作プロジェクトⅤ	3春		1		2	1					
	ロボット製作プロジェクトⅥ	3秋		1		2	1					
小計(70科目)	-											
教職科目	教職論	1秋			2							3
	教育原理	2春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2
	教育制度論	2秋			2							1
	教育課程論	2春			2							1
	技術科教育法Ⅰ	2春			2							1
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2							1
	技術科教育法Ⅲ	3春			2							1
	中学技術の教材開発	3秋			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道徳教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育工学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							1
	カウンセリング	3春			2							1
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3
	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
	介護体験Ⅰ	2秋			1							1
	木材加工	2春			2							2
	金属加工	2春			2							1
	栽培	2春			2							1
	機械実習	2秋			2							1
機械工学通論	3秋・4春			2							1	
電気電子基礎・演習	3秋・4春			3							1	
職業指導	3通			4							1	
小計(30科目)	-											
合計(172科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
必修科目30単位を含み、共通教育科目から44単以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・兼任教員の新規採用・兼任教員の新規採用に伴う担当教員の見直しの理由により、「スタディスキルズⅠ・Ⅱ」、「学修と実工学Ⅰ・Ⅱ」、「日本語リテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ものづくり基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「日本での生活と学習」、「日本事情Ⅰ・Ⅱ」、「自己理解と対人関係の心理学」、「科学へのいざない」、「健康とスポーツⅠ」、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「リーディングスキルⅠ・Ⅱ」、「英会話Ⅰ・Ⅱ」、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」、「プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」、「数学」、「応用解析」、「確率論」、「統計学」、「工学基礎物理」、「物理Ⅰ・Ⅱ」、「工学基礎物理実験」、「化学Ⅰ・Ⅱ」、「エコ入門」、「情報リテラシー」、「物理体感工房Ⅰ・Ⅱ」において「兼任・兼担」の人数を変更。
- ・担当教員の充実の理由により、「機械工作実習」、「電気電子工学概論」、「機械工学概論」の専任教員等の配置について「教授1」から「教授2」に変更。
- ・担当教員の充実の理由により、「ロボット工学演習」に関する専任教員等の配置について「准教授1」から「准教授2」に変更
- ・担当教員の充実の理由により「ヒューマノイドロボット研究Ⅰ～Ⅵ」に関する専任教員等の配置について「教授2」から「教授3」に変更。
- ・担当教員の充実の理由により「機械工作実習」について「兼任・兼担0」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・担当教員の充実の理由により「ロボット製作プロジェクトⅠ～Ⅵ」に関する専任教員等の配置について「教授1」から「教授2」に変更。
- ・担当教員の追加の理由により、「教職論」について「兼任・兼担1」から「兼任・兼担3」に変更。

【令和元年度】

- ・教育課程の充実の理由により、「Focus on Inter-Cultural Communication」、「Focus on Cross-Cultural Understanding」、「海外英語セミナー」を新規開設。
- ・教育効果の向上の理由により、共通教育科目の科目において、担当教員の見直しを行った。
- ・教職課程科目の充実の理由により、「木材加工」を「木材加工ⅠⅡ」、「金属加工」と「金属加工ⅠⅡ」、「栽培」を「栽培ⅠⅡ」、「教育工学」を「教育の方法と技術」、「カウンセリング」を「教育相談」に名称変更。
- ・教育効果の向上の理由により、「ロボット開発実験Ⅰ」、「電磁気学」、「ロボットボランティア」、「物理体感工房」担当教員を増員した。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
16 科目	126 科目	30 科目	172 科目	16 科目 [0]	129 科目 [3]	33 科目 [3]	178 科目 [6]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{172} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	146,191.06 146,319.06㎡	— ㎡	— ㎡	146,191.06 146,319.06㎡	大学全体		
	運動場用地	109,333.53㎡	— ㎡	— ㎡	109,333.53㎡	宮代キャンパス第2学生駐車場の敷地の一部を宮代町に譲渡したため(30)		
	小 計	255,524.59 255,652.59㎡	— ㎡	— ㎡	255,524.59 255,652.59㎡			
	そ の 他	29,752.00㎡	— ㎡	— ㎡	29,752.00㎡			
	合 計	285,276.59 285,404.59㎡	— ㎡	— ㎡	285,276.59 285,404.59㎡			
(2) 校 舎	専 用	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡	— ㎡	— ㎡	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡	大学全体		
	(91,397.40㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(91,397.40㎡)	食堂等・温室の取壊しを行い、新食堂を新築したことによる(30) 多目的講義棟の竣工による(元)			
(3) 教 室 等	講 義 室	77 67 84室	76 60 88室	307 306 283室	10 12室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
	演 習 室							
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	先進工学部 ロボティクス学科			11 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	先進工学部 ロボティクス学科	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638]	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868]	359 [311] 283 [256] 233 [213]	5,277 5,208 5,511	21,995 22,398 24,128	279 377 369	
	計	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638]	1,750 [960] 1,642 [905] 1,619 [873]	359 [311] 283 [256] 261 [225]	5,277 5,208 5,181	21,995 22,398 24,128	279 377 369	
		212,978 [49,231] 212,468 [49,179] (217,860 [49,910])	1,750 [960] 1,642 [905] (1,619 [873])	359 [311] 283 [256] (261 [225])	5,277 5,208 (5,181)	21,995 22,398 (24,128)	279 377 (369)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		施設の改修事に伴い 現数値に変更(30)	
	4,251.69 4,614.68㎡		473 545		161,389			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体 ハンドボールコート・ テニスコート・陸上競 技場・野球場
	2,669.72㎡		武 道 館 ア ー チェリ ー 場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	800千円	800千円	図書購入費	700千円	700千円	700千円
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	29,000千円	29,000千円	29,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	1,567千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		資金運用収入、手数料収入、国庫補助金収入等を充当						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	日 本 工 業 大 学									備 考	
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度		所在地
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度		
基幹工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.12	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子通信工学科	4	170	—	640	学士 (工学)	1.04	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
応用化学科	4	80	—	360	学士 (工学)	0.79	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
先進工学部											
ロボティクス学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.06	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報メディア工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.21	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学部											
建築学科	4	250	—	1000	学士 (工学)	1.16	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止	
ものづくり環境学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
創造システム工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	—	—	昭和50	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子工学科	4	160	—	640	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	平成7	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
生活環境デザイン学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士前期課程											
環境共生システム学専攻	2	15	—	30	修士 (工学)	0.40	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	2	35	—	70	修士 (工学)	0.65	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.80	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.34	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士後期課程											
環境共生システム学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
技術経営研究科											
技術経営専攻	1	30	—	30	技術経営 修士 (専門職)	1.33	—	平成17	東京都千代田区神田神保町 2丁目5番地2		

大学の名称	〇〇短期大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<先進工学部 ロボティクス学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況
学長のリーダーシップのもと「教育研究推進室」を設置し、教育の改革、研究の推進に関する事項を企画・立案し、実施している。

② 実施状況

a 実施内容

○授業評価アンケート
学部、大学院博士前期課程において開講される科目（論文指導、ゼミナール科目等、一部の科目を除く）を受講した学生に対し以下の事項を問い、授業の質的向上への寄与を目指した。

①授業をふりかえってみよう
学生自身が授業を振り返る設問を設定。当該授業にかかる理解・習熟度把握、予習復習時間、疑問点があった場合にどのような行動をとったか（学修支援系センターを活用したか、第三者に質問したかなど）など。

②教員の教え方について
授業の運営実態（声量、説明の明快さ、授業時間の有効活用など）に留まらず、教員と学生間におけるコミュニケーション介在の有無、クラス全体の受講態度、講義資料（テキスト、板書など）が予習復習に活用できるか。

③自由記述
「あなたがこの授業で最も印象に残ったことや得たもの」、換言すれば学びを通じて学生が成長できたかを問い、ネガティブな回答に偏らずポジティブな所見を見出すことも試みた。

○教員相互評価
授業のひとコマを参観して所見を報告するに留まらず、カリキュラムにおける科目の位置づけ、シラバスとの整合、評価方法などを含めた科目全体を評価するシステムを構築。参観者から寄せられた意見は批判的な見解に偏らぬよう、評価項目を【良かった点・参考になった点】と【改善を必要とする点】に細分化し、「…は良かった。しかし（参観者の本音は）…」と、参観者からきめ細かな意見を収集しやすい評価項目を構築。さらに、以下「教育改革シンポジウム」を授業参観前に開催し、当該学科におけるカリキュラムの骨子やディプロマポリシーなどの情報を全教職員が事前に把握したうえで授業参観に臨み、参観者の評価能力向上も目指した。

○教育改革シンポジウム（令和元年度現在までに59回実施）：全学で実施

平成30年度 教育改革シンポジウムテーマ

- ・第54回教育改革シンポジウム：教育改善2018の趣旨および共通教育と先進工学部カリキュラムの概要
- ・第55回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える
- ・第56回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える（第2回）
- ・第57回教育改革シンポジウム：金沢工業大学における教育改革 ー自ら考え行動する技術者の育成ー
- ・第58回教育改革シンポジウム：授業評価2018「教育目的を達成する授業とは」
- ・第59回教育改革シンポジウム：将来構想委員会WG活動報告

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付けているほか、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を別途に開催。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、着任当初に全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。また、学部1年生必修科目「フレッシュマンゼミ」科目における学長講話を希望者に対し聴講できる機会も設けている。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

b 実施方法

○授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートは、IR室が主体となり実施している。従来は紙媒体を介し実施したが、平成28年度からは教務課の協力のもと、同時期に導入したポータルサイトの「アンケート機能」を利用し、端末機器から記述・入力できる方式へ変更。これにより、集計時間の大幅短縮およびアンケート回収率向上等の効果が現れ、迅速かつ正確にアンケート結果を教員へ還元できる体制を構築できた。平成29年度以降はPDCAサイクルに即して設問を見直し、学生が一評価者となって回答するのではなく、既述のとおり、学生が授業を振り返り「授業を通じどのように成長したか」を問う枠組へと再構築した。

○授業公開・参観及び評価

授業公開は学科等の輪番制で実施し、教員は担当科目の中から1科目を公開する。授業を公開する教員は、カリキュラムマップ、シラバス、テキスト、授業、講義資料、試験問題等をあらかじめ公開し、公開期間は3週間/学期とする。教員と事務職員が授業を参観し、1人当たり1.2科目/学期、評価を行う。評価結果は所定の報告書に記載し、教育研究推進室へ提出する。同室はそれを取りまとめ、改善案等をコメントして当該学科へフィードバックする。平成28年度からは、学期末に公開シンポジウムを実施し、授業を公開した教員と評価した者との間で情報の共有および意見交換を図るのみならず、当該年度における授業公開・相互評価結果の総括を行う場を設けた。本学では単に授業参観をするのみではなく、評価の結果をレーダーチャートに図示し、科目を総合的に評価する仕組みを構築した。またPDCAサイクルをしっかりと回し、改善に結実できるプログラムを目指している。このほか、事務職員の参加により教職協働体制の構築も果たした。

○教育改革シンポジウム

教育改革・授業改善等に関するテーマについて、多くの教職員の自主的な参加を得て開催している。なお当シンポジウムは、教職員が参加しやすいように多くは午後5時以降に開始時間を設定している。

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付け、教育および研究における知見の共有を目指しているのみならず、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を開催。公的研究費の使用ルール、研究倫理、安全保障貿易管理のほか、研究における安全を情報共有する機会と位置付けている。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。大学の概要・組織から年間スケジュール、授業実施のための基礎的事項、教学関係の情報等を説明している。また、新入生に対して学長が大学の歴史や綱領、および大学の学びに対する姿勢を話す「学長メッセージ」を新任教員も聴講し、本学の

教育の根幹にかかる部分の理解を深めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○授業評価アンケート

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教員相互評価

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教育改革シンポジウム

令和元年度現在までに59回開催している。現在、約100人前後の教職員（教員の7割、事務職員の5割）が参加している。

○ファカルティディベロップメント（FD）研修会

全教員が参加し、年に2回程度開催している。

○新任教員の研修

毎年、新任教員全員を対象に研修を実施している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業評価アンケートの結果は教員へ還元されているが、従来はそれを授業に反映するかどうかは担当教員にまかされていたため、必ずしも有効利用されているとは言い難かった。しかし、平成18年度から開始した教員による相互評価は、教員の授業への改善意識を大きく変え、授業改善に役立っている。

その理由として、以下の理由が挙げられる。

①授業の参観報告書は、当初は授業に対しての改善点を指摘する批判的な内容に留まっていたが、相互評価を重ねていくにつれ、授業改善に結びつく具体的な内容の記述が多くなったこと。

②教室の規模が受講者数に対し適正か、マイクやプロジェクターなどの設備機器に不備がないかなど、授業環境の改善に寄与する意見が増えていったこと。

③平成29年度より「良かった、がしかし・・・」の報告書形式に改め、参観者の本音を引き出すことができた。また、参観者の意見に対し授業担当者が所見等をコメントする、コメントシートによる振り返りの機会を提供し、授業担当者が参観者の意見に対しフィードバックする枠組も構築した。

さらに、学生による授業評価アンケートと、授業参観を通じた教職員からの相互評価を、学期の途中で同時に実施することにより、学生の評価と教員の評価との異同を分析し、授業改善の評価を受けた同じ学期内で直ちに改善できる体制があることも良い影響を与えたと考えられる。

教育改革（授業改善）シンポジウムでは、授業改善や学生との接し方、学生が授業で得たものなどのテーマで報告があり、全学的な共通理解や教職員相互の意思疎通につながっている。

多くの教職員が、シンポジウムで取り上げたテーマや、シンポジウムで提起された意見・提案を意識するようになることが伺え、全体的な向上につながっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期（春学期・秋学期）実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を集計し、年次要覧に掲載している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

先進工学部では、工学の基礎となる技術・知識の習得と共に、科学技術の進歩や産業構造の変化等に対応できる力、新たな価値観に基づく先進技術を創造・開発する能力を身につけた「ロボティクス」および「情報メディア工学」分野の先進技術者を養成することを教育研究上の目的としている。

また、ロボティクス学科は、様々な人々が協働でイノベーションを生む必要がある現在の産業において必要とされている、自分の工学の専門性と自分以外の人々が持っている他の複数の工学の専門性を組み替えて活用し人類を幸せにする、新しい価値を提案・実現できるクロスリンク型（架橋型・H型）の技術者を養成することを目的としている。

平成30年4月に開設のため、在籍者は1年生のみであり、カリキュラム等に大きな変更はない。1年生は、「フレッシュマンセミナー」をはじめとする専門科目を通じて、学習スキルやモチベーションを高めると共に、将来を考えた学習目標を個々に模索しながら学習に取り組んでいる。

平成30年度以降における実験科目等の授業で必要な教育設備等についても導入計画が進められている。

平成30年4月より、学科の運営や全学的な調整等を担う会議として「教学運営調整会議」が設置された。今後は、新学部・学科の履行状況を的確に把握し、必要な事項を審議・検討し、実行していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- 平成15年3月 公表 （大学基準協会提出の報告書）
- 平成20年9月 公表 （日本高等教育評価機構の報告書）
- 平成23年5月 公表 （平成21・22年度自己評価報告書）
- 平成25年10月 公表 （平成23・24年度改善報告書）
- 平成27年4月 公表 （平成25・26年度自己点検評価報告書）
- 平成28年4月 公表 （平成27年度自己点検評価報告書）
- 平成30年4月 公表 （平成28・29年度自己点検評価報告書）

b 公表方法

○図書館に自己点検・評価報告書を設置している。また、大学ホームページにも公開している（上記の公表時期参照）

○その他に、大学ホームページ上にも下記のを公開している。

- ・大学基準協会による相互評価結果、日本高等教育評価機構からの評価結果報告書
- ・日本高等教育評価機構へ提出した報告書

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受け、大学評価基準に適合していると認定された。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 9月 30日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 日本工業大学

(2) 大学名

日本工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒345-8501

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤナギサワ アキラ) 柳澤 章 (平成25年7月)		
学長	(ナリタ ケンイチ) 成田 健一 (平成27年12月)		
学部長	(ジンノ ケンヤ) 神野 健哉 (平成30年4月)	(ツジムラ ヤスヒロ) 辻村 泰寛 (平成30年4月)	他大学への転出による退職したことに伴う、学部長の交代(30)
学科長等	(ツジムラ ヤスヒロ) 辻村 泰寛 (平成30年4月)	(サトウ シンヤ) 佐藤 進也 (平成30年4月)	辻村学科長が学部長に就任したことに伴う、学科長の交代(30) 平成30年4月より、役職名称を「学科主任」から「学科長」に変更(30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
先進工学部 情報メディア工学科 学士(工学)	工学関係	4年	200人	- 年次人	800人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	200 (—) [—]	1 (—) [—]	200 (—) [—]	— (—) [—]	1.21倍	一倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	796 (—) [6]	1 (—) [1]	1089 (—) [8]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	783 (—) [6]	1 (—) [1]	1067 (—) [6]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	488 (—) [1]	1 (—) [1]	430 (—) [4]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	269 (—) [1]	1 (—) [1]	216 (—) [2]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		1.35		1.08				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	250 [1] (—)	1 [1] (—)	261 [1] (45)	1 [1] (—)						
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	205 [1] (—)	— [—] (—)					
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)			251 [2] (—)	467 [3] (45)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	269 人	19 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	19 人	人	就学意欲の低下(9人)、他の教育機関に転学(4名)、就職(4人)、家庭の事情(1人)、除籍(1人)
令和元年度	467 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		19 人		19 人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{19}{269} = \boxed{7.06} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{467} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<先進工学部 情報メディア工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズⅠ	1春	1								2
	スタディスキルズⅡ	1秋	1								2
	学修と実工学Ⅰ	1春	1								7
	学修と実工学Ⅱ	1秋	1								7
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春	1								4
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋	1								4
	キャリアデザインⅠ	2春	2								5
	キャリアデザインⅡ	2秋	2								5
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春	1								6
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋	1								4
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
	新会社設立と技術経営	3秋	2								1
共通教育科目 (教養コア科目)	日本での生活と学習	1春・秋	1								1
	日本事情Ⅰ	1春	2								1
	日本事情Ⅱ	1秋	2								1
	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								3
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								3
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								1
	健康とスポーツⅠ	1春・秋	1								2
	健康とスポーツⅡ	2春・秋	1								2
共通教育科目 (教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
	共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語Ⅰ	1春	1							
基礎英語Ⅱ		1春・秋	1								14
リーディングスキルⅠ		1春・2春	1								16
リーディングスキルⅡ		1秋・2春	1								16
英会話Ⅰ		1秋・2春	1								17
英会話Ⅱ		2秋	1								7
上級英語Ⅰ		2・3春	1								13
上級英語Ⅱ		2・3秋	1								13
プレゼンテーションⅠ		1春・2春	1								18
プレゼンテーションⅡ		2・3秋	1								18
日本語表現Ⅰ		1春	1								1
日本語表現Ⅱ		1秋	1								1
日本語Ⅰ		1春	1								1
日本語Ⅱ	1秋	1								1	
日本語Ⅲ	2春	1								1	
日本語Ⅳ	2秋	1								1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズⅠ	1春	1								5
	スタディスキルズⅡ	1秋	1								5
	学修と実工学Ⅰ	1春	1								8
	学修と実工学Ⅱ	1秋	1								8
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春	1								5
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋	1								5
	キャリアデザインⅠ	2春	2								6
	キャリアデザインⅡ	2秋	2								6
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春	1								9
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋	1								5
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
	新会社設立と技術経営	3秋	2								1
共通教育科目 (教養コア科目)	日本での生活と学習	1春・秋	1								1
	日本事情Ⅰ	1春	2								1
	日本事情Ⅱ	1秋	2								1
	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								2
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								2
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								4
	健康とスポーツⅠ	1春・秋	1								5
	健康とスポーツⅡ	2春・秋	1								5
Focus on Inter-Cultural Communication	1春・秋	2								1	
共通教育科目 (教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
	Focus on Cross-Cultural Understanding	2春	2								2
共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語Ⅰ	1春	1								12
	基礎英語Ⅱ	1春・秋	1								16
	リーディングスキルⅠ	1春・2春	1								17
	リーディングスキルⅡ	1秋・2春	1								17
	英会話Ⅰ	1秋・2春	1								20
	英会話Ⅱ	2秋	1								14
	上級英語Ⅰ	2・3春	1								16
	上級英語Ⅱ	2・3秋	1								16
	海外英語セミナー	2秋	2								1
	プレゼンテーションⅠ	1春・2春	1								19
	プレゼンテーションⅡ	2・3秋	1								19
	日本語表現Ⅰ	1春	1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋	1								1
日本語Ⅰ	1春	1								1	
日本語Ⅱ	1秋	1								1	
日本語Ⅲ	2春	1								1	
日本語Ⅳ	2秋	1								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必	選	自	教	准	講	助	助	
			修	択	由	授	授	師	教	手	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								6
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								9
	数学	1春・秋	2								7
	応用解析	1春・秋	2								6
	確率論	1秋・2春	2								1
	統計学	1秋・2春	2								1
	工学基礎物理	1春・秋	2								6
	物理Ⅰ	1春・秋	2								7
	物理Ⅱ	1春・秋	2								6
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								3
	化学Ⅰ	1春	2								2
化学Ⅱ	1春	2								2	
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋	2								2
	環境と科学技術	1秋	2								2
	地球環境と人間社会	2春	2								4
	環境の社会学	2春	2								2
	地球システムのしくみ	2秋	2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春	2								1
小計(72科目)			-								
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								1
	線形代数Ⅰ	2・3春	2								1
	代数学Ⅰ	2・3春	2								1
	幾何学Ⅰ	2・3春	2								1
	解析学Ⅰ	2・3春	2								1
	応用数学Ⅰ	3春	2								1
	線形代数Ⅱ	2・3秋	2								1
	代数学Ⅱ	2・3秋	2								1
	幾何学Ⅱ	2・3秋	2								1
	解析学Ⅱ	2・3秋	2								1
	応用数学Ⅱ	3秋	2								1
専門科目 (学科専門科目)	メディア情報学	1春	2		1						
	プログラミングⅠ	1春	2		2	3					1
	フレッシュマンゼミ	1春	1		7	9			2		
	メディア分析法	1秋	2		1						
	プログラミングⅡ	1秋	2		2	3					1
	プロジェクトマネジメント	1秋	2			2					
	映像製作実習	2春	2		1	1					
	数理情報	2春	2			1					
	データベース	2春	2						2		
	情報ネットワーク基礎	2春	2			1					
	オブジェクト指向プログラミング	2春	3			2					
	メディアデザインプロジェクトⅠ	2春	2		2	2			1		
	情報アーキテクチャ	2秋	2		1						
	Webデザイン	2秋	3						1		
	ソフトウェア工学	2秋	3			1					
	アルゴリズムとデータ構造	2秋	2		1						
	経済性工学	2秋	2			1					
	データ工学	2秋	2			1					
	サービス工学と品質	2秋	2		1						
	メディアデザインプロジェクトⅡ	2秋	2		2	2			1		
	デザインリサーチ	2秋	2			1					
	コンピュータビジョン	3春	2		1						
	ゲームプログラミング	3春	2		1						
	オペレーティングシステム	3春	2		1						
	WebプログラミングⅠ	3春	3			1					1
	システム最適化	3春	2		1						
	経営情報システム	3春	2		1						
	メディアデザインプロジェクトⅢ	3春	2		3	4			1		
	インターンシップ・キャリア工房	3春	2			1					
	情報ボランティアⅠ	3春	2		1	2					
	インタラクティブデザイン	3秋	2		1						
	CGアニメーション	3秋	2			1					
	人工知能	3秋	2		1						
WebプログラミングⅡ	3秋	3			1					1	
情報セキュリティ	3秋	2								1	
メディアデザインプロジェクトⅣ	3秋	2		3	4			1			
卒研プレゼミ	3秋	1		7	9			2			
情報ボランティアⅡ	3秋	2		1	2						
Webアプリケーション	3秋	3			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必	選	自	教	准	講	助	助	
			修	択	由	授	授	師	教	手	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								11
	数学	1春・秋	2								11
	応用解析	1春・秋	2								11
	確率論	1秋・2春	2								2
	統計学	1秋・2春	2								2
	工学基礎物理	1春・秋	2								10
	物理Ⅰ	1春・秋	2								10
	物理Ⅱ	1春・秋	2								10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								8
	化学Ⅰ	1春	2								6
化学Ⅱ	1春	2								6	
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋	2								4
	環境と科学技術	1秋	2								3
	地球環境と人間社会	2春	2								4
	環境の社会学	2春	2								2
	地球システムのしくみ	2秋	2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春	2								1
小計(75科目)			-								
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								4
	線形代数Ⅰ	2・3春	2								2
	代数学Ⅰ	2・3春	2								1
	幾何学Ⅰ	2・3春	2								2
	解析学Ⅰ	2・3春	2								2
	応用数学Ⅰ	3春	2								2
	線形代数Ⅱ	2・3秋	2								2
	代数学Ⅱ	2・3秋	2								1
	幾何学Ⅱ	2・3秋	2								2
	解析学Ⅱ	2・3秋	2								2
	応用数学Ⅱ	3秋	2								1
専門科目 (学科専門科目)	メディア情報学	1春	2		1						
	プログラミングⅠ	1春	2		2	3			6		1
	フレッシュマンゼミ	1春	1		7	9			10		
	メディア分析法	1秋	2		1						
	プログラミングⅡ	1秋	2		2	3			6		1
	プロジェクトマネジメント	1秋	2			2			1	1	
	映像製作実習	2春	2		1	1			1	1	
	数理情報	2春	2			1			1	1	
	データベース	2春	2						2		
	情報ネットワーク基礎	2春	2			1			1		
	オブジェクト指向プログラミング	2春	3			2			2		
	メディアデザインプロジェクトⅠ	2春	2		2	2			7	3	
	情報アーキテクチャ	2秋	2		1				1		
	Webデザイン	2秋	3						1		1
	ソフトウェア工学	2秋	3			1			1	0	1
	アルゴリズムとデータ構造	2秋	2		1				0	1	
	経済性工学	2秋	2			1			1	1	
	データ工学	2秋	2			1					
	サービス工学と品質	2秋	2		1						
	メディアデザインプロジェクトⅡ	2秋	2		2	2			7	3	
	デザインリサーチ	2秋	2			1			1		
	コンピュータビジョン	3春	2		1						
	ゲームプログラミング	3春	2		1				1		
	オペレーティングシステム	3春	2		1				1		
	WebプログラミングⅠ	3春	3			1					1
	システム最適化	3春	2						0		
	経営情報システム	3春	2		1				1		
	メディアデザインプロジェクトⅢ	3春	2		3	4			4	4	
	インターンシップ・キャリア工房	3春	2			1			1		
	情報ボランティアⅠ	3春	2		1	2			1	2	
	インタラクティブデザイン	3秋	2		1				1		
	CGアニメーション	3秋	2			1			1		
	人工知能	3秋	2		1				1		
WebプログラミングⅡ	3秋	3			1			1		1	
情報セキュリティ	3秋	2								1	
メディアデザインプロジェクトⅣ	3秋	2		3	4			4	4		
卒研プレゼミ	3秋	1		7	9			7	10		
情報ボランティアⅡ	3秋	2		1	2			1	2		
Webアプリケーション	3秋	3			1			1			

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズⅠ	1春		1								5
	スタディスキルズⅡ	1秋		1								5
	学修と実工学Ⅰ	1春		1								8
	学修と実工学Ⅱ	1秋		1								8
	日本語リテラシー基礎Ⅰ	1春		1								6
	日本語リテラシー基礎Ⅱ	1秋		1								6
	キャリアデザインⅠ	2春		2								5
	キャリアデザインⅡ	2秋		2								5
	ものづくり基礎実習Ⅰ	1春		1								9
	ものづくり基礎実習Ⅱ	1秋		1								5
	現代社会の諸問題	2春・秋		2								2
	企業倫理	2秋		2								1
	起業とビジネスプラン	3春		2								1
	新会社設立と技術経営	3秋		2								1
	日本での生活と学習	1春・秋		1								2
日本事情Ⅰ	1春		2								2	
日本事情Ⅱ	1秋		2								2	
共通教育科目 (教養コア科目)	哲学	1秋・2春		2								1
	文学	1春・秋		2								1
	歴史学	1秋・2春		2								1
	健康心理学	1秋・2春		2								3
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋		2								4
	法学(日本国憲法)	1春・秋		2								1
	経済学	1秋・2春		2								1
	現代産業論	1秋・2春		2								1
	科学へのいざない	1春・秋		2								3
	健康とスポーツⅠ	1春・秋		1								4
健康とスポーツⅡ	2春・秋		1								2	
共通教育科目 (教養アドバンス科目)	宗教学	2秋		2								1
	倫理学	2秋		2								1
	異文化理解	2春		2								5
	異文化交流	2秋		2								5
	会計学	2春・秋		2								1
	社会福祉概論	2春		2								1
	宇宙の探求	2秋		2								1
	物質の探求	2秋		2								1
	教養特別講義	3春		2								2
	健康と体育	3秋		2								2
共通教育科目 (言語系科目)	基礎英語Ⅰ	1春		1								14
	基礎英語Ⅱ	1春・秋		1								16
	リーディングスキルⅠ	1春・1秋・1春	1									18
	リーディングスキルⅡ	1秋・2春・2秋	1									18
	英会話Ⅰ	1秋・2春		1								18
	英会話Ⅱ	2秋		1								6
	上級英語Ⅰ	2・3春		1								12
	上級英語Ⅱ	2・3秋		1								12
	プレゼンテーションⅠ	1春・2春・2秋		1								19
	プレゼンテーションⅡ	2・3秋		1								17
	日本語表現Ⅰ	1春		1								1
	日本語表現Ⅱ	1秋		1								1
	日本語Ⅰ	1春		1								2
	日本語Ⅱ	1秋		1								2
日本語Ⅲ	2春		1								1	
日本語Ⅳ	2秋		1								1	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋		1								11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋		1								11
	数学	1春・秋	2									11
	応用解析	1春・秋		2								11
	確率論	1秋・2春		2								2
	統計学	1秋・2春		2								2
	工学基礎物理	1春・秋		2								10
	物理Ⅰ	1春・秋	2									10
	物理Ⅱ	1春・秋		2								10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1									8
	化学Ⅰ	1春		2								4
化学Ⅱ	1春		2								4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2								4
	環境と科学技術	1秋		2								2
	地球環境と人間社会	2春		2								4
	環境の社会学	2春		2								2
	地球システムのしくみ	2秋		2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2								1
	小計(72科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2									2
	線形代数 I	2・3春		2								1
	代数学 I	2・3春		2								1
	幾何学 I	2・3春		2								1
	解析学 I	2・3春		2								1
	応用数学 I	3春		2								1
	線形代数 II	2・3秋		2								1
	代数学 II	2・3秋		2								1
	幾何学 II	2・3秋		2								1
	解析学 II	2・3秋		2								1
応用数学 II	3秋		2								1	
専門科目 (学科専門科目)	メディア情報学	1春		2		1						
	プログラミング I	1春	2			2	4		2			1
	フレッシュマンゼミ	1春	1			7	8		2			
	メディア分析法	1秋		2		1						
	プログラミング II	1秋	2			2	4		2			1
	プロジェクトマネジメント	1秋	2			1	1					
	映像製作実習	2春		2		1	1					
	数理情報	2春		2			1					
	データベース	2春		2					2			
	情報ネットワーク基礎	2春		2			1					
	オブジェクト指向プログラミング	2春		3			2					
	メディアデザインプロジェクト I	2春	2			1	2		1			
	情報アーキテクチャ	2秋		2		1						
	Webデザイン	2秋		3					1			
	ソフトウェア工学	2秋		3		1						
	アルゴリズムとデータ構造	2秋		2								
	経済性工学	2秋		2			1					
	データ工学	2秋		2			1					
	サービス工学と品質	2秋		2			1					
	メディアデザインプロジェクト II	2秋	2			1	2		1			
	デザインリサーチ	2秋		2			1					
	コンピュータビジョン	3春		2		1						
	ゲームプログラミング	3春		2			1					
	オペレーティングシステム	3春		2			1					
	Webプログラミング I	3春		3			1					1
	システム最適化	3春		2								
	経営情報システム	3春		2			1					
	メディアデザインプロジェクト III	3春	2			4	3		1			
	インターンシップ・キャリア工房	3春		2			1					
	情報ボランティア I	3春		2		1	2					
	インタラクティブデザイン	3秋		2		1						
	CGアニメーション	3秋		2			1					
	人工知能	3秋		2		1						
Webプログラミング II	3秋		3			1					1	
情報セキュリティ	3秋		2								1	
メディアデザインプロジェクト IV	3秋	2			4	3		1				
卒研プレゼミ	3秋	1			7	8		2				
情報ボランティア II	3秋		2		1	2						
Webアプリケーション	3秋		3		1							
卒業研究 I	4春	4			7	8		2				
情報ボランティア III	4春		2		1	2						
卒業研究 II	4秋	4			7	8		2				
物理体感工房 I	1春		1								6	
物理体感工房 II	1秋		1								6	
物理体感工房 III	2春		1								4	
物理体感工房 IV	2秋		1								4	
フィジカルコンピューティング工房 I	1春		1		2	2						
フィジカルコンピューティング工房 II	1秋		1		2	2						
フィジカルコンピューティング工房 III	2春		1		2	2						
フィジカルコンピューティング工房 IV	2秋		1		2	2						
	小計(61科目)	-										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職科目	教職論	1秋			2							3
	教育原理	2春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2
	教育制度論	2秋			2							1
	教育課程論	2春			2							1
	技術科教育法Ⅰ	2春			2							1
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2							1
	技術科教育法Ⅲ	3春			2							1
	中学技術の教材開発	3秋			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道徳教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育工学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							1
	カウンセリング	3春			2							1
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3
	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
	介護体験Ⅰ	2秋			1							1
	木材加工	2春			2							2
	金属加工	2春			2							1
	栽培	2春			2							1
	機械実習	2秋			2							1
	機械工学通論	3秋・4春			2							1
	電気電子基礎・演習	3秋・4春			3							1
	職業指導	3通			4							1
小計(30科目)	-											
合計(163科目)	-											

卒業要件及び履修方法

必修科目33単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。
(履修科目の登録の上限:24単位(半期)・48単位(年間))

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には**認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入**してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・兼任教員の新規採用・兼任教員の新規採用に伴う担当教員の見直しの理由により、「スタディスキルズⅠ・Ⅱ」、「学修と実工学Ⅰ・Ⅱ」、「日本語リテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ものづくり基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「日本での生活と学習」、「日本事情Ⅰ・Ⅱ」、「自己理解と対人関係の心理学」、「科学へのいざない」、「健康とスポーツⅠ」、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「リーディングスキルⅠ・Ⅱ」、「英会話Ⅰ・Ⅱ」、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」、「プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」、「数学」、「応用解析」、「確率論」、「統計学」、「工学基礎物理」、「物理Ⅰ・Ⅱ」、「工学基礎物理実験」、「化学Ⅰ・Ⅱ」、「エコ入門」、「情報リテラシー」、「物理体感工房Ⅰ・Ⅱ」において「兼任・兼任」の人数を変更。
 ・専任准教授1名が教授に昇任と専任教授1名の退職する理由により、「フレッシュマンゼミ」・「卒研プレゼミ」・「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」における専任教員等の配置の「准教授 9」から「准教授 8」に変更。
 ・担当教員充実の理由により、「プログラミングⅠ・Ⅱ」の専任教員等の配置における「准教授 3」から「准教授 4」、「助教 0」から「助教 2」に変更。
 ・専任准教授1名が教授に昇任する理由により、「プロジェクトマネジメント」の専任教員等の配置における「教授 0」・「准教授 2」から「教授 1」・「准教授 1」に変更。
 ・専任教授1名の退職の理由により、「メディアデザインプロジェクトⅠ・Ⅱ」の専任教員等の配置における「教授 2」から「教授 1」に変更。
 ・専任教授1名の退職の理由により、「メディアデザインプロジェクトⅢ・Ⅳ」の専任教員等の配置における「教授 3」・「准教授 4」から「教授 4」・「准教授 3」に変更。
 ・専任准教授1名が教授に昇任する理由により、「ソフトウェア工学」の専任教員等の配置における「教授 0」・「准教授 1」から「教授 1」・「准教授 0」に変更。
 ・専任教授1名の退職の理由により、「アルゴリズムとデータ構造」、「システム最適化」の専任教員等の配置における「教授 1」から「教授 0」に変更。後任の授業担当教員を調整している。
 ・担当教員の追加の理由により、「教職論」における「兼任・兼任 1」から「兼任・兼任 3」に変更。

【令和元年度】

・教育課程の充実の理由により、「Focus on Inter-Cultural Communication」、「Focus on Cross-Cultural Understanding」、「海外英語セミナー」を新規開設。
 ・教育効果の向上の理由により、共通教育科目の科目において、担当教員の見直しを行った。
 ・教職課程科目の充実の理由により、「木材加工」を「木材加工Ⅱ」、「金属加工」と「金属加工Ⅱ」、「栽培」を「栽培Ⅱ」、「教育工学」を「教育の方法と技術」、「カウンセリング」を「教育相談」に名称変更。
 ・教育効果の向上の理由により、専門科目の科目において、担当教員の見直しを行った。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
17 科目	116 科目	30 科目	163 科目	17 科目 [0]	119 科目 [3]	33 科目 [3]	169 科目 [6]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{163} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	146,191.06 146,319.06㎡	— ㎡	— ㎡	146,191.06 146,319.06㎡	大学全体		
	運動場用地	109,333.53㎡	— ㎡	— ㎡	109,333.53㎡	宮代キャンパス第2学生駐車場の敷地の一部を宮代町に譲渡したため(30)		
	小 計	255,524.59 255,652.59㎡	— ㎡	— ㎡	255,524.59 255,652.59㎡			
	そ の 他	29,752.00㎡	— ㎡	— ㎡	29,752.00㎡			
	合 計	285,276.59 285,404.59㎡	— ㎡	— ㎡	285,276.59 285,404.59㎡			
(2) 校 舎	専 用	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡	— ㎡	— ㎡	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡	大学全体		
	(91,397.40㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(91,397.40㎡)	食堂等・温室の取壊しを行い、新食堂を新築したことによる(30) 多目的講義棟の竣工による(元)			
(3) 教 室 等	講 義 室	77 67 84室	76 60 88室	307 306 283室	10 12室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
	演 習 室					多目的講義棟の竣工による(元)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			教員の退職による(30)		
	先進工学部 情報メディア工学科		17 18 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	先進工学部 情報メディア 工学科	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638] 212,978 [49,231] 212,468 [49,179] (217,860 [49,910])	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868] 1,750 [960] 1,642 [905] (1,619 [873])	359 [311] 283 [256] 233 [213] 359 [311] 283 [256] (261 [225])	5,277 5,208 5,511 5,277 5,208 (5,181)	21,995 22,398 24,128 21,995 22,398 (24,128)	279 377 369 279 377 (369)	
	計	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638] 212,978 [49,231] 212,468 [49,179] (217,860 [49,910])	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868] 1,750 [960] 1,642 [905] (1,619 [873])	359 [311] 283 [256] 233 [213] 359 [311] 283 [256] (261 [225])	5,277 5,208 5,511 5,277 5,208 (5,181)	21,995 22,398 24,128 21,995 22,398 (24,128)	279 377 369 279 377 (369)	
							機械・器具は、教育研究機器備品登録数(技術経営研究科を除く) 標本は、工業技術博物館の常設展示品数 現数値に変更(30) 現数値に変更(元)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		施設の改修事に伴い 現数値に変更(30)	
	4,251.69 4,614.68㎡		473 545		161,389			
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体 ハンドボールコート・ テニスコート・陸上競 技場・野球場	
	2,669.72㎡		武 道 館 ア ー チ ェ リ ー 場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	800千円	800千円	図書購入費	700千円	700千円	700千円
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	29,000千円	29,000千円	29,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,567千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		資金運用収入、手数料収入、国庫補助金収入等を充当						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	日 本 工 業 大 学									備 考	
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度		所在地
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度		
基幹工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.12	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子通信工学科	4	170	—	640	学士 (工学)	1.04	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
応用化学科	4	80	—	360	学士 (工学)	0.79	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
先進工学部											
ロボティクス学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.06	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報メディア工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.21	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学部											
建築学科	4	250	—	1000	学士 (工学)	1.16	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学部											
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止	
ものづくり環境学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
創造システム工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	—	—	昭和50	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電気電子工学科	4	160	—	640	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
情報工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	平成7	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
生活環境デザイン学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士前期課程											
環境共生システム学専攻	2	15	—	30	修士 (工学)	0.40	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	2	35	—	70	修士 (工学)	0.65	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.80	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.34	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
工学研究科											
博士後期課程											
環境共生システム学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
電子情報メディア工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
建築デザイン学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号		
技術経営研究科											
技術経営専攻	1	30	—	30	技術経営 修士 (専門職)	1.33	—	平成17	東京都千代田区神田神保町 2丁目5番地2		

大学の名称	〇〇短期大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成29年)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	入学定員超過の改善に 努めること。	指摘事項 (改善)	入学定員の厳格化について 取組み、今年度の入学定員 超過率は、1.08倍と改善し た。	履行済

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<先進工学部 情報メディア工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況
学長のリーダーシップのもと「教育研究推進室」を設置し、教育の改革、研究の推進に関する事項を企画・立案し、実施している。

② 実施状況

a 実施内容

○授業評価アンケート
学部、大学院博士前期課程において開講される科目（論文指導、ゼミナール科目等、一部の科目を除く）を受講した学生に対し以下の事項を問い、授業の質的向上への寄与を目指した。

①授業をふりかえってみよう
学生自身が授業を振り返る設問を設定。当該授業にかかる理解・習熟度把握、予習復習時間、疑問点があった場合にどのような行動をとったか（学修支援系センターを活用したか、第三者に質問したかなど）など。

②教員の教え方について
授業の運営実態（声量、説明の明快さ、授業時間の有効活用など）に留まらず、教員と学生間におけるコミュニケーション介在有無、クラス全体の受講態度、講義資料（テキスト、板書など）が予習復習に活用できるか。

③自由記述
「あなたがこの授業で最も印象に残ったことや得たもの」、換言すれば学びを通じて学生が成長できたかを問い、ネガティブな回答に偏らずポジティブな所見を見出すことも試みた。

○教員相互評価
授業のひとコマを参観して所見を報告するに留まらず、カリキュラムにおける科目の位置づけ、シラバスとの整合、評価方法などを含めた科目全体を評価するシステムを構築。参観者から寄せられた意見は批判的な見解に偏らぬよう、評価項目を【良かった点・参考になった点】と【改善を必要とする点】に細分化し、「…は良かった。しかし（参観者の本音は）…」と、参観者からきめ細かな意見を収集しやすい評価項目を構築。さらに、以下「教育改革シンポジウム」を授業参観前に開催し、当該学科におけるカリキュラムの骨子やディプロマポリシーなどの情報を全教職員が事前に把握したうえで授業参観に臨み、参観者の評価能力向上も目指した。

○教育改革シンポジウム（令和元年度現在までに59回実施）：全学で実施

平成30年度 教育改革シンポジウムテーマ

- ・第54回教育改革シンポジウム：教育改善2018の趣旨および共通教育と先進工学部カリキュラムの概要
- ・第55回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える
- ・第56回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える（第2回）
- ・第57回教育改革シンポジウム：金沢工業大学における教育改革 ー自ら考え行動する技術者の育成ー
- ・第58回教育改革シンポジウム：授業評価2018「教育目的を達成する授業とは」
- ・第59回教育改革シンポジウム：将来構想委員会WG活動報告

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付けているほか、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を別途に開催。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、着任当初に全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。また、学部1年生必修科目「フレッシュマンゼミ」科目における学長講話を希望者に対し聴講できる機会も設けている。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

b 実施方法

○授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートは、IR室が主体となり実施している。従来は紙媒体を介し実施したが、平成28年度からは教務課の協力のもと、同時期に導入したポータルサイトの「アンケート機能」を利用し、端末機器から記述・入力できる方式へ変更。これにより、集計時間の大幅短縮およびアンケート回収率向上等の効果が現れ、迅速かつ正確にアンケート結果を教員へ還元できる体制を構築できた。平成29年度以降はPDCAサイクルに即して設問を見直し、学生が一評価者となって回答するのではなく、既述のとおり、学生が授業を振り返り「授業を通じどのように成長したか」を問う枠組へと再構築した。

○授業公開・参観及び評価

授業公開は学科等の輪番制で実施し、教員は担当科目の中から1科目を公開する。授業を公開する教員は、カリキュラムマップ、シラバス、テキスト、授業、講義資料、試験問題等をあらかじめ公開し、公開期間は3週間/学期とする。教員と事務職員が授業を参観し、1人当たり1.2科目/学期、評価を行う。評価結果は所定の報告書に記載し、教育研究推進室へ提出する。同室はそれを取りまとめ、改善案等をコメントして当該学科へフィードバックする。平成28年度からは、学期末に公開シンポジウムを実施し、授業を公開した教員と評価した者との間で情報の共有および意見交換を図るのみならず、当該年度における授業公開・相互評価結果の総括を行う場を設けた。本学では単に授業参観をするのみではなく、評価の結果をレーダーチャートに図示し、科目を総合的に評価する仕組みを構築した。またPDCAサイクルをしっかりと回し、改善に結実できるプログラムを目指している。このほか、事務職員の参加により教職協働体制の構築も果たした。

○教育改革シンポジウム

教育改革・授業改善等に関するテーマについて、多くの教職員の自主的な参加を得て開催している。なお当シンポジウムは、教職員が参加しやすいように多くは午後5時以降に開始時間を設定している。

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付け、教育および研究における知見の共有を目指しているのみならず、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を開催。公的研究費の使用ルール、研究倫理、安全保障貿易管理のほか、研究における安全を情報共有する機会と位置付けている。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。大学の概要・組織から年間スケジュール、授業実施のための基礎的事項、教学関係の情報等を説明している。また、新入生に対して学長が大学の歴史や綱領、および大学の学びに対する姿勢を話す「学長メッセージ」を新任教員も聴講し、本学の

教育の根幹にかかる部分の理解を深めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○授業評価アンケート

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教員相互評価

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教育改革シンポジウム

令和元年度現在までに59回開催している。現在、約100人前後の教職員（教員の7割、事務職員の5割）が参加している。

○ファカルティディベロップメント（FD）研修会

全教員が参加し、年に2回程度開催している。

○新任教員の研修

毎年、新任教員全員を対象に研修を実施している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業評価アンケートの結果は教員へ還元されているが、従来はそれを授業に反映するかどうかは担当教員にまかされていたため、必ずしも有効利用されているとは言い難かった。しかし、平成18年度から開始した教員による相互評価は、教員の授業への改善意識を大きく変え、授業改善に役立っている。

その理由として、以下の理由が挙げられる。

①授業の参観報告書は、当初は授業に対しての改善点を指摘する批判的な内容に留まっていたが、相互評価を重ねていくにつれ、授業改善に結びつく具体的な内容の記述が多くなったこと。

②教室の規模が受講者数に対し適正か、マイクやプロジェクターなどの設備機器に不備がないかなど、授業環境の改善に寄与する意見が増えていったこと。

③平成29年度より「良かった、がしかし・・・」の報告書形式に改め、参観者の本音を引き出すことができた。また、参観者の意見に対し授業担当者が所見等をコメントする、コメントシートによる振り返りの機会を提供し、授業担当者が参観者の意見に対しフィードバックする枠組も構築した。

さらに、学生による授業評価アンケートと、授業参観を通じた教職員からの相互評価を、学期の途中で同時に実施することにより、学生の評価と教員の評価との異同を分析し、授業改善の評価を受けた同じ学期内で直ちに改善できる体制があることも良い影響を与えたと考えられる。

教育改革（授業改善）シンポジウムでは、授業改善や学生との接し方、学生が授業で得たものなどのテーマで報告があり、全学的な共通理解や教職員相互の意思疎通につながっている。

多くの教職員が、シンポジウムで取り上げたテーマや、シンポジウムで提起された意見・提案を意識するようになることが伺え、全体的な向上につながっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期（春学期・秋学期）実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を集計し、年次要覧に掲載している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

先進工学部では、工学の基礎となる技術・知識の習得と共に、科学技術の進歩や産業構造の変化等に対応できる力、新たな価値観に基づく先進技術を創造・開発する能力を身につけた「ロボティクス」および「情報メディア工学」分野の先進技術者を養成することを教育研究上の目的としている。

また、情報メディア工学科は、基礎知識・技能、及び「メディアデザイン」、「ソフトウェアデザイン」、「ビジネスシステム」に対して必要とされる水準を満たすレベルの先進的な知識や技能を身につけた課題発見能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、およびチームで仕事をする能力を十分に有した、自立した情報技術者を養成することを目的としている。

平成30年4月に開設のため、在籍者は1年生のみであり、カリキュラム等に大きな変更はない。1年生は、「フレッシュマンゼミ」をはじめとする専門科目を通じて、学習スキルやモチベーションを高めると共に、将来を考えた学習目標を個々に模索しながら学習に取り組んでいる。

平成30年度以降における実験科目等の授業で必要な教育設備等についても導入計画が進められている。

平成30年4月より、学科の運営や全学的な調整等を担う会議として「教学運営調整会議」が設置された。今後は、新学部・学科の履行状況を的確に把握し、必要な事項を審議・検討し、実行していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- 平成15年3月 公表 (大学基準協会提出の報告書)
- 平成20年9月 公表 (日本高等教育評価機構の報告書)
- 平成23年5月 公表 (平成21・22年度自己評価報告書)
- 平成25年10月 公表 (平成23・24年度改善報告書)
- 平成27年4月 公表 (平成25・26年度自己点検評価報告書)
- 平成28年4月 公表 (平成27年度自己点検評価報告書)
- 平成30年4月 公表 (平成28・29年度自己点検評価報告書)

b 公表方法

○図書館に自己点検・評価報告書を設置している。また、大学ホームページにも公開している(上記の公表時期参照)

○その他に、大学ホームページ上にも下記のを公開している。

- ・大学基準協会による相互評価結果、日本高等教育評価機構からの評価結果報告書
- ・日本高等教育評価機構へ提出した報告書

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受け、大学評価基準に適合していると認定された。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 9月 30日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

注3

大学番号：私111

[平成30年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

日本工業大学 建築学部 建築学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 日本工業大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教務部 教務課

職名・氏名 課長補佐 アナイ 穴井 マサヒロ 正洋

電話番号 0480-34-4111

（夜間） 0480-34-4111

F A X 0480-33-7527

e-mail kyomu@nit.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

建築学部

＜建築学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	38
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 日本工業大学

(2) 大学名

日本工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒345-8501
埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤナギサワ アキラ) 柳澤 章 (平成25年7月)		
学長	(ナリタ ケンイチ) 成田 健一 (平成27年12月)		
学部長	(ナリタ ケンイチ) 成田 健一 (平成30年4月)		
学科長等	(アダチ マコト) 足立 真 (平成30年4月)		平成30年4月より、役職名称を「学科主任」から「学科長」に変更(30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
建築学部 建築学科 学士（工学）	工学関係	4年	250人	- 年次人	1000人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	250 (—) [—]	— (—) [—]	250 (—) [—]	— (—) [—]	1.16倍	一倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	1105 (—) [10]	3 (—) [3]	1390 (—) [17]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	1088 (—) [10]	2 (—) [2]	1365 (—) [17]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	515 (—) [5]	2 (—) [2]	484 (—) [10]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	292 (—) [5]	1 (—) [1]	289 (—) [9]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		1.17		1.15				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	273 [5] (—)	1 [1] (—)	303 [9] (14)	1 [1] (—)						
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	259 [5] (—)	— [—] (—)					
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)			274 [6] (—)	563 [15] (14)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	292 人	20 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	20 人	1 人	就学意欲の低下(2人)、他の教育機関に転学(4人)、就職(3人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、家庭の事情(9人)、[他の教育機関に転学(1人)]
令和元年度	563 人	0 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		20 人		20 人	1 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{20}{292} = \boxed{6.84} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{563} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<建築学部 建築学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目(学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春	1								2
	スタディスキルズ II	1秋	1								2
	学修と実工学 I	1春	1								7
	学修と実工学 II	1秋	1								7
	日本語リテラシー基礎 I	1春	1								4
	日本語リテラシー基礎 II	1秋	1								4
	キャリアデザイン I	2春	2								5
	キャリアデザイン II	2秋	2								5
	ものづくり基礎実習 I	1春	1								6
	ものづくり基礎実習 II	1秋	1								4
	現代社会の諸問題	2春・秋	2								2
	企業倫理	2秋	2								1
	起業とビジネスプラン	3春	2								1
	新会社設立と技術経営	3秋	2								1
日本での生活と学習	1春・秋	1								1	
日本事情 I	1春	2								1	
日本事情 II	1秋	2								1	
共通教育科目(教養コア科目)	哲学	1秋・2春	2								1
	文学	1春・秋	2								1
	歴史学	1秋・2春	2								1
	健康心理学	1秋・2春	2								3
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2								3
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2								1
	経済学	1秋・2春	2								1
	現代産業論	1秋・2春	2								1
	科学へのいざない	1春・秋	2								1
	健康とスポーツ I	1春・秋	1								2
健康とスポーツ II	2春・秋	1								2	
共通教育科目(教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2								1
	倫理学	2秋	2								1
	異文化理解	2春	2								5
	異文化交流	2秋	2								5
	会計学	2春・秋	2								1
	社会福祉概論	2春	2								1
	宇宙の探求	2秋	2								1
	物質の探求	2秋	2								2
	教養特別講義	3春	2								2
	健康と体育	3秋	2								2
共通教育科目(言語系科目)	基礎英語 I	1春	1								5
	基礎英語 II	1春・秋	1								14
	リーディングスキル I	1春・秋・2春	1								16
	リーディングスキル II	1秋・2春・秋	1								16
	英会話 I	1秋・2春	1								17
	英会話 II	2秋	1								7
	上級英語 I	2・3春	1								13
	上級英語 II	2・3秋	1								13
	プレゼンテーション I	1春・秋・2春	1								18
	プレゼンテーション II	2・3秋	1								18
	日本語表現 I	1春	1								1
	日本語表現 II	1秋	1								1
	日本語 I	1春	1								1
	日本語 II	1秋	1								1
日本語 III	2春	1								1	
日本語 IV	2秋	1								1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目(学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春	1									5
	スタディスキルズ II	1秋	1									5
	学修と実工学 I	1春	1									8
	学修と実工学 II	1秋	1									8
	日本語リテラシー基礎 I	1春	1									5
	日本語リテラシー基礎 II	1秋	1									5
	キャリアデザイン I	2春	2									6
	キャリアデザイン II	2秋	2									6
	ものづくり基礎実習 I	1春	1									9
	ものづくり基礎実習 II	1秋	1									5
	現代社会の諸問題	2春・秋	2									2
	企業倫理	2秋	2									1
	起業とビジネスプラン	3春	2									1
	新会社設立と技術経営	3秋	2									1
日本での生活と学習	1春・秋	1									1	
日本事情 I	1春	2									1	
日本事情 II	1秋	2									1	
共通教育科目(教養コア科目)	哲学	1秋・2春	2									1
	文学	1春・秋	2									1
	歴史学	1秋・2春	2									1
	健康心理学	1秋・2春	2									2
	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋	2									2
	法学(日本国憲法)	1春・秋	2									1
	経済学	1秋・2春	2									1
	現代産業論	1秋・2春	2									1
	科学へのいざない	1春・秋	2									4
	健康とスポーツ I	1春・秋	1									5
健康とスポーツ II	2春・秋	1									5	
Focus on Inter-Cultural Communication	1春・秋	2									1	
共通教育科目(教養アドバンスト科目)	宗教学	2秋	2									1
	倫理学	2秋	2									1
	異文化理解	2春	2									5
	異文化交流	2秋	2									5
	会計学	2春・秋	2									1
	社会福祉概論	2春	2									1
	宇宙の探求	2秋	2									1
	物質の探求	2秋	2									2
	教養特別講義	3春	2									2
	健康と体育	3秋	2									2
Focus on Cross-Cultural Understanding	2春	2									2	
共通教育科目(言語系科目)	基礎英語 I	1春	1									12
	基礎英語 II	1春・秋	1									16
	リーディングスキル I	1春・秋・2春	1									17
	リーディングスキル II	1秋・2春・秋	1									17
	英会話 I	1秋・2春	1									20
	英会話 II	2秋	1									14
	上級英語 I	2・3春	1									16
	上級英語 II	2・3秋	1									16
	プレゼンテーション I	1春・秋・2春	1									19
	プレゼンテーション II	2・3秋	1									19
	海外英語セミナー	2秋	2									1
	日本語表現 I	1春	1									1
	日本語表現 II	1秋	1									1
	日本語 I	1春	1									1
日本語 II	1秋	1									1	
日本語 III	2春	1									1	
日本語 IV	2秋	1									1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								6
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								9
	数学	1春・秋	2								7
	応用解析	1春・秋		2							6
	確率論	1秋・2春		2							1
	統計学	1秋・2春		2							1
	工学基礎物理	1春・秋		2							6
	物理Ⅰ	1春・秋	2								7
	物理Ⅱ	1春・秋		2							6
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								3
	化学Ⅰ	1春		2							2
	化学Ⅱ	1春		2							2
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2							2
	環境と科学技術	1秋		2							2
	地球環境と人間社会	2春		2		1					3
	環境の社会学	2春		2							2
	地球システムのしくみ	2秋		2							1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2							1
小計(72科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								1
	線形代数Ⅰ	2・3春		2							1
	代数学Ⅰ	2・3春		2							1
	幾何学Ⅰ	2・3春		2							1
	解析学Ⅰ	2・3春		2							1
	応用数学Ⅰ	3春		2							1
	線形代数Ⅱ	2・3秋		2							1
	代数学Ⅱ	2・3秋		2							1
	幾何学Ⅱ	2・3秋		2							1
	解析学Ⅱ	2・3秋		2							1
応用数学Ⅱ	3秋		2							1	
専門科目 (学科専門科目)	フレッシュマンゼミ	1春	1			11	9		2		
	建築表現	1春	3				2				
	建築図法	1春		2			2				
	建築と住まい	1春		1		5					
	生活と住まい	1春		1		4	1				
	デッサン・造形演習	1春		1						1	
	建築設計Ⅰ	1秋	3			1	1				
	建築計画Ⅰ	1秋	2				1				
	建築のしくみ	1秋	2				3				
	構造計画	1秋	2						2		
	環境計画	1秋	2			2					
	環境共生住宅	1秋	2				1				
	ケア空間体験実習	1秋	1				1				
	ヒューマンケアと生活空間	1秋	1				1				
	近代建築史	2春	2			1					
	構造力学・演習Ⅰ	2春	3			1	2		1		
	環境工学Ⅰ	2春	2				1				
	建築設計Ⅱ	2春	3			3					
	建築CADⅠ	2春	2							1	
	建築計画Ⅱ	2春	2			1					
	建築材料	2春	2				1				
	建築仕上材料	2春	2				1				
	住空間の設計	2春	3			1					
	インテリアCADⅠ	2春	2							1	
	高齢者・障がい者の生活と空間	2春	2			1					
	西洋建築史	2秋	2			2					
	構造力学・演習Ⅱ	2秋	3			2	3		1		
	環境工学Ⅱ	2秋	2			2					
	建築法規	2秋	2								1
	情報処理	2秋	2				1				
	建築設計Ⅲ	2秋	3				2				3
	建築CADⅡ	2秋	2								1
建築計画Ⅲ	2秋	2				1					
木質構造	2秋	2			1						
鉄筋コンクリート構造	2秋	2				1					
環境共生の設計	2秋	3				1				1	
インテリアの空間構成	2秋	2			1						
インテリアワークショップ	2秋	2			1						
ライフスタイルと住空間	2秋	2				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学Ⅰ	1春・秋	1								11
	基礎数学Ⅱ	1春・秋	1								11
	数学	1春・秋	2								11
	応用解析	1春・秋		2							11
	確率論	1秋・2春		2							2
	統計学	1秋・2春		2							2
	工学基礎物理	1春・秋		2							10
	物理Ⅰ	1春・秋	2								10
	物理Ⅱ	1春・秋		2							10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1								8
	化学Ⅰ	1春		2							6
	化学Ⅱ	1春		2							6
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2							4
	環境と科学技術	1秋		2							3
	地球環境と人間社会	2春		2		1					3
	環境の社会学	2春		2							2
	地球システムのしくみ	2秋		2							1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2							1
小計(75科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2								4
	線形代数Ⅰ	2・3春		2							2
	代数学Ⅰ	2・3春		2							1
	幾何学Ⅰ	2・3春		2							2
	解析学Ⅰ	2・3春		2							2
	応用数学Ⅰ	3春		2							2
	線形代数Ⅱ	2・3秋		2							2
	代数学Ⅱ	2・3秋		2							1
	幾何学Ⅱ	2・3秋		2							2
	解析学Ⅱ	2・3秋		2							2
応用数学Ⅱ	3秋		2							1	
専門科目 (学科専門科目)	フレッシュマンゼミ	1春	1			12	10		2		
	建築表現	1春	3			1	3				3
	建築図法	1春		2			2				
	建築と住まい	1春		1		6	1				
	生活と住まい	1春		1		4	4				
	デッサン・造形演習	1春		1							1
	建築設計Ⅰ	1秋	3			2	1				7
	建築計画Ⅰ	1秋	2				2				
	建築のしくみ	1秋	2				3				
	構造計画	1秋	2						2		
	環境計画	1秋	2				2				
	環境共生住宅	1秋	2				2				
	ケア空間体験実習	1秋	1				2	2			
	ヒューマンケアと生活空間	1秋	1				1				
	近代建築史	2春	2			1					
	構造力学・演習Ⅰ	2春	3			2	2		2		
	環境工学Ⅰ	2春	2				2				
	建築設計Ⅱ	2春	3			4					4
	建築CADⅠ	2春	2								1
	建築計画Ⅱ	2春	2			1					
	建築材料	2春	2				1				
	建築仕上材料	2春	2				1				
	住空間の設計	2春	3			1					1
	インテリアCADⅠ	2春	2								1
	高齢者・障がい者の生活と空間	2春	2				1				
	西洋建築史	2秋	2			2					
	構造力学・演習Ⅱ	2秋	3			2	3		1		
	環境工学Ⅱ	2秋	2			2					
	建築法規	2秋	2								1
	情報処理	2秋	2				1				
	建築設計Ⅲ	2秋	3				3				3
	建築CADⅡ	2秋	2								1
建築計画Ⅲ	2秋	2				1					
木質構造	2秋	2			1						
鉄筋コンクリート構造	2秋	2				1					
環境共生の設計	2秋	3				1				1	
インテリアの空間構成	2秋	2			1						
インテリアワークショップ	2秋	2			1						
ライフスタイルと住空間	2秋	2				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)	木造住宅の構造	2秋	2			1						
	インテリアCADⅡ	2秋	2								1	
	福祉空間の設計	2秋	3			1						1
	協働デザインの手法	2秋	2				1					1
	日本建築史	3春	2			1						
	建築設備	3春	2			2						
	建築環境実験演習	3春	3			2	1					
	施工と監理	3春	2								1	
	インターンシップ・キャリア工房	3春	2			2				1		
	建築設計Ⅳ	3春	3				2					
	建築プレゼンテーション	3春	2								1	
	都市とみどり	3春	2								1	
	建築基準法と都市計画	3春	2								1	
	空間構成論	3春	2			1						
	構造・材料実験演習	3春	3			1	3			2		
	構造力学・演習Ⅲ	3春	3				1			1		
	鋼構造	3春	2							1		
	地盤工学	3春	3				1					
	工芸デザイン	3春	2								1	
	デジタルプレゼンテーション	3春	2			1						
	インテリアの空間演出	3春	2			1						
	生活空間実験演習	3春	2				2					
	生活空間の設計Ⅰ	3春	3			1						
	福祉施設の計画	3春	2				1					
	介護福祉概論	3春	2			1						
	専門職連携実習	3春	1			1	1					
	住宅史	3秋	2			1						
	現代建築論	3秋	2			1						
	建築設計Ⅴ	3秋	3			2						
	まちづくりと地域計画	3秋	2			1						
	世界遺産とアジアの建築	3秋	2			1						
	建築作品と設計手法	3秋	2				1					
	構造工学演習	3秋	2			1	2			2		
	構造力学・演習Ⅳ	3秋	3							1		
	建築・都市の設備計画	3秋	2			2						
	電気設備	3秋	2								1	
	建築設備演習	3秋	2			2						
	建築積算	3秋	2								1	
	生活空間の設計Ⅱ	3秋	3			1						
	まちづくりと福祉	3秋	2			1						
生活空間の設備計画	3秋	2				1						
住まいの文化論	3秋	2			1							
卒業計画Ⅰ	4春	4			11	9			2			
卒業計画Ⅱ	4秋	4			11	9			2			
物理体感工房Ⅰ	1春	1								4		
物理体感工房Ⅱ	1秋	1								4		
物理体感工房Ⅲ	2春	1								4		
物理体感工房Ⅳ	2秋	1								4		
2×4木造建築工房Ⅰ	2春	1			1	1						
2×4木造建築工房Ⅱ	2春	1			1	1						
2×4木造建築工房Ⅲ	2秋	1			1	1						
小計(101科目)	-											
教職科目	教職論	1秋			2						1	
	教育原理	2春			2						1	
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2						2	
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2						2	
	教育制度論	2秋			2						1	
	教育課程論	2春			2						1	
	技術科教育法Ⅰ	2春			2						1	
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2						1	
	技術科教育法Ⅲ	3春			2						1	
	中学技術の教材開発	3秋			2						1	
	工業科教育法	3通			4						1	
	数学科教育法Ⅰ	2通			4						1	
	数学科教育法Ⅱ	3通			4						1	
	道徳教育の指導法	3春			2						1	
特別活動論	3秋			2						1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)	木造住宅の構造	2秋	2			1			1			
	インテリアCADⅡ	2秋	2									1
	福祉空間の設計	2秋	3			1						1
	協働デザインの手法	2秋	2				1					1
	日本建築史	3春	2			1						
	建築設備	3春	2			2						
	建築環境実験演習	3春	3			2	1					
	施工と監理	3春	2								1	
	インターンシップ・キャリア工房	3春	2			2					1	
	建築設計Ⅳ	3春	3				2					
	建築プレゼンテーション	3春	2									1
	建築計画Ⅳ	3春	2							1		
	都市とみどり	3春	2								1	
	建築基準法と都市計画	3春	2								1	
	空間構成論	3春	2			1						
	構造・材料実験演習	3春	3			1	3			3	2	
	構造力学・演習Ⅲ	3春	3				1			1	1	
	鋼構造	3春	2								1	
	地盤工学	3春	3				1					
	工芸デザイン	3春	2									1
	デジタルプレゼンテーション	3春	2			1						
	インテリアの空間演出	3春	2			1						
	生活空間実験演習	3春	2				2					
	生活空間の設計Ⅰ	3春	3			1						
	福祉施設の計画	3春	2				1					
	介護福祉概論	3春	2			1						
	専門職連携実習	3春	1			1	1					
	住宅史	3秋	2			1						
	現代建築論	3秋	2			1						
	建築設計Ⅴ	3秋	3			2						
	まちづくりと地域計画	3秋	2			1						
	世界遺産とアジアの建築	3秋	2			1						
	建築作品と設計手法	3秋	2				1					
	構造工学演習	3秋	2			1	2			2	2	
	構造力学・演習Ⅳ	3秋	3								1	
	建築・都市の設備計画	3秋	2			2						
	電気設備	3秋	2									1
	建築設備演習	3秋	2			2						
	建築積算	3秋	2									1
	生活空間の設計Ⅱ	3秋	3			1						
まちづくりと福祉	3秋	2			1							
生活空間の設備計画	3秋	2				1						
住まいの文化論	3秋	2			1							
卒業計画Ⅰ	4春	4			11	9			2			
卒業計画Ⅱ	4秋	4			11	9			2			
物理体感工房Ⅰ	1春	1									6	
物理体感工房Ⅱ	1秋	1									6	
物理体感工房Ⅲ	2春	1									6	
物理体感工房Ⅳ	2秋	1									6	
木造建築工房Ⅰ	2春	1				2	1					
木造建築工房Ⅱ	2春	1				2	1					
木造建築工房Ⅲ	2秋	1				2	1					
小計(102科目)	-											
教職科目	教職論	1秋			2						3	
	教育原理	2春			2						2	
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2						1	
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2						1	
	教育制度論	2秋			2						2	
	教育課程論	2春			2						2	
	技術科教育法Ⅰ	2春			2						1	
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2						2	
	技術科教育法Ⅲ	3春			2						1	
	中学技術の教材開発	3秋			2						1	
	工業科教育法	3通			4						1	
	数学科教育法Ⅰ	2通			4						1	
	数学科教育法Ⅱ	3通			4						1	
	道徳教育の指導法	3春			2						1	
特別活動論	3秋			2						1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教職科目	教育工学	2春			2						1
	生徒指導論	2春			2						1
	カウンセリング	3春			2						1
	教育実習Ⅰ	3秋			1						2
	教育実習Ⅱ	4通			2						3
	教育実習Ⅲ	4通			4						2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2						1
	介護体験Ⅰ	2秋			1						1
	木材加工	2春			2						2
	金属加工	2春			2						1
	栽培	2春			2						1
	機械実習	2秋			2						1
	機械工学通論	3秋・4春			2						1
	電気電子基礎・演習	3秋・4春			3						1
	職業指導	3通			4						1
小計(30科目)	-										
合計(203科目)	-										
卒業要件及び履修方法											
必修科目30単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上(建築コースはコース必修科目6単位、生活環境デザインコースはコース必修科目4単位を含む)を修得し、合計124単位以上を修得すること。											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教職科目	教育の方法と技術	2春秋			2						1
	生徒指導論	2春			2						3
	教育相談	3春秋			2						1
	教育実習Ⅰ	3秋			1						2
	教育実習Ⅱ	4通			2						3
	教育実習Ⅲ	4通			4						2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2						1
	介護体験Ⅰ	2秋			1						2
	木材加工Ⅰ	2春			2						2
	木材加工Ⅱ	2秋			2	1					2
	金属加工Ⅰ	2春			2						2
	金属加工Ⅱ	3春			2						1
	栽培Ⅰ	2春			2						1
	栽培Ⅱ	2秋			2						1
	機械実習	2秋			2						2
機械工学通論	3秋・4春			2						1	
電気電子基礎・演習	3秋・4春			3						1	
職業指導	3通			4						1	
小計(33科目)	-										
合計(210科目)	-										
卒業要件及び履修方法											
必修科目30単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上(建築コースはコース必修科目6単位、生活環境デザインコースはコース必修科目4単位を含む)を修得し、合計124単位以上を修得すること。											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (学習基盤・キャリア科目)	スタディスキルズ I	1春		1								5
	スタディスキルズ II	1秋		1								5
	学修と実工学 I	1春		1								8
	学修と実工学 II	1秋		1								8
	日本語リテラシー基礎 I	1春		1								6
	日本語リテラシー基礎 II	1秋		1								6
	キャリアデザイン I	2春		2								5
	キャリアデザイン II	2秋		2								5
	ものづくり基礎実習 I	1春		1								9
	ものづくり基礎実習 II	1秋		1								5
	現代社会の諸問題	2春・秋		2								2
	企業倫理	2秋		2								1
	起業とビジネスプラン	3春		2								1
	新会社設立と技術経営	3秋		2								1
共通教育科目 (教養コア科目)	哲学	1秋・2春		2								1
	文学	1春・秋		2								1
	歴史学	1秋・2春		2								1
	健康心理学	1秋・2春		2								3
共通教育科目 (教養アドバンス科目)	自己理解と対人関係の心理学	1春・秋		2								4
	法学(日本国憲法)	1春・秋		2								1
	経済学	1秋・2春		2								1
	現代産業論	1秋・2春		2								1
	科学へのいざない	1春・秋		2								3
	健康とスポーツ I	1春・秋		1								4
	健康とスポーツ II	2春・秋		1								2
	宗教学	2秋		2								1
	倫理学	2秋		2								1
	異文化理解	2春		2								5
共通教育科目 (言語系科目)	異文化交流	2秋		2								5
	会計学	2春・秋		2								1
	社会福祉概論	2春		2								1
	宇宙の探求	2秋		2								1
	物質の探求	2秋		2								1
	教養特別講義	3春		2								2
	健康と体育	3秋		2								2
	基礎英語 I	1春		1								14
	基礎英語 II	1春・秋		1								16
	リーディングスキル I	1春・秋・2春	1									18
リーディングスキル II	1春・秋・2春	1									18	
英会話 I	1秋・2春		1								18	
英会話 II	2秋		1								6	
上級英語 I	2・3春		1								12	
上級英語 II	2・3秋		1								12	
プレゼンテーション I	1春・秋・2春		1								19	
プレゼンテーション II	2・3秋		1								17	
日本語表現 I	1春		1								1	
日本語表現 II	1秋		1								1	
日本語 I	1春		1								2	
日本語 II	1秋		1								2	
日本語 III	2春		1								1	
日本語 IV	2秋		1								1	
共通教育科目 (理数系科目)	基礎数学 I	1春・秋		1								11
	基礎数学 II	1春・秋		1								11
	数学	1春・秋	2									11
	応用解析	1春・秋		2								11
	確率論	1秋・2春		2								2
	統計学	1秋・2春		2								2
	工学基礎物理	1春・秋		2								10
	物理 I	1春・秋	2									10
	物理 II	1春・秋		2								10
	工学基礎物理実験	1春・秋	1									8
	化学 I	1春		2								4
化学 II	1春		2								4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (環境系科目)	エコ入門	1春・秋		2								4
	環境と科学技術	1秋		2								2
	地球環境と人間社会	2春		2		1						3
	環境の社会学	2春		2								2
	地球システムのしくみ	2秋		2								1
	生命と生態系のしくみ	1秋・2春		2								1
	小計(72科目)	-										
専門科目 (専門教育科目)	情報リテラシー	1春・秋	2									2
	線形代数 I	2・3春		2								1
	代数学 I	2・3春		2								1
	幾何学 I	2・3春		2								1
	解析学 I	2・3春		2								1
	応用数学 I	3春		2								1
	線形代数 II	2・3秋		2								1
	代数学 II	2・3秋		2								1
	幾何学 II	2・3秋		2								1
	解析学 II	2・3秋		2								1
応用数学 II	3秋		2								1	
専門科目 (学科専門科目)	フレッシュマンゼミ	1春	1			12	10		2			
	建築表現	1春	3			1	3					3
	建築図法	1春		2			2					
	建築と住まい	1春		1		5	1					
	生活と住まい	1春		1		4	4					
	デッサン・造形演習	1春		1								1
	建築設計 I	1秋	3			2	1					4
	建築計画 I	1秋	2				2					
	建築のしくみ	1秋	2				3					
	構造計画	1秋	2						2			
	環境計画	1秋	2			2						
	環境共生住宅	1秋	2				2					
	ケア空間体験実習	1秋	1			2	2					
	ヒューマンケアと生活空間	1秋	1				1					
	近代建築史	2春	2			1						
	構造力学・演習 I	2春	3			1	2		1			
	環境工学 I	2春	2				1					
	建築設計 II	2春	3			3						
	建築CAD I	2春	2									1
	建築計画 II	2春	2			1						
	建築材料	2春	2				1					
	建築仕上材料	2春	2				1					
	住空間の設計	2春	3			1						
	インテリアCAD I	2春	2									1
	高齢者・障がい者の生活と空間	2春	2			1						
	西洋建築史	2秋	2			2						
	構造力学・演習 II	2秋	3			1	3		1			
	環境工学 II	2秋	2			2						
	建築法規	2秋	2									1
	情報処理	2秋	2				1					
	建築設計 III	2秋	3				2					
	建築CAD II	2秋	2									1
	建築計画 III	2秋	2				1					
	木質構造	2秋	2			1						
	鉄筋コンクリート構造	2秋	2				1					
	環境共生の設計	2秋	3				1					
インテリアの空間構成	2秋	2			1							
インテリアワークショップ	2秋	2			1							
ライフスタイルと住空間	2秋	2				1						
木造住宅の構造	2秋	2			1							
インテリアCAD II	2秋	2									1	
福祉空間の設計	2秋	3			1							
協働デザインの手法	2秋	2				1						
日本建築史	3春	2			1							
建築設備	3春	2			2							
建築環境実験演習	3春	3			2	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(学科専門科目)	施工と監理	3春		2								
	インターンシップ・キャリア工房	3春		2		2				1		
	建築設計Ⅳ	3春		3			2					
	建築プレゼンテーション	3春		2								1
	都市とみどり	3春		2								1
	建築基準法と都市計画	3春		2								1
	空間構成論	3春		2		1						
	構造・材料実験演習	3春		3		1	3			2		
	構造力学・演習Ⅲ	3春		3			1			1		
	鋼構造	3春		2						1		
	地盤工学	3春		3			1					
	工芸デザイン	3春		2								1
	デジタルプレゼンテーション	3春		2		1						
	インテリアの空間演出	3春		2		1						
	生活空間実験演習	3春		2			2					
	生活空間の設計Ⅰ	3春		3		1						
	福祉施設の計画	3春		2			1					
	介護福祉概論	3春		2		1						
	専門職連携実習	3春		1		1	1					
	住宅史	3秋		2		1						
	現代建築論	3秋		2		1						
	建築設計Ⅴ	3秋		3		2						
	まちづくりと地域計画	3秋		2		1						
	世界遺産とアジアの建築	3秋		2		1						
	建築作品と設計手法	3秋		2			1					
	構造工学演習	3秋		2		1	2			2		
	構造力学・演習Ⅳ	3秋		3						1		
	建築・都市の設備計画	3秋		2		2						
	電気設備	3秋		2								1
	建築設備演習	3秋		2		2						
	建築積算	3秋		2								1
	生活空間の設計Ⅱ	3秋		3		1						
	まちづくりと福祉	3秋		2		1						
	生活空間の設備計画	3秋		2			1					
	住まいの文化論	3秋		2		1						
	卒業計画Ⅰ	4春	4			11	9			2		
	卒業計画Ⅱ	4秋	4			11	9			2		
	物理体感工房Ⅰ	1春		1								6
	物理体感工房Ⅱ	1秋		1								6
	物理体感工房Ⅲ	2春		1								4
物理体感工房Ⅳ	2秋		1								4	
2×4木造建築工房Ⅰ	2春		1		2	1						
2×4木造建築工房Ⅱ	2春		1		2	1						
2×4木造建築工房Ⅲ	2秋		1		2	1						
小計(101科目)		-										
教職科目	教職論	1秋			2							3
	教育原理	2春			2							1
	教育心理・青年心理Ⅰ	3春			2							2
	教育心理・青年心理Ⅱ	3秋			2							2
	教育制度論	2秋			2							1
	教育課程論	2春			2							1
	技術科教育法Ⅰ	2春			2							1
	技術科教育法Ⅱ	2秋			2							1
	技術科教育法Ⅲ	3春			2							1
	中学技術の教材開発	3秋			2							1
	工業科教育法	3通			4							1
	数学科教育法Ⅰ	2通			4							1
	数学科教育法Ⅱ	3通			4							1
	道德教育の指導法	3春			2							1
	特別活動論	3秋			2							1
	教育工学	2春			2							1
	生徒指導論	2春			2							1
	カウンセリング	3春			2							1
	教育実習Ⅰ	3秋			1							2
	教育実習Ⅱ	4通			2							3
	教育実習Ⅲ	4通			4							2
	教職実践演習(中・高)	4秋			2							1
介護体験Ⅰ	2秋			1							1	
木材加工	2春			2							2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職科目	金属加工	2春			2							1
	栽培	2春			2							1
	機械実習	2秋			2							1
	機械工学通論	3秋・4春			2							1
	電気電子基礎・演習	3秋・4春			3							1
	職業指導	3通			4							1
	小計(30科目)	-										
	合計(203科目)	-										
卒業要件及び履修方法												
必修科目30単位を含み、共通教育科目から44単位以上、学科専門科目から74単位以上(建築コースはコース必修科目6単位、生活環境デザインコースはコース必修科目4単位を含む)を修得し、合計124単位以上を修得すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・兼任教員の新規採用・兼任教員の新規採用に伴う担当教員の見直しの理由により、「スタディスキルズⅠ・Ⅱ」、「学修と実工学Ⅰ・Ⅱ」、「日本語リテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ものづくり基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「日本での生活と学習」、「日本事情Ⅰ・Ⅱ」、「自己理解と対人関係の心理学」、「科学へのいざない」、「健康とスポーツⅠ」、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「リーディングスキルⅠ・Ⅱ」、「英会話Ⅰ・Ⅱ」、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」、「プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」、「数学」、「応用解析」、「確率論」、「統計学」、「工学基礎物理」、「物理Ⅰ・Ⅱ」、「工学基礎物理実験」、「化学Ⅰ・Ⅱ」、「エコ入門」、「情報リテラシー」、「物理体感工房Ⅰ・Ⅱ」において「兼任・兼任」の人数を変更。
 ・「フレッシュマンゼミ」において、専任教授・専任准教授の新規採用に伴い、専任教員等の配置における「教授11」・「准教授9」から「教授12」・「准教授10」に変更。
 ・担当教員の充実の理由により、「建築表現」の専任教員等の配置における「教授0」・「准教授2」から「教授1」・「准教授3」に変更、「兼任・兼任0」から「兼任・兼任3」に変更。
 ・担当教員の充実の理由により、「建築と住まい」の専任教員等の配置における「准教授0」から「准教授1」に変更。
 ・専任准教授の新規採用と担当教員の充実の理由により、「生活と住まい」の専任教員等の配置における「准教授1」から「准教授4」に変更。
 ・担当教員の充実の理由により、「建築設計Ⅰ」の専任教員等の配置における「教授1」から「教授2」に変更、「兼任・兼任0」から「兼任・兼任4」に変更。
 ・担当教員の充実の理由により、「建築計画Ⅰ」の専任教員等の配置における「准教授1」から「准教授2」に変更。
 ・専任准教授の新規採用の理由により、「環境共生住宅」の専任教員等の配置における「准教授1」から「准教授2」に変更。
 ・担当教員の充実の理由により、「ケア空間体験実習」の専任教員等の配置における「教授0」・「准教授1」から「教授2」・「准教授2」に変更。
 ・担当教員の充実の理由により、「2×4木造建築工房Ⅰ～Ⅲ」の専任教員等の配置における「教授1」から「教授2」に変更。
 ・担当教員の追加の理由により、「教職論」における「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。

【令和元年度】

・教育課程の充実の理由により、「Focus on Inter-Cultural Communication」、「Focus on Cross-Cultural Understanding」、「海外英語セミナー」を新規開設。
 ・教育効果の向上の理由により、共通教育科目の科目において、担当教員の見直しを行った。
 ・教職課程科目の充実の理由により、「木材加工」を「木材加工ⅠⅡ」、「金属加工」と「金属加工ⅠⅡ」、「栽培」を「栽培ⅠⅡ」、「教育工学」を「教育の方法と技術」、「カウンセリング」を「教育相談」に名称変更。
 ・教育課程の充実の理由により、「建築計画Ⅳ」を新規開設。
 ・教育内容の充実の理由により、「2×4木造建築工房」を「木造建築工房」に名称変更。
 ・教育効果の向上の理由により、専門科目の科目において、担当教員の見直しを行った。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
14 科目	159 科目	30 科目	203 科目	14 科目 [0]	163 科目 [4]	33 科目 [3]	210 科目 [7]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{203} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	146,191.06 146,319.06㎡	— ㎡	— ㎡	146,191.06 146,319.06㎡	大学全体		
	運動場用地	109,333.53㎡	— ㎡	— ㎡	109,333.53㎡	宮代キャンパス第2学生駐車場の敷地の一部を宮代町に譲渡したため(30)		
	小 計	255,524.59 255,652.59㎡	— ㎡	— ㎡	255,524.59 255,652.59㎡			
	そ の 他	29,752.00㎡	— ㎡	— ㎡	29,752.00㎡			
	合 計	285,276.59 285,404.59㎡	— ㎡	— ㎡	285,276.59 285,404.59㎡			
(2) 校 舎	専 用	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡	— ㎡	— ㎡	87,108.99 82,289.72 93,969.40㎡	大学全体		
	(91,397.40㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(91,397.40㎡)	食堂等・温室の取壊しを行い、新食堂を新築したことによる(30) 多目的講義棟の竣工による(元)			
(3) 教 室 等	講 義 室	77 67 84室	76 60 88室	307 306 283室	10 12室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
	演 習 室							
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			教員の新規採用による(30)		
	建築学部 建築学科		24 23 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	建築学部 建築学科	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638]	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868]	359 [311] 283 [256] 233 [213]	5,277 5,208 5,511	21,995 22,398 24,128	279 377 369	大学全体
		212,978 [49,231] 212,468 [49,179] (217,860 [49,910])	1,750 [960] 1,642 [905] (1,619 [873])	359 [311] 283 [256] (261 [225])	5,277 5,208 (5,181)	21,995 22,398 (24,128)	279 377 (369)	機械・器具は、教育研究機器備品登録数(技術経営研究科を除く) 標本は、工業技術博物館の常設展示品数 現数値に変更(30) 現数値に変更(元)
	計	212,978 [49,231] 212,468 [49,179] 223,485 [50,638]	1,750 [960] 1,642 [905] 1,622 [868]	359 [311] 283 [256] 233 [213]	5,277 5,208 5,511	21,995 22,398 24,128	279 377 369	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		施設の改修工事に伴い現数値に変更(30)	
	4,251.69 4,614.68㎡		473 545		161,389			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 ハンドボールコート・テニスコート・陸上競技場・野球場	
	2,669.72㎡		武 道 館 ア ー チ ェ リ ー 場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
	教員1人当り研究費等	800千円	800千円	図書購入費	700千円	700千円	700千円	
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	29,000千円	29,000千円	29,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次 1,567千円	第2年次 1,400千円	第3年次 1,400千円	第4年次 1,400千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		資金運用収入、手数料収入、国庫補助金収入等を充当						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	日 本 工 業 大 学									備 考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度	
基幹工学部										
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.12	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
電気電子通信工学科	4	170	—	640	学士 (工学)	1.04	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
応用化学科	4	80	—	360	学士 (工学)	0.79	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
先進工学部										
ロボティクス学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.06	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
情報メディア工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	1.21	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
建築学部										
建築学科	4	250	—	1000	学士 (工学)	1.16	平成30	平成30	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
工学部										
機械工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止
ものづくり環境学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
創造システム工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	—	—	昭和50	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
電気電子工学科	4	160	—	640	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
情報工学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	平成7	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
建築学科	4	200	—	800	学士 (工学)	—	—	昭和42	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
生活環境デザイン学科	4	50	—	200	学士 (工学)	—	—	平成21	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
工学研究科										
博士前期課程										
環境共生システム学専攻	2	15	—	30	修士 (工学)	0.40	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
機械システム工学専攻	2	35	—	70	修士 (工学)	0.65	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
電子情報メディア工学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.80	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
建築デザイン学専攻	2	25	—	50	修士 (工学)	0.34	—	平成25	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
工学研究科										
博士後期課程										
環境共生システム学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
電子情報メディア工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
建築デザイン学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成27	埼玉県南埼玉郡宮代町 学園台4丁目1番1号	
技術経営研究科										
技術経営専攻	1	30	—	30	技術経営 修士	1.33	—	平成17	東京都千代田区神田神保町 2丁目5番地2	

大学の名称	〇〇短期大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成29年)	該 当 な し		
設 置 計 画 履 行 状 況 調 査 時 (平成30年)	該 当 な し		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<建築学部 建築学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況
学長のリーダーシップのもと「教育研究推進室」を設置し、教育の改革、研究の推進に関する事項を企画・立案し、実施している。

② 実施状況

a 実施内容

○授業評価アンケート
学部、大学院博士前期課程において開講される科目（論文指導、ゼミナール科目等、一部の科目を除く）を受講した学生に対し以下の事項を問い、授業の質的向上への寄与を目指した。

①授業をふりかえってみよう
学生自身が授業を振り返る設問を設定。当該授業にかかる理解・習熟度把握、予習復習時間、疑問点があった場合にどのような行動をとったか（学修支援系センターを活用したか、第三者に質問したかなど）など。

②教員の教え方について
授業の運営実態（声量、説明の明快さ、授業時間の有効活用など）に留まらず、教員と学生間におけるコミュニケーション介在有無、クラス全体の受講態度、講義資料（テキスト、板書など）が予習復習に活用できるか。

③自由記述
「あなたがこの授業で最も印象に残ったことや得たもの」、換言すれば学びを通じて学生が成長できたかを問い、ネガティブな回答に偏らずポジティブな所見を見出すことも試みた。

○教員相互評価
授業のひとコマを参観して所見を報告するに留まらず、カリキュラムにおける科目の位置づけ、シラバスとの整合、評価方法などを含めた科目全体を評価するシステムを構築。参観者から寄せられた意見は批判的な見解に偏らぬよう、評価項目を【良かった点・参考になった点】と【改善を必要とする点】に細分化し、「…は良かった。しかし（参観者の本音は）…」と、参観者からきめ細かな意見を収集しやすい評価項目を構築。さらに、以下「教育改革シンポジウム」を授業参観前に開催し、当該学科におけるカリキュラムの骨子やディプロマポリシーなどの情報を全教職員が事前に把握したうえで授業参観に臨み、参観者の評価能力向上も目指した。

○教育改革シンポジウム（令和元年度現在までに59回実施）：全学で実施

平成30年度 教育改革シンポジウムテーマ

- ・第54回教育改革シンポジウム：教育改善2018の趣旨および共通教育と先進工学部カリキュラムの概要
- ・第55回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える
- ・第56回教育改革シンポジウム：学生のジェネリックスキルの評価と伸長法を考える（第2回）
- ・第57回教育改革シンポジウム：金沢工業大学における教育改革 ー自ら考え行動する技術者の育成ー
- ・第58回教育改革シンポジウム：授業評価2018「教育目的を達成する授業とは」
- ・第59回教育改革シンポジウム：将来構想委員会WG活動報告

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付けているほか、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を別途に開催。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、着任当初に全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。また、学部1年生必修科目「フレッシュマンゼミ」科目における学長講話を希望者に対し聴講できる機会も設けている。詳細は「b 実施方法」の項を参照。

b 実施方法

○授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートは、IR室が主体となり実施している。従来は紙媒体を介し実施したが、平成28年度からは教務課の協力のもと、同時期に導入したポータルサイトの「アンケート機能」を利用し、端末機器から記述・入力できる方式へ変更。これにより、集計時間の大幅短縮およびアンケート回収率向上等の効果が現れ、迅速かつ正確にアンケート結果を教員へ還元できる体制を構築できた。平成29年度以降はPDCAサイクルに即して設問を見直し、学生が一評価者となって回答するのではなく、既述のとおり、学生が授業を振り返り「授業を通じどのように成長したか」を問う枠組へと再構築した。

○授業公開・参観及び評価

授業公開は学科等の輪番制で実施し、教員は担当科目の中から1科目を公開する。授業を公開する教員は、カリキュラムマップ、シラバス、テキスト、授業、講義資料、試験問題等をあらかじめ公開し、公開期間は3週間/学期とする。教員と事務職員が授業を参観し、1人当たり1.2科目/学期、評価を行う。評価結果は所定の報告書に記載し、教育研究推進室へ提出する。同室はそれを取りまとめ、改善案等をコメントして当該学科へフィードバックする。平成28年度からは、学期末に公開シンポジウムを実施し、授業を公開した教員と評価した者との間で情報の共有および意見交換を図るのみならず、当該年度における授業公開・相互評価結果の総括を行う場を設けた。本学では単に授業参観をするのみではなく、評価の結果をレーダーチャートに図示し、科目を総合的に評価する仕組みを構築した。またPDCAサイクルをしっかりと回し、改善に結実できるプログラムを目指している。このほか、事務職員の参加により教職協働体制の構築も果たした。

○教育改革シンポジウム

教育改革・授業改善等に関するテーマについて、多くの教職員の自主的な参加を得て開催している。なお当シンポジウムは、教職員が参加しやすいように多くは午後5時以降に開始時間を設定している。

○ファカルティディベロップメント（FD）・スタッフディベロップメント（SD）研修会

上記教育改革シンポジウムをFD・SD研修会と位置付け、教育および研究における知見の共有を目指しているのみならず、5月末に「教育研究推進のための基本ルール説明会」を開催。公的研究費の使用ルール、研究倫理、安全保障貿易管理のほか、研究における安全を情報共有する機会と位置付けている。

○新任教員の研修

新任教員に対しては、全学共通で1～2時間程度の研修（説明会）を実施している。大学の概要・組織から年間スケジュール、授業実施のための基礎的事項、教学関係の情報等を説明している。また、新入生に対して学長が大学の歴史や綱領、および大学の学びに対する姿勢を話す「学長メッセージ」を新任教員も聴講し、本学の

教育の根幹にかかる部分の理解を深めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○授業評価アンケート

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教員相互評価

全教員が参加し、毎学期（春学期、秋学期）実施している。

○教育改革シンポジウム

令和元年度現在までに59回開催している。現在、約100人前後の教職員（教員の7割、事務職員の5割）が参加している。

○ファカルティディベロップメント（FD）研修会

全教員が参加し、年に2回程度開催している。

○新任教員の研修

毎年、新任教員全員を対象に研修を実施している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業評価アンケートの結果は教員へ還元されているが、従来はそれを授業に反映するかどうかは担当教員にまかされていたため、必ずしも有効利用されているとは言い難かった。しかし、平成18年度から開始した教員による相互評価は、教員の授業への改善意識を大きく変え、授業改善に役立っている。

その理由として、以下の理由が挙げられる。

①授業の参観報告書は、当初は授業に対しての改善点を指摘する批判的な内容に留まっていたが、相互評価を重ねていくにつれ、授業改善に結びつく具体的な内容の記述が多くなったこと。

②教室の規模が受講者数に対し適正か、マイクやプロジェクターなどの設備機器に不備がないかなど、授業環境の改善に寄与する意見が増えていったこと。

③平成29年度より「良かった、がしかし・・・」の報告書形式に改め、参観者の本音を引き出すことができた。また、参観者の意見に対し授業担当者が所見等をコメントする、コメントシートによる振り返りの機会を提供し、授業担当者が参観者の意見に対しフィードバックする枠組も構築した。

さらに、学生による授業評価アンケートと、授業参観を通じた教職員からの相互評価を、学期の途中で同時に実施することにより、学生の評価と教員の評価との異同を分析し、授業改善の評価を受けた同じ学期内で直ちに改善できる体制があることも良い影響を与えたと考えられる。

教育改革（授業改善）シンポジウムでは、授業改善や学生との接し方、学生が授業で得たものなどのテーマで報告があり、全学的な共通理解や教職員相互の意思疎通につながっている。

多くの教職員が、シンポジウムで取り上げたテーマや、シンポジウムで提起された意見・提案を意識するようになることが伺え、全体的な向上につながっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期（春学期・秋学期）実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を集計し、年次要覧に掲載している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

建築学部では、建築学の知識と技術を習得させるとともに、建築文化を継承しつつ社会の変化にも対応できる柔軟な思考力を身に付けさせることを教育研究上の目的としている。

また、建築学科は、「建築コース」と「生活環境デザインコース」の2コースを設けている。

「建築コース」では、建築・都市デザインと構造・環境エンジニアリングの2つの分野を設ける。講義科目で専門知識を習得し、設計製図で個性的な創造性を養い、実験実習で問題解決能力や発想力を習得させ、知識と技術に裏打ちされた状況把握能力、判断力、行動力、創造力、発想力を兼ね備えた建築の専門家となる人材を養成することを目的としている。また、「生活環境デザインコース」では、住空間デザイン分野においてインテリア設計や家具の設計・製作力を、福祉空間デザイン分野において福祉空間の設計やユニバーサルデザイン力を身に付けさせる。こうして、人と空間の関わりを総合的に理解し、生活者の立場に立って空間を創造できる力を習得させ、身近な生活環境の改善に取り組む専門家となる人材を養成することを目的としている。

平成30年4月に開設のため、在籍者は1年生のみであり、カリキュラム等に大きな変更はない。1年生は、「フレッシュマンゼミ」をはじめとする専門科目を通じて、学習スキルやモチベーションを高めると共に、将来を考えた学習目標を個々に模索しながら学習に取り組んでいる。

平成30年度以降における実験科目等の授業で必要な教育設備等についても導入計画が進められている。

平成30年4月より、学科の運営や全学的な調整等を担う会議として「教学運営調整会議」が設置された。今後は、新学部・学科の履行状況を的確に把握し、必要な事項を審議・検討し、実行していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- 平成15年3月 公表 (大学基準協会提出の報告書)
- 平成20年9月 公表 (日本高等教育評価機構の報告書)
- 平成23年5月 公表 (平成21・22年度自己評価報告書)
- 平成25年10月 公表 (平成23・24年度改善報告書)
- 平成27年4月 公表 (平成25・26年度自己点検評価報告書)
- 平成28年4月 公表 (平成27年度自己点検評価報告書)
- 平成30年4月 公表 (平成28・29年度自己点検評価報告書)

b 公表方法

- 図書館に自己点検・評価報告書を設置している。また、大学ホームページにも公開している(上記の公表時期参照)
- その他に、大学ホームページ上にも下記のもの公開している。
 - ・大学基準協会による相互評価結果、日本高等教育評価機構からの評価結果報告書
 - ・日本高等教育評価機構へ提出した報告書

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受け、大学評価基準に適合していると認定された。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 9月 30日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注） ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。